

# 川柳塔

昭和二十一年十一月九日発行（毎月二日発行）  
創刊大正十三年 通卷九八九号



日川協加盟

No. 989

平成二十一年度六賞発表

十月号

# 第15回 川柳塔まつり 川柳塔創刊85周年記念大会

## 《同人総会》

と き 21年10月12日(祝) 午前10時～11時  
ところ ホテル・アウィーナ大阪 3階 生駒の間  
(近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車・TEL.06-6772-1441)  
議 事 平成20年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告  
平成21年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

## 《各賞表彰式・記念句会》

と き 同日 午前11時開場・午後1時開会  
ところ ホテル・アウィーナ大阪 4階 金剛の間  
表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・樺欒賞・一路賞・  
各地柳壇賞の表彰式を午後1時から行います。

おはなし 「嘘の効用」 帝京大学教授・吉本興業顧問 竹本 浩三 氏  
兼 題 「招 く」 番傘川柳本社 田中 新一 選  
「シングル」 川柳文学コロキウム 赤松ますみ 選  
「長い」 川柳塔社 政岡日枝子 選  
「回る」 川柳塔社 川上 大輪 選  
「歳 月」 川柳塔社 板尾 岳人 選  
事前投句 「顔」(締切ました) 川柳塔社 河内 天笑 選

◎各題2句・欠席投句拝辞 ◎出句締切 正午(午後4時半終了予定)  
会 費 2,000円 当日いただきます。(記念品 呈)

## 《懇親宴》

と き 同日 午後5時～7時  
ところ ホテル・アウィーナ大阪 3階 葛城の間  
会 費 7,000円(会席料理)  
宿 泊 ホテル・アウィーナ大阪 8,000円(朝食付き)

## 《翌日観劇》

と き 10月13日(火) 開演 12時45分 終演 15時45分  
ところ 吉本新喜劇 なんばグランド花月 ☎06-6643-1122  
会 費 4,000円 要予約、先着25名様にて締切ります。

\*事前投句および懇親宴・宿泊・翌日観劇のお申込はチラシに刷りこみのハガキ  
(御希望の方は事務所)にて9月4日(金)までに本社事務所宛、お送り下さい。  
\*懇親宴・宿泊・観劇のご送金(句会費除く)は同封の振込用紙でお願い致します。

主催 川柳塔社 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号201  
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490

## 『川柳雑誌』から

### 『川柳塔』誌へ

麻生路郎主宰の『川柳雑誌』は40年8月号で終わり、40年10月号から新しく『川柳塔』として生まれ変わった。以下は川柳塔創刊号の1ページ目、主幹中島生々庵の巻頭言である。

「川柳塔」社が産まれた。

実はまだ保育室で静かに生活を送っている未熟児である。未熟児といっても、早産児でもなく奇形児でもない。四肢五臓五腑完全に整い生活力も旺盛である。ただ体重が2.5キログラム以下であるために医学上国際的約束で未熟児と呼ばれるわけである。

未熟児といふかわい生命力をどう護ってゆくかに就いて小児科医者にはきびしく申し渡されている心構えの条件がある。その中の二つ三つをあげて見る。

弱いともしびに、いろいろ処置をすればかえって、ともしびが弱くなったり、時とすると消えることがあり、

栄養も過剰に与えることは意味のないばかりでなく、栄養不足よりも危険なことがある。

「生命を救うこと」の方が「急速な体重増加」を考慮するよりも、より重要である。

いそいで大きく育てようとか自分のでがらにしようとか、そうしたあせりや功名心を出してはいけない。

「川柳塔」を逞しく明るく育ててゆく上に示唆される点が多々あるように思う。

宿命におろがみながら子を育て

生々庵

中島生々庵氏は大阪市南区鰻谷の小児科開業医であった。「川柳雑誌」後雑誌発刊のための常任理事会等は中島診療院の二階を事務所として使用されていた。

清水白柳、橘高薫風、不二田一三夫氏により創刊号の編集会議がなされた。

未熟児として生まれた「川柳塔」は立派に成人し、「川柳塔」誌は来年通巻一〇〇〇号を数えることとなった。

（主幹の体調不良のため、「川柳塔」誌創刊号の中島生々庵の巻頭言を掲載した。）



座右の句

少年の幾人いても毬ひとつ

(薫風)

私の句

おはようの奥でほぐれている目尻 吉田 幸子

## 川柳塔 十月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「湯 浅」

■巻頭言『川柳雑誌』から『川柳塔』誌へ……………	中島生々庵……………	(1)
「ニッポン」と「ニホン」……………	都倉求芽……………	(2)
川柳塔(同人吟)……………	河内天笑選……………	(4)
麻生路郎句抄……………	……………	(46)
川柳塔の川柳讃歌(58)……………	木津川 計……………	(47)
自選集……………	……………	(48)
温故知新……………	……………	(51)
水煙抄……………	川上大輪選……………	(52)
愛染帖……………	新家完司選……………	(72)
平成二十一年度……………	路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞……………	(76)
……………	檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞……………	

## 「ニッポン」と「ニホン」

都倉 求 芽

最近のテレビコマーシャルに奇妙な腰の振り方の女性が「そんなこと、どちらでもいいでしょう」と言うのがある。まさにその「どちらでも」と思われるのがまたまた持ちあがっているらしい。日本の国名は「ニッポン」か「ニホン」かと。もち論、国と国との問題には「ニッポン」が相応しいが経済、文化、娯楽において「ニッポン」を振りかざさなくとも「ニホン」の方が耳障りがよい場合が多いのでは。歴史的には「ニッポン」の方が古いらしいが語感的に追い追い「ニホン」になつたらしい。

早い話が紙幣には「NIPPONGINKO」と印刷されているが、銀行名は「ニホン銀行」である。その他「ニホン」組を列記してみる。日本放送協会、日本郵政公社、日本たばこ産業、J R 東日本、J R 西日本、日本航空、日本共産党、日本経済新聞、日本相撲協会、日本生命、日本交通、日本旅行、日本海、日本海流、日本画、等々枚挙に遑がない。それに対して「ニッポン」組はというと。

誹風柳多留一 一篇研究 50

檸檬抄「削る」…………… 牛尾緑良・高田美代子共選 …… (88)

追悼 吉田あずきさん …… (91)

一路集 「白い」 …… 齊藤 荔選 …… (92)

「この世」 …… 大内朝子選 …… (92)

「ペア」 …… 生嶋ますみ選 …… (93)

初歩教室 「星」 …… 鈴木公弘 …… (94)

秀句鑑賞 「同人吟」 …… 水野黒兎 …… (96)

「水煙抄」 …… 夏目一粹 …… (98)

九月本社句会 …… (100)

各地柳壇 (佳句地十選 / 松山芳生) …… (104)

柳界展望 …… (119)

十月各地句会案内 …… (120)

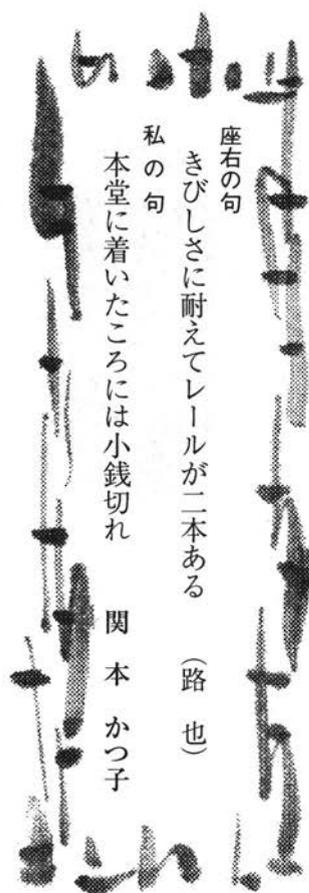
■編集後記 (ひとこと / 政岡日枝子) …… 尚士・光久・富美子 …… (122)

座右の句

きびしさに耐えてレールが二本ある (路也)

私の句

本堂に着いたころには小銭切れ 関本 かつ子



日本国憲法(当然)、日本通運、日本興亜損保、近畿日本鉄道、と探すのに困るほどである。

転じて私たちの川柳ではどうであろうか。

『川柳塔』誌六月号、七月号同人欄から拾ってみた。さすがに句の内容によって自然に読み分け得るように作句されてある。拍手。

四十年未だ日本へ向いてる目のり子

割烹着日本の女性なら似合う 房子

あんパンは日本製です盆にのせ 奮水

長調の歌が明かるくする日本 則彦

花吹雪日本列島かけ巡る 美智代

美しい日本世直し待つ庶民 武史

日本人こんなには野球好きなの 観子

北のテレビに昔の日本見えてくる 八千代

案内板ハンゲル英語日本語 まさよ

日本の春に乾杯してしまう 恵子

北鮮に日本帝国ダブってる 章司

日本にまだまだあつた義の心 茶人

誤報までして日本の格落とす 照彦

菊大輪 日本も支那も古い国 橘高薫風

頬かむりの中は日本一の顔 岸本水府

だいたい一つ一つの事象に対して膨大な語彙を有する国と第一人称さえもが「I」一語しかない国と同一に扱われては迷惑な話。

美しい日本語 肩肘張るニッポン語 求芽



河内天笑選

高知市 小川 てるみ

いい日だった言葉のキャッチボールする

八月六日あの日も空は晴れていた

飛べるまでそつと見つめていて欲しい

さりげない言葉へさりげなく返す

太陽を掴みそこねた豆の蔓

肉食系かも青よりは赤が好き

大阪市 升成 好

永遠という字に別れつきまとい

この目では見ることできぬうしろ指

善人の嘘はお鼻の汗に出る

疲れたらおいでなさいと森がある

蚊帳という時代おくれが流行りだす

メス蟬は無口と妻に伝えとく

吹田市 穴吹 尚士

地球から核廃絶の理想論

本棚に平和憲法積んである

末の子が独り立ちしてまた夫婦

恍惚のちよつと手前の物忘れ

もう一人産もうと思うマニフェスト

食べ切れぬほど買い過ぎた特売日

大阪市 森田 明子

騙し絵のようにゴールが逃げてゆく

ひとときの涼を運んできたトンボ

夕暮れの雲から先に秋がくる

言葉では伝えきれずに手を握る

予定など立てぬ気ままな旅がよい

土砂降りに打たれて罪を軽くする

堺市 村上 玄也

行き届き過ぎた親切気が重い

イケメンともてはやされるやわな顔

幼なげな顔で立派な嘘をつく

制服が凛々しい女性自衛官

パチンコへ行つてストレス溜めてくる

忘れ物か探し物して過ごしてる

大阪市 伏見 雅明

世渡りの節目ふしめにあみだ籤  
わが物と思えばダイヤよく光り  
手をあげてみんなで渡りけものみち  
アンテナをめぐらし耳をそばだてる  
水に浮く一円玉に自負がある  
お盆には無縁仏も花を抱き

豊中市 安藤 寿美子

毫碌という字が書けぬほどに老い  
幅広で外反母趾で靴がない  
布靴でどんな席へもおばあちゃん  
患者よりデータばっかり見てる医者  
私より先には誰も死ぬべからず  
決めました年寄としより言わんとこ

河内長野市 山岡 富美子

お喋りも腹八分目が礼儀です  
まだ進化しているらしい灰汁が浮く  
年金の浮輪に穴があいている  
お祝いの席にはいつも居る男  
磨き過ぎました地金を出しました  
立秋が過ぎても続く熱帯夜

堺市 柿花和夫

英雄を墮天使にしたドーピング  
入院食バランスの良さ味気無さ  
錆び止めにオンザロックと一行詩

よく出来たご主人ですと言う他人  
湯水のダムを避けてるゲリラ雨  
来し方のバランスシートの夫婦

高石市 浅野 房子

この道と決めたからにはひた走る  
もうあかんあかん食べるものは食べ  
ガス電気メカには弱い女達  
ノラ猫にかじられてるやせた脛  
いつ治るいつか治ると飲むくすり  
身の内に意のままならぬマグマすむ

大阪市 津村 志華子

追憶の森はいつでも青かった  
陽が昇る今日のファイトが湧いてくる  
地球の隅で音を立てずに生きてます  
歯医者での顔は誰にも見せられぬ  
枝豆とビールが好きな仏さま  
滑稽な案山子を守る千枚田

羽曳野市 徳山 みつこ

ドルもつと落とせとウインクするモアイ(イースター島)  
孤島にも地球の臍と言う誇り  
美男子のモアイの前でハイチーズ  
踏まぬようゾウガメトカゲアホウドリ  
植樹してお別れをした危機遺産  
満天の星に魂吸い込まれ

東大阪市 笠井 欣子

酔ってますソツと襖を開けてます

今のとこ脳はまともに動いてる

どこでも役に立ちます握りめし

スイッチで何でも出来る恐ろしさ

沸点を過ぎて冷たくなった妻

料理屋のトイレにメニニュー貼つてある

大阪市 原田 すみ子

ハイヒールと縁はとつくに切れている

靴擦れがパリの一日ふいにする

ジャージーと運動靴に甘えてる

孫の履くレインシューズは羽がある

浴衣着て素足の下駄に風が吹く

現実としばしば摩擦一本気

和歌山市 木本 朱夏

パソコンをひらくと深い森がある

パソコンのPの字あたりが水浸し

パソコンに脳の回路がシヨートする

MRIの三十分を死んだふり

時代から三歩ずれてるカタツムリ

飛びそこねた羽をこっそり陽に当てる

鳥取市 近藤 佳子

花吹雪浴びて以来の物心

家族居る我が家極楽だと気付き

友達のお通夜は知らん人ばかり

デザートの入る胃袋別にあり

ぶらんこに乗って別れた日が最後

赤ちゃんがわたしの指を放さない

島根県 伊藤 寿美

線香に傘さしかける桜桃忌

林立の風の無い日の風車

車椅子に道を譲った遊歩道

受け止めた胸板偲ぶ七回忌

周平に葉をはさむ蟬しくれ

胸の深いところで翔べぬ鳥が棲む

大洲市 中居 善信

マニフェスト子供が喧嘩しているよ

サバヒラメ棚の違いを心得る

信用をしない〇×のアンケート

ヒロシマへこだわる語り部の戦

優しさも短気も僕の素顔です

回らねば転げてしまう独楽の芯

鳥取市 有沢 せつ子

働けるよろこび朝の歯をみがく

にわか雨小止みを待たず子が帰る

バーゲンの魔術にかかり無駄を買う

新しい傘雨音もリズムカル

空き店舗元の商売うかばない

選挙戦声の津波が押しよせる

大阪市 池上清治

痛み消え医者へ報告つい忘れ  
天引きがひびき年金ぐつと減り  
優先席モラルの消えた世を憂う  
蟬の音で暑さが二倍にも響き  
全身で受け止めているドラムソロ  
心にも深々響く千の風

富山市 島ひかる

風車まわる別れの水子塚(月山にて)  
一握の砂からこぼれ出た誠  
お宝が巢立ちお宝連れて来る  
喜びが続くと後が怖くなる  
闇市でいのち繋いできた日本  
反戦の叫び消えゆく鎮魂碑

八王子市 播本充子

老人が街に還つて来た初秋  
ハーモニカ愛の賛歌へ息が切れ  
善人の部類に入れる無神経  
若さとは朝から肉が食べられる  
腰痛も完治一円玉拾う  
公道に寝そべって観る二尺玉

米子市 白根ふみ

一かかも知れぬみんなの輪を抜ける  
妥協許さぬなんて昔のことだった  
夜祭の子供のような喇叭飲み

その人よりは幸せなんだ生きねばと  
ごめんでは済まなくなつた物忘れ  
この星に蟬だけ住んでいるような

三田市 久保田千代

ひたむきに祈る女の白い指  
有頂天濃すぎた味に水を足す  
特別な日かテーブルの銀スプーン  
イエスノー聞かずに開く自動ドア  
早送りばかりしたがる過ぎた日日  
こだわって生きてこの世が面白い

大阪府 米澤俣子

チンドン屋新曲なのか息合わず  
閉店セール開店来の客の数  
家内中薬を飲んで長寿国  
両方をたててストレス溜めている  
滅多なことではたきは掛けぬ骨董屋  
大口を開けてパクつく振込機

田辺市 岡本昇

真っ直ぐに歩く夫の背なが好き  
跳び箱の踏切り板に自負がある  
没の句はリハビリさせて生かします  
一夏の汗の重みを抱く稲穂  
長話どうやら嫁のことらしい  
外出をするので入歯はめました

鳥取県 石谷 美恵子

度の過ぎた遠慮迷惑かけている  
草分けのときは同志であった筈  
身勝手を一人通した輪の軋み  
こころとは遠い言葉を口にする  
若いわかいと傘寿がかかる自己暗示  
嘘隠す花がひとしお美しい

富田林市 大橋 鐘造

名利に生きる匠のノミの跡  
行き先は知らずに乗った口車  
叩かれた数だけ視野が広くなる  
味方だと信じて呑んだ苦い酒  
口ぐせと思つて許す妻の愚痴  
反骨がグッドデザイン産み落す

神戸市 両川 無限

運命を自分で変えてゆく闘志  
怪獣を見る目で母を見てしまふ  
性善説ずっと信じていた誤算  
ピカピカに磨くトイレもわたくしも  
哀しみの足跡時が消してゆく  
屑籠にときどき僕が身投げする

鳥取市 永原 昌鼓

冷えた茶が乾いた喉に心地よい  
よく回る舌が時どき墓穴掘る  
ポーナスも中元もない夏盛り

穫れたての野菜が並ぶ道の駅  
新しい機器には暗い老いふたり  
失業の痛み知らない天下り

横浜市 菊地 政勝

難聴が進みピアスが邪魔にされ  
近所では評判が良い低い腰  
ケイタイの中毒多い電車内  
軽くみた自己診断に付けが来る  
相槌につられていらん事を言い  
斎場で自分の葬儀組み立てる

西宮市 片山 忠

竹光もたまに抜かぬとバカにされ  
アホぶっているが会社で鬼部長  
ご主人が取りそうだからせぬ電話  
ステテコでいいのは妻と犬の前  
楽しみは若者混じるバスツアー  
レンジでチンひとりの稽古させられる

東かがわ市 清川 玲子

あどけない口から凶星ついてくる  
ダンボールの家の窓にも見える星  
あふれ出す世襲議員もタレントも  
定年の余白は土と対話する  
遠花火戦の記憶甦る

横文字のレシビいく度鍋こがす

藤井寺市 鴨 谷 瑠美子

本も字も読めて幸せだと気付く  
先生の椅子に先生来て座る  
不器用だから直線を歩いてる

いつまでも古い手紙を捨てきれず  
充分に間をおいてから首を振る  
暫く会わぬうちに小さくなつた姉

米子市 政 岡 日枝子

落とし穴あるかも知れぬ月の闇  
味噌汁をのんで芝居的一幕目  
長梅雨に子等響かない運動場

水のもので身体に撒を飛ばしてる  
スーパでウオーキングをして帰る  
トンボも蟬も庭の穴場を知っている

八尾市 笹 倉 ひろし

戦中戦後芋づる重湯ヌカだんご  
夏休み小さな恋が泳ぎだす  
ハイブリッドカー持たぬメーカー悪あがき

世界新ラッシュで水着疑われ  
為政者の心に潜む核武装  
六十路なおひそかに灯る片思い

シドニー 坂 上 のり子

何もかもあいまいこれが心地いい  
食べるもの何でもあればいい独り  
超高級ホテルでトイレ借りた街

心地いい騒ぎ孫来て泊まる夜  
もうペットボトル買わないマイボトル  
聳え立つ山を仰いで暮らしたい

大阪市 井 丸 昌 紀

何となく出会いの予感途中下車  
だんじりの引き手も少子高齢化  
意外性ないので彼は人気者  
薄紅が似合う女に惚れている

曖昧に解決をするいぶし銀  
転んでもじっと見ている深い愛

藤井寺市 高 田 美代子

ワッショイワッショイ川柳塔のおまつりだ  
求め合うものあり強く握手する  
逃げ込んだ街で影法師とはぐれ  
のぞいて御覽と節穴がひとつ  
おちこんだ日には一緒に笑えない  
すかたんをしても笑って済ます人

鳥取市 岩 崎 みさ江

お静かにいま鯛の羽化さなか  
生え抜きを倒して生きる外来種  
不器用な口で直球受け損ね  
心配は欠点を継ぐ娘が二人  
天敵にまた天敵がいる調和  
金環蝕に溶けてしまったわだかまり

倉敷市 撰 喜子

親の背に書いてあるよう子がしてる  
じゃんけんぼん握り拳にある闘志

過疎にいて自然と遊ぶ科学の芽

酒飲んで陽気に騒ぐ日は孤独

洗濯のついでに心干しておく

真庭市 國 米 きくゑ

朝採りの野菜たっぷり皿に盛る

百日百態生きた証しの古日記

押し花のはらりこぼれる古日記

満天の花火束の間憂さ忘れ

日本丸必死のあがき汗しとど

真庭市 福 嶋 智恵子

雲掴むような話のマニフェスト

竜巻に豪雨何かが起こりそう

八月の梅雨明けしない怖い年

遠吠えの雷夏を連れて来て

人間のエゴが地球を破壊する

美作市 福 原 悦 子

ゆっくりと彩塗る夫婦未完の絵

我慢する逆境の風強くなる

土を愛し土と馴んでいる裸足

乗り越えた嵐に絆深くなる

暗算の心たしかむコンビニで

竹原市 岩 本 笑 子

たった二把のソーメン夏を耐えている  
汗じわり麦茶何杯でもどうぞ

両手広げて古里の山よ川よ

萩はらり耐えているのは私です

夏の花ガンを忘れることにする

竹原市 時 弘 一 路

さあ今日が始まる顔を洗おうか

今の今生きているんだ空の青

独りになれば一人がいいともう言わぬ

食欲旺盛人間様は日に三度

何も言わずに海は黙って聞いてくれ

府中市 岩 本 雅 代

不器用も笑って急場切り抜ける

八十の身も単車に乗れるだけの価値

玉の汗誰も褒めない終い風呂

夏祭り箆筒リレーで燃える街

苦瓜で元気もりもり夏を越す

府中市 藤 岡 ヒデコ

お天とさんの都合でのびた梅雨が明け

無視されて歪みになった足の爪

口相撲取れる夫婦が羨やまし

要る水も過ぎれば野菜へこたれる

老人が復活させた盆おどり

広島県 馬場利子

東かがわ市 原賢

挿し木した大輪の菊和ませる

ところ天好きな亡母の夏が来る

栓を抜くメルヘンの音色ラムネ玉

痒いところを構つてくれる夫がいる

不景気も痛いほど知る農婦の手

美祿市 安平次 弘道

チャンス今罪の意識を無駄にせず

付け足してはみたが命の軽さかな

オブラートに包み静かに生き延びる

マジシャンのきれいな嘘にひっかかり

クイズならいつかはきつと解けるだろう

宇部市 平田実男

モンゴルの国技になつた大相撲

松茸を今年も目鼻だけで食べ

絵に描いた餅の隣にマニフェスト

当選を重ねるたびに墮落する

菜園に金では買えぬ茄子トマト

東かがわ市 川崎ひかり

読みかけの本を枕に高いびき

いつ見ても客の影ない喫茶店

鯨尺父が威張っていた時代

ラストにはリハーサルしない式が待つ

悪妻じゃないが良妻とも言えず

狭くとも家賃のいらぬ家に住む

忘れてた方言ぼろり転げでる

すらすらと住所氏名がまだ言える

朝市でいびつなきゅうり買つて来る

逃げ足の早い男で勝ち残り

東かがわ市 伊勢八重子

見え透いた嘘も鵜呑みに共白髪

人のアラ探す自分が嫌になる

体力が悲鳴を上げる旅プラン

紫外線負けてはならぬ厚化粧

ここ一番耐えて結果が付いてくる

西予市 黒田茂代

元気だけが取得いつまで言うおれる

明日は闇上手に今日とつき合おう

月五キロ二人の命つなぐ米

天の橋立ウォークで精気貰ろてくる

九谷の壺形見に弟が逝つた

松山市 高橋宏臣

トマト熟れて思い出話し長くなる

雲ずんずん月のおもわくなど知らず

無垢になりたくてカラスが水浴びる

押し出され先を読んではるところでん

弦楽器些細なことで鳴っている

松山市 宮 尾 みのり

花の絵の壺に活けられ落着かず  
独り居の気楽孤独も受け入れる  
思いきり鉦を叩いている同居  
右足を庇うと左足疼く  
保護色のように隠れる森を持つ

松山市 古手川 光

ドンと揚がる花火お金が消える音  
選挙戦の間は汗をかいてはる  
ふる里に帰った毯はよく弾む  
秒針が人急ぎ立てるビルの街  
マイペース時計を知らぬ蝸牛

高知県 小澤 幸 泉

週末にまた呼び出され妻達者  
イヤリング二十歳も若いひとにほれ  
遠足の思い出になる終戦日  
消しゴムで消えない文字を書いている  
漬物に埋めたか細い母の指

唐津市 山口 高明

南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏生きている  
使途不明なんてお金のある役所  
投身の男に見えた花の園  
芋ばかり食べて育っていても嫌い  
喪章した香典ド口が紛れてた

唐津市 坂本 蜂 朗

もの言えぬ老母が笑顔で有難う  
一族の最高齢を目差せ母  
この頃は嫁へ笑顔の多い母  
この笑みで母を許してくれよ妻  
老母よりは先に逝かぬと覚悟する

唐津市 市丸 晴 翠

受話器から不意に昔の名を呼ばれ  
献身の妻絶滅の恐れあり  
核心に触れると黙る悪い癖  
ライバルは頑張ってるな窓明り  
剪定は夫片付け妻の役

唐津市 樋口 輝 夫

先輩に仕事も酒も教えられ  
術策に溺れ苦戦の自民党  
女房に袖を引かれて義理を欠き  
せっかちが居るから話落ち着かず  
オクターブ上げ懸命な選挙カー

唐津市 井上 勝 視

こんな世に未練あるらし葉のむ  
盆灯籠つい口に出る千の風  
変る世に待ち続けてた燕尾服  
四季問わず至福に浸る仕舞風呂  
欲言わず気楽にゆこう飯の宿

熊本市 永田俊子

弘前市 高瀬霜石

昔はと言いたくなるから困る

算盤を弾いた途端秋になる

別の私がおーいお茶と言ってみる

蜘蛛の糸なのかもしれない薄明かり

信じないが運勢欄に目が止まる

本いくら読んでも賢くはならぬ

ダム底に丸くならない石がある

犬にまで軽くみられていた父だ

禪という字を麗人知っていた

賑やかで大根足でわが妻で

熊本市 高野宵草

弘前市 岡本花匠

いたずらな天使浮気な矢をくれた

金環食のお祝い貰う新夫婦

交通禍訊けば私もやりそうな

食い止めたいのちに感謝八十路行く

内緒だと渡し親馬鹿苦笑い

花野行く至福のふたりわらべ唄

生まれつき美女と私にある格差

シンプルな人生でした悔いもなし

お願いの筋が解らぬ丁寧語

山門に金網張られ鳩もうつ

熊本市 岩切康子

弘前市 福士慕情

別れかも知れぬ俎上を決意する

国ことばキョトンと子らに通じない

回復の先輩からのアドバイス

味よりも値段で決める幹事役

五年振り同医師頼り受診する

年金で飲ませるママがモテている

貯血したバック持つてく手術室

シャツの袖捲りあげてる大ジョッキ

試歩の我れ凝視している夫の顔

青池の水 悠久の彩で溶く

砂川市 大橋政良

弘前市 櫻庭順風

お喋りの舌につけたいすべり止め

膝疾患医師選択の難しさ

ぼんやりと夢のつづきを追っている

診察にひねもすかかり不安増す

物忘れなんかに負けていられない

診察の時間まだ待つ午後8時

邪魔になる年まで生きてみたいもの

7時15分診察券を出す安堵

日めくりをめくると神の目があった

待つ時間長く転院考える

弘前市 須郷井蛙

黒石市 佐藤古拙

給付金出したが票に生かされず

Yシャツの汚れくらしが見えている

尼寺ととても思えぬ美人達

五七五そつと手紙の脇に添え

ピノキオの鼻折れやつと目が醒める

弘前市 高橋岳水

妥協せぬ指も加えて握手する

己が非を認めて生きるのも男

晩学の愉しみ知ってから老いず

人間が好きで時どき午前様

胡散臭いマニフェストを見較べる

弘前市 相馬銀波

命日の花は花屋で買い手向け

はいいいえ下手な返事が致命傷

食欲をさそう私の夏りんご

母の手の味をよろこぶにぎりめし

ないないで通らぬ義理が押し寄せる

弘前市 今 愁 女

梅雨明けも無しに立秋虫の声

生きものよに地震洪水列島に

難儀やなぐつたりしつち上がり

女神死神 災難神もいるらしい

盂蘭盆会迎え火を焚く平和なり

座禪草ついのすみ家は譲らない

ビル谷間ヒト科無言ですれ違ふ

ビル街はみな無機質の貌ばかり

限界の里で生れて散る覚悟

山鳩が読経のリズムととのえる

黒石市 相馬一花

獅子舞で津軽の秋を演出す

乙女から女に化ける日の決意

くねくねとベリーダンスで挑発す

縁切りはしても切れない血の絆

許してと女房を拜む浮気癖

平川市 小寺花峯

ときどきは罪を背負って煙草吸う

ポイントで今日は夕餉の豪華版

歯槽膿漏歯軋りなんか出来ませぬ

残り火を追い求めてる亀の足

明日もある凸凹道で陽は落ちる

青森県 松山芳生

遠い日の夢水色のまま残る

息抜きのマンガで元氣取り戻す

目覚しの鳴るまでベッド温める

好きだからあなたの傘で半世紀

ほめられてばかり賑わう生前葬

さいたま市 星野育子

給付金世の中何も変らない  
紙辞書も電子の辞書も離せない  
若者が生活保護に頼る国  
裏にした社章気になる終電車  
これからは余計なことは考えず

武蔵野市 亀井円女

ひと言に五倍は返る娘も六十路  
二ヶ月ベッド五キロスリムにおめでとう  
卒寿のおやつプリンたこやきカステラ  
各党が知恵をしぼったマニフェスト  
おとんにお母ん温いやさしいええ言葉

東京都 清原悦子

定形に納め切れない感謝の意  
洗濯をしてから今日が動き出す  
太陽が欠けて宇宙のロマン追う  
衣食住十分足りて乾く街  
新米を研いで窓から秋の風

東京都 岸野あやめ

その椅子に敬意を払うことはない  
高層のビルを絵にする秋の雲  
梅漬けたまではいいけどヤキモキと  
土用干し仕損ね機嫌わるい梅  
マンネリを嘆く私の作句帳

横浜市 小野句多留

文句ばか鏡が君も老けたなあ  
空港の帰路で外貨は使い切る  
天候の不順仕返しきつと来る  
玉碎を覚悟の総理夏の陣  
盛会裏含み笑いも出る幹事

川崎市 三浦きぬ

どうしても波長の合わぬ人は避け  
縫いぐるみ愛猫何も語らない  
好きだよと言った貴方は先に逝き  
偕老同穴達成しそう老夫婦  
政治家の公約未来はバラ色だ

静岡県 藪田猷杏

感情のもつれを抱いて梅雨さ中  
ツバ広の帽子に秘めた夏の恋  
陽炎の向うゆつくり車椅子  
じつくりと耐えてチャンスにめぐり会う  
国民をそっち除けて選挙戦

可児市 板山まみ子

終戦日汗ほとばしり蝉しぐれ  
美容院女だけではないお客  
うまいものこの世のうちに食べておく  
居心地はよいがこの世は期限つき  
死ぬまでに残さず使う運と金

犬山市 金子 美千代

ど忘れがふつと浮かんで来た湯船  
賢そうに見える無口を真似られず  
原点に戻るチャンスだこのピンチ  
世間の目気にもせぬほど強くない  
今日もよく動いた足にありがとう

犬山市 関 本 かつ子

常識の盾に向っていく若さ  
うるさいと思う不仲の家の犬  
生きるためにだけ働く顔が増え  
五年先みんな揃っていたい顔  
五つ星ホテルの横に今日の宿

犬山市 吉 田 幸 子

フラダンス歳は目じゃない波に乗り  
梅雨明けぬブル身振りしてはしゃぎ  
何くそが難儀な道を歩く破目  
テレビ観て勤中の雲隠れ  
勧誘の電話婆々にも子にもなり

愛知県 早 川 遯 行

運のない男の株価また下がり  
家でじっとしているのも疲れます  
駅へ着くたびに切符を捜しだす  
夕食後野球見るしか能がない  
困った時だけの神様仏様

京都市 高 島 啓 子

シンブルな靴で何方にでも合わす  
二度結び緊張させる靴の紐  
スニーカーから登山靴へと趣味進む  
下駄はいて遊ばせている足の指  
魚の目は育てぬイタリアンシューズ

京都市 坪 井 孝 一

表情で損する事が多過ぎる  
お互いに世話にならんという夫婦  
最近の妻の陽気が気にかかる  
居酒屋へいざ大法螺を吹きにゆく  
暇な夜はあの店へゆくホットジャズ

京都市 榊 本 宏 子

ハイハイハイ親の繰り言耳通過  
張り紙が人待ち顔の店じまい  
秋の手抜き仕返しされる春の庭  
行く末は手探りでゆくひとり旅  
美辞麗句人のところは奪えない

京都市 西 村 益 子

リフォームも余命考えこの程度  
明日よりも今をしつかり生きてゆく  
両親を送った妻の力こぶ  
計の知らせ前ぶれもなく飛んで来る  
カレンダー剥ぎ取る時の爽快さ

京都市 三宅満子

打ち寄せるゴミも多様化多国籍  
モーツアルトとコーヒー薫る朝涼し  
異変だなしんみりと降る雨がない  
猛暑続きなのに暦は立秋に  
定年後野良着になった白いシャツ

亀岡市 井上森生

宿願の富士の高嶺をゆつくりと  
シニアにも気力を湧かす両手杖(ストックウォーク)  
日本の力は富士にあると知る  
目標は気高く聳え立つが良い  
朝顔が咲いたら孫がやってくる

長岡京市 山田葉子

港へと帰るヨットが風を読む  
不自由さに負けぬピアノがのびのびと  
コメントのやさしいひとに救われる  
自己主張まだ足りない白いシャツ  
男まだ野心の炎あたたためる

大阪市 榎本日の出

御先祖に感謝盆にはまた逢える  
乾杯の音頭を下戸が取らされる  
ほどほどに疲れて眠るいい寝息  
自分より心配してる子の未来  
少しずつ毒が溜って肥満体

大阪市 坂裕之

八月を負けてなるかと乗り越える  
失敗を恐がっていた見栄っ張り  
元氣ならいいか不足もあるんだが  
背伸びして先を行くから蹶躓く  
お手柄を立てたつもりが勇み足

大阪市 津守なぎさ

メモ書きに振りまわされる旅前夜  
御近所がゴーヤの出来を賞めそやし  
はしゃいでた頃忘れぬ水都祭  
派手すぎるパンツも入れる旅カバン  
全世界見守る宇宙ステーション

大阪市 榎本舞夢

奥さんと呼びかけられて買い過ぎる  
お人好しお節介して損してる  
ごはん粒拾って食べた頃思ひ  
約束をストンと忘れ澄まし顔  
紅一点わたくし姫になつたよう

大阪市 鶴田遠野

捨てられぬ故郷に戸籍は置いておく  
変換キー叩きストレス閉じ込める  
禁酒禁煙微調整する命  
記念日に妻が求めるマニフェスト  
不自然な一日にする休肝日

大阪市 福岡末吉

髪斗もつけ裾分けしたい妻の愚痴  
休肝の全う祝い繩のれん

思い遣る心が満ちるわが日誌

ほどほどの言葉で濁す義理人情

阿波音頭卓袱台たたく夕餉の灯

大阪市 熊代菜月

また一人昭和の花が消えてゆく

嘘をつき嘘をつかれて五十年

後にも目が付いている仏さま

疑いを知らぬ故郷の老いた母

父さんの家族を守る力こぶ

大阪市 小泉ひさ乃

演し物で裏方にまで風が吹く

飛べる窓あるのに高層恐怖症

傷口へ日にち葉で馴れていく

いよいよと思う脳トレ倦怠期

子と孫の絆ケータイストラップ

大阪市 古今堂蕉子

外面と中身の落差知って妻

うまいこと言うたジョークがはねている

梅雨明けの雷今日は海の日

ええ人や思たら思うその人も

時期変えて読めば本にも別の味

大阪市 奥村五月

給付金嫁が優しくなりました

ドッコイシヨ腰を降ろせばアアしんど

大食の夫喜寿にも入歯なし

早死の親にもらったこの元氣

ほめあげて詐欺師ゆっくり攻めてくる

大阪市 小谷集一

カルタほど診察券を束ねてる

波立てぬ夫婦が守る車間距離

禁酒禁煙長生きへ茨道

一花を咲かす余力を留めている

良いとこ取りした自分史の自画自賛

大阪市 平嶋美智子

ねむい時に眠っています夏最中

あと十年生きたい預金もたせねば

出る度に戸締り不安まとい付く

披講終え反省しきり初の選

声変り孫は亡夫の声に似て

大阪市 中村叡子

何か変物が溢れて不景気で

日食を二度見る長く生きました

政治家は使命ではない家業なり

災害時ヘルプ遅まし自衛隊

乏しくも孫には惜しくないお金

大阪市 岩崎 玲子

折り返し軽い懺悔で行くつもり  
老いの足知恵もまぜてる未来地図  
晩学に欲がすぎてへたり気味  
本の帯魅せる言葉につい釣られ  
どの辺から喜劇にするか老いの策

大阪市 小糸 昭子

体重計すっかり水気拭いて乗り  
オブラートあの子の心包もうか  
はり鼠のように笑わぬ女居る  
うちの猫せめて助役にならないか  
梅雨空と油断してたら山崩れ

大阪市 中村 れんげ

玉音にひれ伏した日の蟬時雨  
猛犬に注意それよりこわい人  
捨て犬をうらやむ檻の血統書  
休刊日新聞好きもホツとする  
荒波にもまれて丸い石となる

大阪市 松尾 柳右子

暑い夏計画通り行かぬ日々  
二人居に隔日にする洗濯日  
白桃のしたたり今日の幸思ふ  
ただいまの声で過ぎし日思ひ出し  
献立を夫してくれて食進む

大阪市 澤田 定子

ガソリンの価格動かす資金力  
引力に逆らい妙技宙返り  
お酒駄目パパへ一声女の子  
浮世絵の再版みごと魅る  
長い梅雨猛暑うんざり温暖化

大阪市 神夏磯 典子

幸せは手の鳴る方を知っている  
若田さんもおなじ人間だったんだ  
有難く悲し障害保険証  
一生を愛し合ってる二枚貝  
艶が出て私の机捨てられぬ

大阪市 板東 倫子

隠れ家が欲しいこの世は都市砂漠  
満月も参加宇宙の星祭  
ソマリアの子は海賊になる運命  
大人であり大人ではない十八歳  
山好きの老人襲う夏嵐

大阪市 川端 一步

山登りポロリポロリと垢がとれ  
よくぞ夏越してきたねと秋の風  
酒飲めば路郎水府も呼び捨てに  
秋読書軟らかいものしつかりと  
生誕百年彬に薄日差してきた

大阪市 谷口 義

血圧のグラフをつけて夏終る  
枝豆にビール現状維持もよし  
四分六で母方の血が騒いでる  
階段を上る階段だけを見て  
ご先祖が判つてくれるだけで良い

大阪市 吉村 一風

湧き水の神に祈りの手を洗う  
楽しみをそれぞれくれる友の居り  
不器用で正直者と妻笑う  
頑固さがあればまだまだ老い達者  
適当に負けて余生を生きのびる

大阪市 岩崎 公誠

横ばかり向いてる勇氣に入らぬ  
にんげんの骨に沁みてるのは五欲  
自分の目信じているがピントずれ  
一本の注射もしない医者が好き  
どこまでもスローを通すかたつむり

大阪市 近藤 正

核の傘世界遺産にでもするか  
姥棄て山再開発が始まった  
政界の地殻変動秋の陣  
財源は埋蔵金をあてにする  
彬忌が新歳時記に載れば良い

大阪市 大川 桃花

絶景に座れば蜂に威嚇され  
どうしても光る頭に向く視線  
うとうとの顔が浮いてる仕舞風呂  
しがらみを教える亡父の雑記帳  
吸いすぎてヨタヨタ逃げる蚊にピンタ

大阪市 江島 勝弘

もうええかうらみ晴らそと思ったが  
もう一杯飲みたいときがあるんです  
もうあかん あれほど念を押しなのに  
もうええはあんたは何もできぬ人  
もう少しやさしくしてよお母さん

大阪市 田浦 實

力いっぱい泣く赤ちゃんは良く育つ  
うるさいなどとても言えない老妻に  
涙が出るくらい笑つて凝りが落ち  
番傘にはじく雨音懐かしい  
あうんより言葉で本音言つとくれ

大阪狭山市 矢野 梓

麦藁帽野菜作りがよく似合う  
クーラーの風が嫌いと言われない  
今年またどんな王子か甲子園  
お悔みの言葉涙が先になり  
思い出を残してくれた友が逝く

和泉市 横山捷也

ペアで来て他人装う席に居る  
風鈴をひとゆすりする熱帯夜  
中くらいの幸せの日々サンマ焼く  
合鍵も錆びてふるさと母一人  
不揃いのキユウリが持つている個性

泉佐野市 山本蛙城

どれがどう効くのかサブリメント飲む  
来た道に仕残したこと山のように  
一円を拾って拭いて撫でてやる  
雨無情二度もノーゲームの球児  
ちよい借りののできる友あり救われる

茨木市 藤井正雄

背信の重さを隠すサングラス  
誘われた酒にからくり浮いて見え  
駅裏の安い美味いが明日の糧  
貝になり義理のお見合いやっと終え  
悩みごと森へ答えを聞きに行く

池田市 栗田久子

刈り終えた棚田の夕月が淡い  
秋風を人の気配と振り返る  
言い訳の前にごめんと言うつもり  
彼岸花いつもの秋を忘れない  
撰生を促すりんどうの品位

交野市 森本弘風

階段は手摺りが頼り上り下り  
飲み過ぎに注意お酒もお薬も  
妻のため命を延ばす酒を飲む  
終電車美女が凭れてくれました  
ひよっこりと文庫本から論吉殿

交野市 山川日出子

阿波踊り母の手ほどき笠と下駄  
ゴマ豆腐活力の元修行僧  
摩訶不思議七変化する富士の山  
登山者を山伏不意に肝試し  
ブラジルのサンバが土産孫踊る

河内長野市 植村喜代

一日が大事と思いがら終る  
無心に遊ぶ孫見てよくぞ生れたね  
気晴らしに友へ電話を掛けて見る  
考えると辛くなるから忘れとく  
シルバーさん来てくれました庭の草

河内長野市 黒岩靖博

リストラで茨の路が待っている  
貝殻のネックおしゃれなフラダンス  
終戦後代用食はだんご汁  
東京を廃墟にすると北の国  
試供品もらった後の電話攻め

河内長野市 水谷 正子

岸和田市 原

さよ子

今だから言える事実逢う葉月

受験地獄一山越えて職地獄

何くそと畏敬も混じるケアホーム

賢いと敬遠されるケアホーム

笑い皺出来て楽しいケアホーム

河内長野市 井上 喜 醉

国民に採点をさすマニフェスト

讃岐まで千円高速うどん好き

後世へ駅名だけになった橋

汚れたら地球が狂い出す怖さ

アイドルの麻薬テレビで宙に舞い

河内長野市 坂上 淳 司

勿体無いと残さず食べて太る妻

飛車角行を惜しみ玉将召し捕られ

高齢者登山ツアーは命懸け

バス連ね駆け足で行く遍路旅

よくあんな値段で行けるツアー旅

河内長野市 村上 直 樹

冷戦に孫を通して諸連絡

ナツメロの取りはやっぱりひばり節

医者代に不意を突かれてまた赤字

チヨイ太が丈夫主治医を信じます

ひたすらに背かず媚びず亀の意地

夫がゆき心に杖のほしい日々

亡夫への悔い今もなお胸に住む

話しかけへただほほえみをかえず亡夫

足がもういうことかぬシヨッピンゲ

もう時効笑って話す恋話

岸和田市 森 元 ふみよ

母さんがエアロにめざめいい女

意見など聞かぬオヤジが孫にハイ

老夫婦アレソレウンで事運ぶ

時効なし五十年前怪事件

鏡みて皺しみたるみ人生図

岸和田市 林 力 子

メイドインジャパンを真似る他所のくに

児の微熱さながら祖母の掌は名医

返信のハガキ一言添えて欠

断って未練が疼く独り酒

町内の役を断る診断書

岸和田市 岩 佐 ダン吉

こだわりと言う難敵と対峙する

一瞬の勇気私が出遅れる

一步譲り少し心が晴れてくる

論争になると私は少数派

三食は当り前だと思つてた

岸和田市 堤 植代

ブラの笹捨てず来年再利用  
長梅雨で満艦飾の部屋狭し  
何事も笑って飛ばすことにする  
悪口は言いたくなくて口を閉じ  
間がぬけて老いの会話がおもしろい

岸和田市 土橋 房枝

夏来れば冬懐かしむあまのじやく  
ブランドの器やさしく扱われ  
プライドで靴の後ろは踏まぬ人  
子育てもロボットがする近未来  
だんじりが体中の血踊らせる

岸和田市 井伊 東吉

雨上り待ってましたと蟬時雨  
頼もしい飼育鈴虫よく食べる  
七十路のコーラス元気老い無縁  
除草剤効かぬ十葉したたかに  
血の浄化目指し玉葱うんと食べ

岸和田市 雪本 珠子

秋風が持ち去ってゆく夏の恋  
心の輪広げて相手思い遣る  
何となく心残りな擦れ違い  
温もりと癒しを猫に貰つてる  
音楽で心の隙間埋めてある

堺市 齋藤 さくら

夏ばてのはずがあちこち太り出し  
財源の目処がないのにマニフェスト  
この雨のおかげか胡瓜でかい顔  
ひかえ目の冷房してる百貨店  
アイドルの話題選挙の上に行く

堺市 源田 八千代

荒れ狂う猛牛の年天地人  
列島に地震台風ゲリラ雨  
旅先へ安否確認するメール  
緊急時頼れる近所ありがたい  
一連の仏事納める高野山

堺市 奥時 雄

薄くても大型テレビ畳めない  
二世なら農家は疾うにやめている  
ミスに慣れ笑って済ます人になり  
辛すぎる何れ一人になる夫婦  
このままじゃ仏になれる自信ない

堺市 山本 半銭

私だけの時計で夢を紡いでる  
咲き誇る大輪一夜限りとは  
惜しくない命と言うて薬飲む  
一休みまた走り出す粘り腰  
都合よく遠くなったり聞こえたり

堺市 矢倉 五月

親バカを卒業したらペットバカ  
皿積んで回転ずしもいいもんだ  
惜しいけど免許返上今のうち

恥じもせず知らん解からん言える年  
夫にはついひと言のおまけ付け

堺市 近藤 豊子

夏風邪の熱へとろとろ ところてん  
わらびもちきなこの浜に冷えてます

かき氷いちごの蜜にくち染まる  
かき氷泣いていた児が匙をなめ  
虫のこと星のこときく豆博士

堺市 加島 由一

咳と熱ただの風邪ならいいんだが  
愛隣に青い目の客増えた何故

気がつけば泣いて笑ってルビー婚  
城取りのようなムードの総選挙  
タレントをしてます夢は総理です

堺市 志田 千代

それはエコケチなんかではありません  
しがらみの宅急便が行き来する

偉くなり冗談を言わなくなつた  
オメデトウ存じています裏話

台湾の老人日本語を話す

堺市 宮本 かりん

自信ありげな言葉の背についてゆく  
毎日はやはり馴染んだ味がいい

ああ言えばよかつたのにと済んでから  
特急の窓で寝ているフルムーン  
引き潮のようにジャーネと娘ら帰り

堺市 西村 りつえ

ごろごろと暑さ負けにも三度食べ  
年毎に肉より魚に箸が向き

ハイヒール出番失くした関節炎  
眼の縁も黒ずみ出して夏疲れ  
素晴らしいルックスなのにながたりたて

堺市 大久保 のん子

人の世は当り外れに操られ  
カルチャーへ行こう心の洗濯に  
いやなこと耳に栓して丸く生き

姉妹でもこんな違う生きた道  
貧政へくさび打ち込む時がきた

堺市 荻野 象山

豊かさに溺れ三K勤まらず  
鶴の一声カカア天下に逆らわず

付き合いの場では親しく酒を酌む  
お互いの見た夢語り合う朝餉

母さんを泣かせた罪で面倒見

四條畷市 吉岡 修

吹田市 野下之男

あの訛りきつといい人だと思ふ

小癪なりと金ごときに王手くう

好きですと言うてましたが時効です

宴なかばもはや虎組羊組

アメリカに焼かれたうちを忘れない

吹田市 大谷 篤子

恋心秘かに燃えて六ヶ月

ブタ人形寂しい日には添寝され

慕う人いる幸せの化粧する

太陽に育った甘い野菜達

月おぼろ切ないままの夜もある

吹田市 山本 希久子

手さぐりの闇病院の廊下行く

年金の砦の中で泣く笑う

価値観の違いを悪と言いつれぬ

最後には自分信じる他はなし

月光にあぶり出される我が余罪

吹田市 木下 敏子

モロヘイヤ育て毎日ねばってる

ねばねばを食べて暑さを泳ぎ切る

ひとり居てお手軽料理身につける

することがあつていい汗流してる

あきらめるのはまだ早い靴の紐

これ以上働きません高齢者

神様に罰されている異変かも

日記には借りたお金を書いてない

おうむにも挨拶された嬉しい日

一杯で幸せを待つカフェテラス

吹田市 太田 昭

古傷の癒えず灼熱八月忌

最期までダンデーだったなあ柩

キャンセルの利かぬ冥土を予約する

能面に本心隠し舞い終える

自分史に不倫のひとつ入れておく

吹田市 瀬戸 まさよ

お墓には入りませんと墓参り

ハモの子を真っ先に買う魚好き

冷蔵庫買い替えてからやる気出た

突然の水やり蟬を怒らせる

冷ややかなお人だ苦労していない

吹田市 須磨 活恵

裁ち切った後の淋しさ身の軽さ

懺悔する形で枯れる向日葵よ

加茂茄子の田楽食欲をそそる

朝はパン昼はお粥で腹七分

柿の実が色づくほどに天高し

高槻市 乙 倉 武 史

八月の日記は鬱が目白押し

出来難い夢山盛りのマニフェスト

政争の天下分け目にけりがつく

甲子園熱闘球児燃える国

応援に喉を枯らして冷やビール

高槻市 安 田 忠 子

タイガース後半出すか底力

怠け癖今日も一日ただ過ぎる

八月に梅雨明け今日は原爆忌

打ち水と梅酒ロックで暑氣払い

若田さん無事に帰還し大拍手

高槻市 井 上 照 子

雨つづき晴れ間を縫って蟬の声

恥じらいを忘れた姿恥ずかしい

亡き夫の笑顔夢みた盆提灯

検査入院まだまだ明日にあいたくて

歌手デビュー汗と涙を物語る

高槻市 生 田 義 一

さあ決戦祖父の禪しかと締め

ともかくもやらせてくれと民主党

後一と月首を洗って待つ候補

八十路まだ胸のときめく出会いあり

梅雨晴れ間乗客一人故郷のバス

高槻市 富 田 美 義

女房に無口の強さ教えねば

清貧を重ねたところ衣更え

喜怒哀楽うたい続けた再生紙

ゴマほどのダイヤで釣った味方いる

強欲が過ぎて戻れる道がない

高槻市 左 右 田 泰 雄

年重ね心も背も丸くなる

力まずに八十路の坂をゆつくりと

痛いところ突かれて顔を強張らせ

背のびして足踏み外す高望み

晩酌はちよつと薄めの鬼ころし

高槻市 佐 甲 昭 二

他人事と思えぬ明日の車椅子

同病とわかり奇妙に打ち解ける

親展の封筒そつと切る鉢

からくりの紐を解かれる定年日

読んでいるうちに会いたくなるハガキ

高槻市 峯 村 勲 弘

リサイクル生かして使うレアメタル

ピンチにはプラス思考の応援歌

長生きの秘訣努めてよく笑い

迷いつつ古希まで生きて来た誇り

老い二人鳴ることもない古ピアノ

高槻市 執行 稲子

わだかまり溶ける日を待つ夕茜

たんたんと話題豊かに時流れ

やっぱりだ桃源郷の名のお宿

まだ来ない動悸早鐘娘の返事

好い色だトマトの紅にあやかるう

豊中市 松尾 美智代

八月に入ってやつと梅雨明ける

ペランダで我慢くらべのお花たち

水やりをしてる私が乾きそう

暑いのでつい手を抜いている食事

カロリーは少ないはずが痩せません

豊中市 江見 見清

年寄りでも結構ですと数にされ

手術痕消える頃にはまた切られ

医者 of 処置インターネットでたしかめる

アラフォーの婚活データチェックから

今だから言える話はたんとある

豊中市 藤井 則彦

いつの間にかルーズソックス消えており

お互いの意外を知ったフルムーン

移植するされる狭間で待つ臓器

被告の目に裁判員の目も揺らぎ

僕だけが風邪にうつらぬのも寂し

豊中市 水野 黒兔

老人も登らせられる歩道橋

万葉の歌のことばにあるロマン

陶芸の芽生えの一步泥団子

去る日々の速さに慣れて古稀となる

政変の予兆しきりに蟬が鳴く

富田林市 片岡 智恵子

セカンドオピニオン思案の果てにした手術

頰杖に聴える溜息の深さ

八十五歳ガンから生還した夫

腎臓ひとつ残し頗る元気なり

追いつかれ悔しくもない齢となり

富田林市 井上 じろう

阿波踊り猫も杓子もみな美人

長い恋幕切れの日はあっけなく

絵葉書に愛の詞をそつと添え

姉の背に母代わりの恩しみじみと

佗しさに誰か故郷を口遊む

富田林市 中井 アキ

何事も事後報告になって秋

月光に暴かれ嘘が頓座する

ときめいたままで化石になってゆく

足の裏鍛えて老いと向い合う

消えぬままアルバムにある遠花火

寝屋川市 森 田 麗

行く先はルール守れば着く浄土

三猿になった理由を母に問う

遠回りして深呼吸風の道

仏前へグラスに注ぐ缶ビール

待つことも幸せだったレモンティー

寝屋川市 森 茜

みちのくの座敷童子よ祭笛

おとなりも老人ホーム行きはつた

魚河岸はほんぼん菌切れいい怒声

かすり傷に気づかなかつた若かつた

夾竹桃律儀に褪せていくんだね

寝屋川市 太 田 とし子

屁理屈も筋を通せばナールホド

右左昼寝好きな脳と化し

私のマニフェストも頼りない

リラックスしたい先生窓閉める

何げなく人の好物聞いておく

寝屋川市 籠 島 恵 子

領収書残暑見舞いがそえてある

久しぶりのエクレア目尻下げながら

四捨五入どこもこもでも大雑把

入道雲いつだって手が届かない

追伸に思わせ振りが書いてある

寝屋川市 平 松 かすみ

九十四歳大往生とうらやまれ(義母)

夏でよかつたドシャ降りのお葬列

母さんと呼べるおひとはもう居ない

国民が白けていますマニフェスト

やさしいな友から届く布ぞうり

寝屋川市 富 山 ルイ子

家族みな高脂血症遺伝です

食養生して家族みな元気です

風聞は放っておこう聞き流す

国民の批判を受ける選挙戦

親しげな挨拶はてな誰方かな

羽曳野市 吉 村 久仁雄

人を恋い人を煩う距離で生き

ぬるま湯に慣れて心の錆取れず

一声で寡黙な人が場を鎮め

常備薬一つ増やして六十路駆け

愛情を確かめたくて嘘一つ

羽曳野市 永 田 章 司

汗をかく苦勞を知らぬ不仕合せ

思い込み誤読気付かず古希を過ぎ

訳ありを知って距離置くお付合い

七回忌孫がふたりも増えている

態度とは裏腹悩み深そうだ

羽曳野市 安芸田 泰子

口下手へせめて笑顔を持ち歩く  
古里の顔がだんだん他人めく  
ブランドで満たす女の虚栄心  
冷凍が匂を忘れて膳に乗る  
おべんちゃらに着せられている試着室

羽曳野市 福田 悦子

おはようが飛び交う朝の散歩道  
こおろぎの鳴く音で寝る秋の夜  
ふるさとの自慢が並ぶ道の駅  
おおきにの声に浪花がまだ残る  
絵手紙に秋を知らせる赤とんぼ

羽曳野市 三好 専平

ちゃっかりと傘の下張りする二ホン  
そのまんま総理になつてみたかつた  
味噌を播ることも覚えて親離れ  
金持ちが脳死の臓器奪い合い  
ニンゲンを見ると元気になるピエロ

羽曳野市 酒井 一壺

捨て金が思わぬ時に生きて来る  
案外なところにお金あるものだ  
金借りた友が次々去つて行く  
苦労して親の心がやつと解け  
あれこれと一人残つた時のこと

羽曳野市 吉川 寿美

いいことずくめ眉に唾してマニフェスト  
この頃はとんと見かけぬ燕の巢  
人並みの生活で回る換気扇  
読めるのは読めても書けぬ字がたんと  
天皇家どうぞ翳りがないように

東大阪市 久米 奈良子

ヘルパーの両手に足湯満たされる  
窓明けててみんみん蟬がきける幸  
解熱剤きかぬも神の思し召し  
ひとり言だれに聞かせるわけでなく  
鉢植えに水やり叶う日を信じ

東大阪市 北村 賢子

ひとことがじんわりハートぬくうする  
今度こそ実践するかマニフェスト  
未来図へどの子にもある光る物  
胸騒ぎ沈まる医師の柔和な眼  
ダルマに眼入れたその手を汚すまい

東大阪市 米田 水昇

匂い立つややの笑顔に癒される  
顔ふわり化粧したての朝が好き  
ほほ笑みの顔も過ぎれば媚となり  
放送のつもりで童話読み聞かせ  
大和路を行けば無人の野菜店

東大阪市 佐々木 満 作

アイドルも麻薬に染まる世の縮図

警官に遇うと俯く癖がある

寂しくて酒で心を暖める

人のエゴ紛争絶えぬ星に住む

寅さんが空から見てる秋祭り

枚方市 伊達 郁夫

故郷に帰る覚悟の帽子買う

ひまわりに見とれて夏に迷い込む

迷うまい父も通った岐れ道

許すとは言わぬがビール冷えている

身の丈を半径にする小宇宙

枚方市 寺川 弘一

花言葉おみくじよりも信じてる

住所録みんな元気な友ばかり

下戸でない血筋を感謝する墓参

泣き虫の癖が治らぬまま大人

大きなパンの夢を今でも見ています

枚方市 二宮 紫鳳

朝顔もエコにひと役買う猛暑

菜食に生きて平和な老いの日々

おニュー靴に背中押されて万歩計

倦怠期仲を取りもつ万歩計

盆踊り孫も輪の中はしゃぐ夏

枚方市 二宮 山久

梅雨明けぬ八月雨の大洪水

蝉ないて梅雨明けまじか空の青

朝顔が咲いて輪の中画隣

ハイキング下見仲間と汗をふく

幸せは妻と元気なペアシューズ

枚方市 小林 わこ

犬よりもわかってほしいのは私

気分転換必死になって遊びます

桐の下駄カタカタカタと遊ぶ夏

水鉄砲孫よ今年は泣くまいよ

画布いっぱい希望を込める茜色

枚方市 安達 忠央

だしぬけの雨に濡れてる戎橋

今頃にうるさい親の有難み

傷口にひびいて来そう席を立ち

ユーモアで解凍できる嫁姑

追いかける夢まだ消えず七十五

藤井寺市 鈴木 いさお

六日分まとめて日記書く土曜

ひとり者行って来ますと家を出る

何度言うたか明日からきつと酒やめる

茶柱が立って無邪気にはしゃぐ古希

諦めて黙って俺について来い

藤井寺市 太田 扶美代

一斉に咲く喜びよひまわりよ  
苦しいはずなのに貴方は笑ってる  
思い出が押し寄せてきて目を瞑る  
どの花もきつと恋人持っている  
新しいページを拓くボランティア

藤井寺市 若松 雅枝

星空の神話科学に曝される  
もう一度思い出の地を回りたい  
懐かしい人に出会った墓参り  
降って来てやつと終った立ち話  
ガイドさんユーモア混じえ厭きさせぬ

藤井寺市 増井 ヨシ枝

はにかみも凜凜し王子になりはった  
おみなえし咲いて亡母恋う古希の朝  
この暑さ思考回路がショートする  
皆既日食小さな島が沈みそう  
ありがとう何と心地の良いひびき

藤井寺市 俣野 登志子

大きな荷横に置く人膝のひと  
冷えたメロンすぐに食べてとお裾分け  
降りる時美人になって胸を張り  
ケーキ焼きお花も活けてひとりぼち  
うな井とおはぎを二つ別腹に

藤井寺市 伊藤 アヤ子

原爆に焼かれた兄の墓参り  
庭の木にはぐれたトンボ羽根休め  
夏まつり浴衣を買って弾んでる  
少しある土地売ってから墓建てる  
脳みそがじりじり焼けた臭いする

藤井寺市 津田 シルク

貼紙の頭上注意を見て転び  
外出を拒むにつくき魚の目よ  
アカンタレの魔性私の中に居る  
靴はくまでは確かにメモは持っていた  
根性で残暑のりきるそのつもり

箕面市 広島 巴子

未来図を子に語れないもどかしさ  
長雨に心もカビにおかされる  
塩梅が気になる梅の土用干し  
幸不幸心しだいと自己暗示  
夏の寺ひんやり友と二人だけ

箕面市 出口 セツ子

久しぶりの長男やせている不安  
長男と時巻き戻したい食事  
陽に当たらない生活か白い顔  
がんばっている子へ援助できぬ親  
長男と別れた直後来る地震

守口市 井上桂作

大阪府 野田栄呼

喜びをノートに書けば救われる

夫婦とは番で余生送るもの

物忘れ人の名前も代名詞

八十路きて命いとおし百までも

愛されるジイになるのは難しい

八尾市 村上ミツ子

大切ないのち豪雨にうばわれる

のりピーの表の顔と裏の顔

絵が見える音のきこえてくる一句

売り買いいして誰も儲けのないけんか

散歩するベットボトルと二人連れ

八尾市 宮崎シマ子

山姥とボクが棲んでる古い家

伸びきった恋このへんでご破算に

恋した娘親のロマンを聞きたがる

亀と行く旅はゆつくり楽しめる

自慢すること探したが何も無い

八尾市 高杉千歩

許すことはっかりパワー消えていく

浅知恵で何とか猛暑耐えている

整骨院老人会が勢揃い

思考力ゼロで暑さに負けている

三回に一度は嫁にEメール

高速料下げて下がらぬCO2

変形も捨てられません自家野菜

好天と農作物は仲が良い

悪天候燃える赤待つ夏畠

子の成長思い出つくる家族旅

大阪府 桑田ゆきの

植木屋の鋏がリズム刻ませる

選挙戦白い手袋演技さす

こぼれ種咲いた朝顔白二つ

過疎の里ポイ捨てゴミが嵩となる

サングラス外し本当の海の彩

大阪府 澤田和重

からくりがこんなにもある人の世は

笑っても笑い足りない嬉しい日

無駄骨と解つていても断れず

夕立にすぐわれました立ち話

動いても動かなくても腹が減る

大阪府 初山隆盛

ゆかたから乳房こぼれるギャルみこし

道行きは満タンにしてもつゆとり

都の垢里へ流しに帰ります

年金でバラを咲かせる自由席

年金が酒池肉林に迷い込み

神戸市 山口 美穂

ペランダのトマト愛たっぷり味の  
美味しいがその気にさせて夕ごはん  
孟蘭盆会叱ってくれた亡母を恋う  
茶柱さまあなたを信じ出かけます  
親切の裏ふと思ひ自己嫌悪

神戸市 山口 光久

浅はかな考えいつも怪我ばかり  
考え込むたちでなかなか太れない  
考え事なくなりました娘の巣立ち  
名コーチ二軍暮しが役に立つ  
優しい目で迎えてくれるのはベツト

神戸市 伊勢田 毅

たまたまの出番で脇が主役食う  
赤提灯肩を並べて愚痴競い  
アルプス席カメラきっちり美女キャッチ  
宣誓で球児鼓舞する甲子園  
墓参り少しいらつく蟬しぐれ

神戸市 木村 貴代子

何党が勝っても策のない日本  
祝日がふえて財布のSOS  
病室で祈るほかない我が運命  
マンションが建つても見える大花火  
阿弥陀様お願いします組へ

神戸市 山田 婦美子

梅雨最中元気をもらうさるすべり  
蝉時雨のシャワー一気に降ってくる  
梅雨どきにやもりの顔をまた拝む  
ビキニ着る娘の恥じらいも何もない  
一杯が入ると猛暑気にならぬ

神戸市 田中 章子

日蝕をわからぬ孫と空を見る  
山崩れ歌わぬままの蟬あわれ  
ハンドルは凶器であるとおぼしめせ  
スランプをいつか笑える時がくる  
支えてるつもりが支えられている

相生市 中塚 礎石

標的を視野に策士の小休止  
終章のパズル答えは妻が出し  
躓いてからエリートの間人味  
驚きが声にはならぬほっくり死  
国政のひずみ福祉へ重く乗り

芦屋市 黒田 能子

ひたすらに一本道が曲れない  
健康に育ってくれただけでいい  
ゆっくりと伸びるいつかは花も咲く  
無口でも深いところで分り合う  
健康のあかしリズムのよい寝息

尼崎市 春城年代

ふるさとを慕いし夫のペンの跡  
逝きし人の去年の夏の句と出会う  
京なまりあいまにひよいと出る老婆  
形状記憶のシャツ吊るされて梅雨明け  
帳尻が合わぬそれ以後記録なし

尼崎市 軸丸勝巳

一票が目を皿にするマニフェスト  
なじり合い他党が明かすマニフェスト  
千円で浮いた浮いたと子の帰省  
懸賞に恥じぬ横綱大勝負  
エコカーの極み二本の足で踏む

尼崎市 長浜美籠

この町に住みこの町に同化する  
正直な眼ころを映し出す  
夏休み縁故たよって西東  
故郷の盆おもい出すお迎え火  
カラコロと音も涼しい浴衣下駄

尼崎市 山田耕治

まずいもので腹いっぱいになる不満  
玄関でおよそのことは判ります  
社務所まで賽銭の音よく聞こえ  
早起きの隣の雨戸よくひびき  
アーケード鈴蘭灯が消えたまま

尼崎市 林昭三

貧しくて両親も居て満ちている  
夏いかか君恙なきこと祈る  
この暑さお寺へ用事思い出す  
独り飲む夕餉のビール冷え足りぬ  
勝力士天井見上げ引き揚げる

尼崎市 加川靖鬼

オレオレの癖をはちほち止めにする  
棚ぼたというけど口は開けていた  
癌細胞あなたは自爆テロですか  
舞台裏苦勞の種が積んである  
環状線話の種に二回り

伊丹市 山崎君子

胡蝶蘭最後の三つ押し花に  
お隣の真赤なトマト気になって  
くま蟬は鳴くだけないて昼休み  
この猛暑身辺整理すすまない  
救急車暑さに勝てぬ人乗せて

加西市 金川宣子

店先に喫煙できるプラカード  
スキャンダル炙り出てくる選挙前  
脳みそもお盆休みで動かない  
呑み助の故人偲んで盛り上げる  
誕生日やっぱりあったサプライズ

川西市 西内 朋月

櫛の齒が零れるようにくる訃報

つまりいた畳の縁で知る弱り

飲み足らぬ友に付き合う途中下車

焼酎の味が変わった紙パック

居酒屋のいつもの席がまつてる

川西市 米原 雪子

家族写真時代も写しセピア色

キヤッチフレーズ鷓呑みに信じ悔い残る

植木鉢面白いほど胡瓜穫れ

噛み合わぬ会話を横で聞いている

失敗談ゼスチャール入れて話す友

三田市 北野 哲男

嘘つきは嫌い大嘘つき人気

駅裏の屋台の列が好きやねん

職安の外は花咲き燕とぶ

太陽の塔昭和史の中に立つ

杉くぬぎ梅桜バラ成人す

三田市 堀 正和

ええ空気たまに吸わなと上高地

唐松の林を駆ける夏休み

青春の思い出残る河童橋

梓川スイカ冷やせばうまかろう

山小屋のカレーライスは五ツ星

三田市 白井 二英

墓を買う話に息子黙ってる

水くさいだらうけれどもケジメです

一からの出直しというへりくんだり

いつの間に揺れたか額がゆがんでる

タバコやめ今度はメタボ気にかかり

三田市 石原 歳子

ケータイを持つと自由を奪われる

一城の主がごみを出し忘れ

同郷と聞いて昔の話する

切り抜いて安堵している趣味の記事

聞き違い多い夫と今日も揉め

三田市 上垣 キヨミ

手探りで団扇をさがす熱帯夜

休んだらお天気だった雨女

軽装の甘さ赦さぬ大自然

生きるため男勝りの古稀の母

本心を明かし優しくなった嫁

三田市 福田 好文

預かった介護三日で音をあげる

注いだのは注げのサインと下戸知らず

ゴギブリを退治した日は大ビール

夏野菜取れてサラダの天ご盛り

通販で物が買えない戦中派

西宮市 山本 義子

負け惜しみ違いまつせと気楽ぶる  
物忘れと頑固のセツト歳のせい  
素直ですゆずられた席につこりと  
貧乏神とお手々つないでのほんんと  
することが減つて朝寝と洒落てます

西宮市 西口 いわゑ

日本の椅子とりゲーム火蓋切る  
つまづいてもびくともしない青い天  
さて何を自分自身へプレゼント  
捨てられた傘にもドラマありました  
未来永却女ごころは謎である

西宮市 牧 潤 富喜子

絶食の夫飲む日を夢に見る  
入院でまたまたもらう人の知恵  
経過良し虹立つ瑞気貰いけり  
むし暑い日の評論家切り捨てる  
まだ行ける行けるとまめに気付かない

西宮市 亀 岡 哲子

満月も赤く染まって遠花火  
雷鳴のごと飴して遠花火  
茶碗洗いまた眺めてる遠花火  
ストレッツシしながら見てる遠花火  
せがんでももう揚らない遠花火

西宮市 藤本 直

親孝行したくなるまで生きてやる  
駄句ばかり聞かされてる我慢妻  
あの人があんな事をの罪ばかり  
ゆーれいも出番少い夏が過ぎ  
陽だまりのカボチャのようにゴロ寝する

西宮市 秋元 てる

祝卒寿子から孫から亡夫から  
クレヨン画かすかに覗くママの知恵  
ずぶ濡れで帰れば母のバスタオル  
向う傷今も自慢に酔うた父  
謝罪の日ネクタイお忘れなきように

西宮市 緒方 美津子

墨をする老斑の手のいとおしい  
渡り初め村人みんな喜寿米寿  
生きていたらと母の齢を思う忌日  
ぴったりの服嫌いです腰まわり  
寝ていると元氣起きるとあかん私

西脇市 七反田 順子

ひんやりと風が吹き抜くゴーヤ棚  
恐竜と言えば丹波の相言葉  
人生のところどころにある括弧  
ワーストワンから抜け出した大和川  
身の丈に合った暮しでまず元氣

姫路市 古川 奮 水

不況波車がエコに動き出す  
駅出来て久方ぶりの水族園  
朝顔も元気になれぬ暑い朝  
乳母車ゆっくり噂撒きに来る  
備長炭肉に旨みの味を付け

奈良市 米田 恭 昌

どぶろくが戦後を語る八月忌  
ニートの子殻を這い出て来た自立  
ITの渦中犬かきしています  
付和雷同ついついマスク買っている  
ピエロいま一人よがりの幕を引く

奈良市 天正 千 梢

神さまが答を出してくれている  
出直しの出来る時間はあと少し  
ばら満開第九の歓喜うたつてる  
土下座して神に祈って殺し合い  
人はみな裏に悲しみ秘めてあり

生駒市 飛 永 ふりこ

雑賀崎心のゴミを丸洗い  
回りみな偉く見えませす軽い鬱  
石橋を叩く あなたの生きる策  
頼り甲斐草食系のプロポーズ  
全力の歩幅でこれがわたし流

香芝市 大内 朝子

秋風に人恋しくて書く便り  
心から祝うてくれる目が奇麗  
すっぴんの鏡深夜に見ぬことだ  
蟬の骸踏まれぬように地に還す  
しみじみと命愛しくなってくる

橿原市 居谷 真理子

人が死ぬ空がこんなに青い日は  
貧相な恋を嗤っているか蟬  
不器用なふりで巧みに押ししてくる  
善い人と信じたくなる掌の厚み  
十三で時々出会うおじゅっさん

橿原市 安土 理 恵

ひまわりの涙を誰か見ましたか  
湯上がりの浴衣ざっくり抜いた袴  
ずるいなあビール勝手にのんでいる  
ずるい男の手の内なんてしれたもの  
ひとり来たこの世ひとりて帰らねば

大和郡山市 坊 農 柳 弘

野仏に野菊手向ける遍路旅  
景勝に絵ごころ誘う萩の寺  
以心伝心賞味期限のない夫婦  
失語症行方不明の知恵袋  
裏方のノルマが咲かす菊花展

奈良県 渡辺富子

職あぶれ格差の闇に吠えている  
就活を止めて婚活する娘  
博士号持った男がホームレス  
チェンジのうねり感じている地球  
夢を追う男の背中隙だらけ

和歌山市 福本英子

もう三日同じ頁を開いてる  
やつと梅雨明けに鈴虫赤トンボ  
風鈴も私もだれる蒸し暑さ  
スーパで失敗をする大きい札  
アングルが良すぎて歳をごまかせぬ

和歌山市 喜田准一

個室入院ひとりで歌う数え唄  
ほどのよい距離で友情温める  
今昔は問わず明日の虹を見る  
押されても飛び越えられぬ濠がある  
病室の窓に止まった赤とんぼ

和歌山市 古久保和子

午後三時グリグリグリと回す首  
ストレスを放電させて山歩き  
パリカンの跡青々と甲子園  
小気味好い音で骨切りされる鱧  
茄子漬の色鮮やかに暑氣払い

和歌山市 田中みね

夜が怖い妻が野獣に変わるから  
満腹のあとは昼寝と来たもんだ  
桃に菓子いただき物で済むおやつ  
年中無休どこが悪いけど食べる  
借金が無いのに首が回らない

和歌山市 武本碧

戦争を知らぬ脆さよモスキート  
親という受け皿を持つ子の強み  
見え透いたお世辞乾いた耳で聞く  
ほがらかな空にほっかり雲笑う  
悟られぬように本音に蓋をする

和歌山市 玉置当代

これぞ夏花火と人の歓声と  
大輪の花火ストレス跳ね飛ばす  
PLの花火観てきた果報者  
梅干して漬けてそれから一休み  
低気圧私の肩にのしかかる

和歌山市 松原寿子

花を活けたまる心痛とり除く  
添えた掌をほらいまさかの意地をみせ  
煙にまかれ仲間はずれにされている  
厳しい目胸を斜めに刺してくる  
見抜いてる罨へ合図の咳ばらい

和歌山市 松尾和香

八月の海鎮魂歌捧げます  
じいちゃんの紫煙懐かし盆の月  
湯煙に宇宙の疲れ癒やさして  
食べて飲む命いとおし夏まつり  
吉と出て旅の一步に流れ星

海門市 堂上泰女

雨雲に追っかけられてゆく散歩  
散歩道いつもの犬にまどわれる  
初盆や母を迎える走馬灯  
白玉が好きな父娘のDNA  
足があるのに車には乗りたがる

和歌山県 岩本美智子

骨粗しょう宇宙旅行は諦める  
予約時間間違え医者でドラマ見る  
子にテストされていますよ認知症  
フィナーレの雷もなく梅雨あける  
黒い雨体内被爆今もお

鳥取市 鈴木公弘

人が好き女友だちもつと好き  
門灯が見えた以降の記憶なし  
緑陰も静か夏バテしたらしい  
不都合な時には知らん顔をする  
お出かけの前に顔バックをしよう

鳥取市 夏目一粋

裸電球なつかしいので換えられぬ  
ソロバンの弾ける音が懐かしい  
遥かなる恋が路頭に迷ってる  
根性を出し入れしつつ生きている  
独り身になった積もりで耐えてみる

鳥取市 福西茶子

わたくしと合わぬ音痴なオルガンだ  
言にくいことは背中を向けて言う  
良心の死角あたりに住むイケズ  
転けそうで転ばぬ路地の酔っぱらい  
ハッピーだ五体も口もよく動く

鳥取市 倉益一瑤

新聞からボロボロ落ちる罪の垢  
別々の予定を立てている夫婦  
よく我慢したと子供の肩を抱き  
いじめないで下さい家来にはなれぬ  
二番手の影がびったりついて来る

鳥取市 土橋はるお

我慢して感謝感謝を生きている  
ビール飲みそしてお酒を五合飲む  
ひまわりも不況で首がまわらない  
賽銭箱を見て見ぬ振りをして通る  
生ビール何か選挙の匂いする

鳥取市 土橋 睦子

美しい秋をおしむか赤蜻蛉  
冗談がもしもで揺れる老いの背  
三枚目の苦い涙も知っている  
鍵穴のむこうでパンがこげている  
み仏に抱かれ私も土になる

鳥取市 岸 本宏章

食べて寝る暮らし牛にも嗤われる  
善人が彫るとやさしい鬼になる  
日食のときには燃える昼の月  
海賊が出番をくれた護衛艦  
運という魔物に支配されている

鳥取市 岸 本孝子

家計簿のような日記をつけている  
米作り夏の日照に感謝する  
ほつくりをめざしいつでも腹八分  
お喋りの口と胃腸は衰えぬ  
どの党も幸せ運ぶマニフェスト

鳥取市 山本 益子

新しいかなご何十匹のカルシウム  
週刊誌恙無いまの拾い読み  
万物に老いの兆しはままならぬ  
通せんぼあの遙か日を想い出す  
思い出のつまった駅に訪れる

鳥取市 武田 帆雀

朝五時をみんな待つてる菊の鉢  
十指みな使い熟して菊手入れ  
御浸しに旨そう菊のわき芽取り  
菊に棒刺すと痛いと言っている  
バカンスもレジャーも禁ず菊の主

鳥取市 池原 天馬

長梅雨も雑草元氣追いつかず  
原爆忌やっぱり核は残虐だ  
特老の土砂災害死人災だ  
敗戦の不条理かかえ生きてきた  
ITは年よりたちに苦のタネよ

鳥取市 平尾 菜美

器へと夜つびて捏ねる砂枕  
するしないこの差躰が見えてくる  
母の背の流れなごりとネギきざむ  
還暦の馬が再びやる気だす  
見かけよりしつかり這える麦が好き

鳥取市 春木 圭一郎

ほとんどが自分の心カギとなる  
遊びにも全ての力出してるか  
失敗を恐がり夢が遠ざかる  
ひょうきんに笑いストレス消えている  
とりあえず人に期待をしないこと

鳥取市 加藤 茶人

どん底のまだ底がある蜘蛛の糸  
イースターで再会を期す陽のロマン  
留守が良い亭主も家出では困る  
まな板の鯉になりたいひと目惚れ  
ラーメンをすすって電話代浮かす

鳥取市 奥谷 彩子

いい予感につこり白い歯に出会う  
喜びを溜める袋を返し縫い  
おばあちゃんの自覚ないけど喜寿の坂  
自分彩溶いてたしかな今生きる  
バッジ外し過去は語らぬ二度の職

鳥取市 山宮 愛恵

踏み出して物憂い空気動かせる  
にがうりに涼をいただく居間の窓  
とりたてのゴーヤジュースがやみ付きに  
ゴーヤサラダおかわりされてうれしがり  
ゴーヤ種真つ赤で甘い恋の味

鳥取市 田村 邦昭

苦しみの果ては喜びだけがいい  
喜びを素直にみせる顔がいい  
人情を運んでくれる老いた町  
欠点は単純ですかすぐ詫びる  
順調に運びすぎると後こわい

鳥取市 太田 幸枝

暑い夜は何より甘い生ビール  
竹竿に疲れたシャツがぶら下り  
露よりもろい浮世の我が命  
鈴をふる巫女にも不運つきまとう  
本望が叶い同居で睦み合う

鳥取市 中村 金祥

エアコンをかけて風鈴眺めてる  
神仏にお願いするとクシヤミ出る  
百薬の長も万病には勝てぬ  
針仕事している母を見て安堵  
金はないけど孫子はやってくる

鳥取市 宮脇 道子

生きて来た道の苦労は忘れ去り  
父母の愛よ今胸うずきます  
朝顔が儂く咲いて満ちている  
人間も熟れるとポトリ落ちるのか  
天災は手替え品替え攻めてくる

鳥取市 西川 和子

ぎこちなくブランコ漕いで始まった  
ブランコが時どき荒い動きする  
荒れる日もブランコ漕いで子を育て  
断ち切れぬ絆ブランコ止めて見る  
穏やかにブランコ漕ぎの出来る今

鳥取市 吉田 弘子

七十路へ何をあわてる生きて今  
列島のどこかでゲリラ梅雨末期  
公衆トイレ小さな親切置いて出る  
ふしだらを反省せよと不意の客  
檀家の数読んで坊さん棚経へ

鳥取市 中宇地 秀 四

粗大ゴミでかい面してオーイお茶  
親父の背黙っていても物を言う  
立前が本音を穴に閉じ込める  
本人よりコピーの出来る保険証  
おうどんをしずしずしと召上り

倉吉市 山中 康子

年よりが花柄模様さがしてる  
本心を見抜く選者のかんの良さ  
はつきりと大樹を倒す積乱雲  
携帯も電卓もない暗算派  
ちぢむ脳ふうせん治療できたなら

倉吉市 最上 和枝

滑らせた口は出来ない後もどり  
区別してゴミを資源にすり変える  
口数は少なく心温い人  
ほろ苦いビールが胃の腑慰める  
オール電化家に煙の影が無い

倉吉市 牧野 芳光

歯車と四角い空がある都会  
曲線が程良く調和する田舎  
鉛筆を放すと鋏を持たされる  
死ぬ時を考えてない蟻の列  
庭に木を植える貧乏隠すよう

倉吉市 猪川 由美子

薬事法にくすり屋店主胃が痛む  
いいことづくめのマニフェストには気味悪い  
新語造語流行りでアタマ追つかぬ  
冤罪へ取り戻せない人生だ  
マスクだらけ奇異な光景やつと消え

倉吉市 松本 よしえ

たて書きの優雅な手紙有難う  
愛の政治お金無いのにどうするの  
バラ撒きが拳句のはてに税を取る  
目の前のタクシーよそにバスを待つ  
どうしよう食糧難がきつと来る

米子市 野坂 なみ

世の流れ変わるかうねり高くなる  
便利さが危険抱いてるコンピューター  
太陽が笑わぬ夏の怖ろしさ  
トサキンの尾鰭優雅にスイミング  
大山の尾に私の現住所

米子市 青戸 田鶴

原爆から六十四年目を迎え  
バラの絵にかえて華やく部屋になる  
ユウスゲが咲いても泰子かえらない  
来年も生きるつもり予定表  
一服の抹茶私を取り戻す

鳥取県 山本 正光

穏やかな長寿目差して生きている  
三尺の脚立で転び十日寝る  
月見酒月が出ようと出よまいと  
与野党がどうあれ僕はビール党  
向日葵の種粒数え馬鹿になる

鳥取県 竹信 照彦

左足ダメで右足奮闘し  
使えない足がだんだん重くなる  
農作業ひと月休止してる畑  
植えていたナスもトマトも妻が採る  
八月は反戦反核盆おどり

鳥取県 盛田 夢路

秋の風一度ゆっくり話そうよ  
ありがとう感謝感謝に秋の風  
マイペース真心もって秋の風  
好奇心あれやこれやと秋の風  
もう少し丸くなろうよ秋の風

鳥取県 佐伯 やえ

かぶとむしとひ孫の帰り待っている  
ふる里が帰省の子らで生きかえる  
友の居場所わかり安堵の深呼吸  
点滴の谷間に友の生きる声  
傷癒えて日々やわらぎの風に会う

鳥取県 細田 裕花

六十歳縁の糸はばら色に  
相棒と青春してる六十歳  
六十歳育てた子らに教え乞う  
六十歳ほやほやの顔免許証  
還暦のワクワク赤い靴をはく

鳥取県 北村 稔

農業は失業ないが休まない  
米作り失業ないがボーナスない  
釣れんでもウキ見つめてる時がすき  
露ほどもうたがいません僕と君  
神経痛関係ないと思つてた

鳥取県 山下 節子

胎動に明日の勇氣涌いてくる  
涌き水にブランド名をつけて売る  
五十年阿吽で暮す鶴と亀  
義理欠いた付けが後から追いかける  
湯につかり今日のダメージときほぐす

鳥取県 深田 俱久

マニフェスト空念仏にならぬよう

各県の型切り抜きおぼえとこ

朝市のなすはお盆の馬に化け

あちこちに母の味出た盆料理

豊年の太鼓を打つぞこの腕で

松江市 三島 裕丘

弓の弦緩めて呼吸整える

いい人に会う日の靴は軽くなる

私も月も旅人道連れに

沸き上がる夢にびっくり水を差す

背伸びした夢が虚しく浮いている

松江市 松本 知恵子

潮風に吹かれストレス干している

雨蛙きみも飽きたる長い梅雨

オバマ宣言核廃絶に光射す

矢印へノー人生は一度きり

雨雨雨ピンと来ないね夏祭

松江市 安食 友子

テレフォンでウインクしてる茶目っ気よ

幸不幸知らぬが仏も浮かんだ

ドクターとロダンに想い馳せました

古日記途轍もつかぬ夢ばかり

土下座して悶えています透き間風

松江市 津川 紫晃

驚くことはないさ世の中みな手品

誰ひとり休んだことに気が付かぬ

日没へ夕日あしたの化粧する

仲のよいうちは互いにかばう傷

喉仏さすって今日の無事ほめる

松江市 川本 畔

ふるさとの幻高く低く舞う

幻を刻んでいます台所

山坂を踏んだ身の上話する

淋しさをドンと破りに来た男

石握りじつと耐え続ける勇氣

松江市 小川 注湖

矢印が我慢させてる順を待つ

悔し涙捨てずに待てばチャンス来る

予定日へカウントダウン意欲見せ

夕焼けが燃やして今日が暮れてゆく

給付金忘れたところに総選挙

出雲市 小白金 房子

嘘のない暮らしつかと大地踏む

この夏を乗り切る土用鰻買う

子の集い夏楽しみにやってくる

弥陀様の光にとけるわだかまり

蒔いた豆ほじる野鳩の目が赤い

出雲市 石倉 美佐子

遠くある夜ぼんぼこ狸現れる  
月の夜は親子狸のはらつづみ  
ぎょうさんな小言をじつと聞いている  
狙い撃ちしたのに外れた玉の輿  
何処をどう歩いたことか家につき

出雲市 持田 多輝子

腹芸がうまくて本音つかめない  
我が生涯吹雪の中のたらい舟  
だんだんと生家近づく無人駅  
すず虫の声にきき耳たてる秋  
紙一重昼夜を問わぬ明と暗

出雲市 富田 蘭水

正確な時計に心晒される  
比翼鳥楊貴妃も泣く七夕に  
不覚にも癌のことが出た見舞  
栄養剤のんでは生を延ばして  
舌戦が八月の空覆いかくす

出雲市 岸 桂子

爪だけが伸びて月日が走り去る  
平成の中で平和を噛みしめる  
変る世に変わらぬ月と嫁が島  
たわいない平和ほおずきキュツと鳴る  
新盆に居士の名前で帰る兄

(前月分) 唐津市 井上 勝 視  
長年の癒やしの鉢よ有難う  
天引の税金に寄りかかる  
死線越え生き続けたい欲が出る  
世話になり無理は言えない娑婆の義理  
父母の叱言も浮かぶうら盆会

## 平成21年度川柳塔碑合祀祭実施要領 於 高野山大霊園

日 時 11月7日(土) 雨天決行  
集合場所 南海電車「難波駅」3階中央改札前  
集合時間 午前9時30分(10時発特急に乗車)  
会 費 5000円(交通費、昼食費)  
申し込み 10月5日までに本社事務所宛

◎別の交通手段で参拝される方は、その旨川柳塔社へご連絡の上、12時までに直接大霊園川柳塔碑前(奥の院下車すぐ)にお越し下さい。

大霊園事務所 (TEL 0736-56-2966)

到着後すぐ法要を行います。(12時10分より約30分)

遠方の方で宿泊希望の方はお申し出下さい。

◎帰りは16時15分発に乗車予定

合 祀 者 (敬称略) 10名

(20年8月~21年7月に逝去された各位)

春城武庫坊・岡本清水・堀江芳子・長谷川春蘭・早川清生  
宮本三喜夫・小林トメ子・濱野奇童・山門タミ・吉田あずき

# 麻生路郎句抄

(句集『旅人とその後の作品』から)

大 空

愛 慾

蚊の中で父は漢書を手放さず

俺の妻にしては少々みすぼらし

女房に安請け合いをおそれられ

妻だけがまつる神様仏さま

稼ぐ母ストで休んでよろこばれ

P T A に出るを社交と思う母

父の咳節約しまっをせよと云う如し

花見にやりましたと亭主手習

剃刀の鋭さもあり子を愛し

仏飯へだけはと母の心遣り

どの兵も後姿の父に似て

よう降りまんなど老妻にねぎらわれ

名ばかりの夫婦と知らぬ公益社

又せんじ薬を妻に嚙まされる

不 死 鳥

水 の 垢

そうだそうだ故人はまくし立てる癖

掬られたを苦笑ですます地位にいる

ひげを剃る暇のないのも無事のうち

思案する膳に目刺が置かれたり

安産に宿直をせぬこと久し

祝電へ四角張るだけ四角ばり

洋室へ松竹梅を持ち込まれ

君僕というていられぬ大みそか

十二月自分のうちへよりつかず

# 川柳塔の

## 川柳讃歌

(58)

木津川 計

### 表彰状以下同文に一張羅

福 本 英 子

表彰されるから一張羅を着ていった。生涯に何度もない晴の日と思えばこそだった。最初の人物を除き一番目からは表彰の趣旨を省略、「以下同文」と切り捨てられた。十把ひとからげである。

一張羅は泣いた。表彰にふさわしい遇され方と思えば、落ちつき払った態度で臨もうと、昨夜は寝もやらず所作まで考えた。あろうことか、「早壇上に並んで」と急ぎ立てられてはその他大勢抜いではないか。一寸の虫にも五分の魂である。況んや人間においてをや。

### 意見する私に意見する子供

古今堂 蕉 子

蕉子さんのご尊父はかつて川柳塔を主幹として率いた西尾葉氏である。東野大八さんは名著「川柳の群像」で八十七歳で逝つたり、ダーを「巨星葉大人」と悼んだ。この五文字

に葉さんの力量、お人柄がすべて言い尽されている。その「大人」のDNAを蕉子さんはよく受け継いで自分を曝す。「意見する儂がまだまだ遊びたし」(葉)の二代目も子供さんに意見される、失格の母と云うのだ。

呼ばれたと思いでつかい返事する

奥 時 雄

聞き違いがあれば勘違いもある。秋田実は「笑いの創造」(日本実業出版社)で「勘違い」をすべて「感違い」と誤記した、のか、直感や第六感もあれば、ことさら「感違い」と表記したのか、あれだけの作家が書くところらがうろたえる。秋田さんの「ユーモア辞典③」(文春文庫)ではすべて「勘違い」とあるから余計ややこしい。

「奥さん」と誰かの嫁さんと呼んだったら時

雄さんが「はい」と答えたからややこしい。

正しいと思ひ込んでから難儀

清 原 悦 子

「思いこんだら命がけ 男の心」と灰田勝彦が「燦めく星座」で戦前、男の純情を歌った。愛するひとへの一途な思い込みはよい。が、科学的合理的検証に耐えない紛い物を盲信したら、ことは難儀だ。騙されて正しいと思ひ込む、そんな人間がいまでも大手を振っているではないか。騙された人間はまだ宥せ

る。この世の難儀は、正しいと思ひ込ませる悪党が人間の皮をかぶり、尊崇まで組織して納まっていることだ。

神さまに試されているのだ迷路

白 根 ふ み

迷うとは読んで字の如く、四方八方どの道を進んでいいか判らず思ひ惑う、それを迷惑と言った。もともとは仏教語で、信心に迷い、邪道に逸れようとする自分自身の不始末だった。それが他人からかけられる迷惑、他人にかける難儀の意味が変わった。

私たちはいつも全知全能の神に試されているのである。生きていく限り私たちは絶えずる迷路の中の選択から免れ得ない。ふみさんも僕もうろろしている、迷える手なのだ。

ちいさいちいさい入道雲々

石 原 淑 子

ちいさいちいさい入道雲、ではない。夏の空にもくもくと湧く雄大な入道雲が人間社会の政争や紛糾などの一大事を「ちいさいちいさい」と笑う、というより嗤っているのである。「牛の瞳に人間何をあわてとる」(葉)に似て、バタバタ、キョロキョロ、おどおど……。人間のなんと矮小さであろう。「お、い、雲よ」と呼ぶような人間であらう。

(「上方芸能」誌発行人)

# 白選集

両川 洋々

都落ちした街波長合う街だ  
生きたまま死ぬと言うのかりストロヤ  
潰瘍だなんてカルテが嘘をつく  
過労死の友よさながら戦死だな  
コゲくさいイラクの虹に血が匂い

阿萬 萬的

団扇バタバタそれでも浮かばない思案  
しようもない駄洒落へ本音切り出せず  
さみしくて人間臭い手を洗う  
年金の枠で何とか日々平和  
人許すその気になった青い空

板尾 岳人

探さないですうとずうーと隠れんぼ(二歳十一月の恋人の死)

赤い靴履いて遠足黄泉へ逝く  
存命中愛のウイルス撒き散らし  
神仏待っておられるので帰り  
花好きで花に囲まれ花のくに

奥田 みつ子

夏も逝く命惜しめと風が鳴る  
深夜放送ヤング言葉に腹を立て  
本音ぶつけて溜飲下げるアンケート  
人形に答もとめている夜長  
電話口子のソプラノにホツとする

河井 庸佑

建前も本音の熱に押し切られ  
ひと言をじつと堪えて和を保つ  
さりげない心配りじんと胸を打つ  
必ずのひと言重く申し掛る  
背を向けた息子氣遣う親ごころ

川上 大輪

星一つ生まれて消えて他人事  
お借りした知恵を未だに返せない  
振り逃げという手で少し生き延びる  
ハッターリか自信かピクリともしない  
解らない事は笑っておくことに

木村 あきら

招き猫より効き目のある笑顔(95翁)  
人心見透かすような月が出る  
グチ一ツ胸に収めて丸く棲む  
垂れ下る稲穂小鳥の見逃がさず  
天高し杖を頼りの万歩計

小島 蘭 幸

海が見えるここはおのみち文学館  
路郎師の写真と対座してひとり  
川柳浴衣揺れるミンミン蝉が鳴く  
路郎葭乃を熱く語りしひと  
麻生路郎読本待つている書棚

小西 雄 々

長月に旅行を誘うメール来る  
携帯が一度も鳴らぬ今日の鬱  
喪主の背に仏の聲が届きそう  
神無月祖霊に誓うこと多い  
秋ざくら夏バテ笑うように揺れ

斉藤 焔

励まし合い競い合い芽は伸びるんだ  
馬鈴薯の花の清楚は母譲り  
指揮棒に背いたことのない楽器  
ほのぼのと回る七十路の花時計  
ふるさとへ遊びに来いと蕎麦の花

塩満 敏

千という数字にうっとりする秋で  
さようならミナミに帰る燕たち  
花の種沢山取れた妻の庭  
ふるさとの土に潜った熊蜂よ  
熱い汗流した球児の甲子園

新家 完 司

貧しさに耐えてきました太い首  
財産はないがトイレは世界一  
優越感見せてトンビがくるり舞う  
死なぬようお餅もパンもゆつくりと  
病名の言えない薬飲んで

恒松 町 紅

達者かと老母が送る季節物  
あの事は不覚だったと歳思う  
一夜干し味が出て来た缶ビール  
両足のしびれ頭は冴えている  
温情に甘え八十路の土踏ます

津守 柳 神

三猿を通す悪夢の八月忌  
朝寝坊させない蝉に馴らされる  
鮮やかさ健康維持のシソジュース  
猛暑撃退掃除洗濯耐暑法  
水茄子にお株取られた晚餐会

遠山可住

小父さんと呼ばれ警戒されぬ齡  
梅雨の荒れ過疎を根こそぎ押し流す  
飢えに泣く民へ砂漠の陽が高し  
死ぬまでの演技火の性水の性  
介護保険どなた様やらよろしくね

都倉求芽

雑草がしつかり段差に城築く  
腹の虫溶けぬカプセル服んだらし  
回り道たんとこやしが落ちている  
お茶ぐらい迷惑かけぬ自分流  
欲ほけはないが寝ほけや暑さほけ

土橋 螢

花に水 妙に気になる金魚鉢  
人の世に何ができるか考える  
信念を貫く桔梗むらさきに  
安穩の世に魂を置いてきた  
露となり北斗七星からこぼれ

中原 諷人

送り火や母の達者が点火する  
篝火も花火も仏さま送り  
忘れもの無いよう走馬燈まわる  
ひと乗ずつ丁寧に生くべしと  
そして彼岸は賑やかに曼珠沙華

西出 楓 楽

天神祭母が在せば鱧と蛸  
紫外線を怖がり過ぎていませんか  
アナログとテレビ画面に出るいやみ  
箴言よりブラックジョーク身に沁みる  
孫だから言えないことと言えること

仁部 四郎

お時間がくれば法律できあがる  
いいわけに時間不足という大義  
あの人に時間を守る芸がある  
ピーポーが走るはたして魔の時刻  
お薬の時間ですよ同居人

林 瑞 枝

朝ごとの祈りに浮かぶ明日の絵  
キリンも馬もあの横顔で詩を作る  
絵葉書の六行ほどの良き御縁  
来賓の椅子は南瓜か胡瓜かも  
嫣然とほほ笑む嫁の母性愛

前 たもつ

知り合いが出来てマンション役終える  
生涯保険一口継いで喜寿記念  
公園の今朝も元気なホームレス  
弟を誘って父母の墓参り  
持病まで聞いてくださる歯医者さん

三宅保州

検査入院に足元をすくわれる

そのまさかですと保険のコマーシャル

夢のようなお話でした夢でした

道を極めるのに卒業などはない

灰色の夕陽が沈む目を病んで

宮西弥生

教会の鐘に早起き上手くなり

ケイタイのエリアの外を飛ぶ自由

身のまわりあれば飯の世も温い

壁破るたんびに夕陽美しい

トンネルを出る傷口が殻を脱ぐ

森下愛論

猛暑日が続き空き瓶増えるのみ

声かけてゴメンナサイと他所の人

重い足軽く浮かせる露天風呂

生活のゆとりを見せる大あぐら

うたた寝を起こしてくれる連れもなく

八十田洞庵

しみじみと見てる蝶にも好きな花

雨期ながし山や川から奇跡出る

幸せを信じ小さな城守る

うだる日は地球も早く回ってる

友ひとりまたなくす日のさびしさよ

### 温故知新

山川阿茶

男みな阿呆に見えて売れ残り

共学の一番二番女の子

口ひげの生えて来そうな女史であり

山本葉光

あの世とやらを想う夕焼け

黄菊白菊質素な亡母を取り囲み

金あればと少年がいう恐ろしさ

八木摩天郎

情熱の歌人晶子を思う海

辞めてから一対一の口もきき

抱き合うて泣いた八月十五日

若本多久志

遠慮なく言えと先輩ありがたし

民主主義おれの老後は寂しがる

就職もきまらず桜見て通り

— 合同句集「私達」—

昭和三年発行 選者麻生路郎

# 水煙抄

## 川上大輪選

大洲市 花岡順子

保険満期無駄に掛けたと思うまい  
ポケットの夢にこだわり待っている  
甘い処置だった傷口膿んでくる  
冷や汗は機転のきかぬ人と居る  
こだわりの味原形は母にある  
コメントが独り歩きをして困る

阿波市 三浦千津子

のめり込むタイプで少し狂気めく  
真実を知らない口がよく騒ぐ  
リベンジへこっそり火種暖める  
三世代ときどき軋む我が家憲  
スランプを押し出すつるり心太  
老いの日々悔いなくように丁寧

和歌山市 福井菜摘

今日よりも明日へ心を弾ませる  
足踏みはしない明日を見たいから  
受けて立つ覚悟へ妻の応援歌

塩っぱに母の美学が生きている  
同じ字をまたかまたかと辞書笑う  
偏差値はどうあれみんな親思い

横浜市 川島良子

マニフェスト日本沈没しませんか  
タダという軽くて重い荷を背負う  
恐いもの地震に豪雨覚せい剤  
夏休み子供の声が聞こえない  
かき氷ザクザク夏を噛み砕く  
イチローが旨い言うから買うビール

紀の川市 宇野幹子

風が生まれ風が去って無縁墓地  
飄飄とひとり歩きをした噂  
風評もいつかは風が消してゆく  
花鉄男の愚痴を切り刻む  
生一本昭和の森が出られない  
コンパクト内面までは磨けない

雲南市 渡部 好 榮

生活のリズム知ってる古時計

カーテンの向こうに見える出入口

投げた石まあるくなくなって帰る頃

飛車角をしつかり抱いて待つてます

みんな留守空気と風のフラダンス

賽銭の額を聞いている通り風

鳥取県 稲村 遊 子

自分へのメールを打ったひとり旅

私のものでなかった手も足も

体重が増えてうれしい赤ン坊

布おむつ捨てた育児が狂いだす

縁のない指輪は捨てることにする

安眠の枕誰にも使わせぬ

和歌山市 堀 富美子

歳月が心のひびを埋めてゆく

ラストまで夢ふくらまずペンの先

心地よいライバルが居て日々弾む

八月忌まだ眠らせぬ仏の灯

喪が続きハンガリーの黒落着かぬ

ひと雨にまた雑草のこんには

香南市 桑 名 孝 雄

そうかそうか儂が平均年齢か

平均寿命ここで幽明異にする

長幼序先に逝くのがいて困る

人間ドック百まで保証してくれぬ

酒だけは妻の差配に従わず

マニフェストだんだん不味くなる撒き餌

八尾市 赤木 妙子

好きすきスキと一度言わせてみたいもの

投げられた視線見ぬふり知らぬふり

琴線に触れて潮時見計らう

マスクして町に美男と美女ばかり

好き嫌い言わず食べてた分けていた

アマリリス担保残して咲き終える

雲南市 武島 ちよえ

そのうちに嬉しい出費ある予定

打ち解けてからの余韻を抱きしめる

いそいそと仏の好きな花買いに

サプリメント何れが効くやら効かぬやら

穫れ立てを頂いてきた茄子の艶

絆です車の音を聞き分ける

大阪府 神野 千恵子

門限はありませんよと閻魔様

赤ちゃんのほうが上手に自己主張

横降りのように小言が追っ掛ける

もやもやが残る一言多すぎて

お父さんいきいきしてる台所

退陣の時だけ惜しい人と言ひ

大阪市 萩原大朔

割り勘で酒も肴ももうまくなり  
鞭を入れ走り出す馬止まる馬  
イヤな奴そう思うから思われる  
二枚目のハンカチが出る詫びの席  
諦めがよすぎ出世の外にいる

大阪市 笠嶋惠美

冷房にこむら返りが痛すぎる  
友描く滝は音まで隠し味  
待つと来ぬあきらめた時来る息子  
服がつんつん背中丸いと気付かされ  
青春を買い戻したいダイヤ買う

泉佐野市 稲葉洋

皆既食天の岩戸に隠れしや  
殴られた頬より心痛かった  
力こぶ見せる爺ちゃん少し酔い  
溽暑越えたればこそよの秋の風  
湯上りに実りの秋というメタボ

河内長野市 針生和代

犬さえも食わない喧嘩して夫婦  
新聞を読むたび立てるむかつ腹  
七夕に夢を吊して老い二人  
信念を通し群れから外される  
路地裏の温みかごめの輪へ追慕

堺市 近藤治子

ふる里の祭りへ心飛んでいる  
心にも磨きをかける床磨き  
ウォーキングかんかん照りで気力萎え  
必要とされて私に気力湧く  
ボスの目のとどく所にある平和

堺市 大隅克博

こだわれれば見えぬものにも蹴躓く  
旅行では気にもならない北枕  
杖になるはずがみんなに支えられ  
無礼講途端に変わる酒の味  
孝行をしてみると思う不孝者

高槻市 片山かずお

赤い灯も青い灯も好き酒が好き  
酒になりやつと話が弾みだす  
お招きを受けたが酒が出てこない  
背を伸ばしトキメクひとに逢いに行く  
こそこそと言わずはつきり言ってくれ

羽曳野市 森下一知

マンネリの髪を留ったニューフェース  
ほめられる汗はしたたるほどばしる  
点滴を繋ぐ命の宇宙食  
都会から雰囲気だけの野良仕事  
人は良い何度か逢ったホームレス

八尾市 寺川 はじむ

尼崎市 藤岡りこ

馬合うと信じた梯子外される  
転ばぬように買ったステッキ置き忘れ  
無担保という触れ込みの裏の牙  
澄み切った里の空気は澱まない  
四十年連れ添いばらせない秘密

神戸市 山崎 武彦

踏ん切りを付けたペン先迷いだす  
逢うたびに結び目太くなる予感  
坂道をフランスパンの似合う街  
海が好き山も好きです神戸っ子  
下戸だけど君の笑顔に酔っている

神戸市 木村 忠義

老いたとて心に花の種をまく  
ほほ笑みは花のつぼみのように見え  
お天気のように変化の幸不幸  
感謝することで幸せふえていく  
食欲に老眼鏡がかかせない

明石市 梶谷 和郎

長生きの母に似てない手相もつ  
ハチマキの白は一途のつもりです  
完璧に近くなるほど嫌われる  
人まねは飽きたと影が駄駄を言う  
知らなげりや済んだ話が知らされる

転んだ子母が来るまで泣かぬ意地  
転がるから犬はボールを追いかける  
寝転んで見上げた空のでかいこと  
横の物は縦にもせずに仲が良い  
嫌な顔すれば相手も横を向く

三木市 広瀬 房江

青柿の枝が邪魔する物干し場  
舞子さんの話に弾む京土産  
おだまきを誉めて一鉢抱き帰る  
入院の一喜一憂長い梅雨  
満たされぬ心を埋める日記帳

奈良市 岩本 浩二

酒席でも査定されてるヒラ社員  
勇気ある撤退をして攻め直す  
古希過ぎてまだ生臭い夢を見る  
吊り橋のたもとで疎むメタボ腹  
老いらくの恋にうるさい外野席

奈良市 尾畑 なを江

雨の中蜘蛛じつとしてじつとして  
針箱へ久方ぶりに用が出来  
アイライン入れてクシャミの総ぐずれ  
こいさんと聴えてきそう法善寺  
長雨に日本列島傷だらけ

和歌山市 坂部 かずみ

デパートの迷路思案のパズル解く  
出来すぎて貰い手のないキューリたち  
赤紫蘇を揉んで貴方を染め替える  
名文のメールも消える消費国  
蟬時雨ポリュームあげて聞く話

和歌山市 根田 よしこ

徒競走うしろばっかり振り向く子  
ふたり姉妹良きライバルで良き友で  
石ころも磨けば珠に変わる夢  
タンポポの綿毛平和を呼びかける  
なんとたつて責任重い女王蜂

海南市 小谷 小雪

まつさらになれそう海に小半日  
肩組めば水平線に届く歌  
一応は水着も買ってみたものの  
悠々と泳ぐライバル自由型  
青野菜食べて封じる夏の風邪

紀の川市 北山 絹子

帆を上げた与党野党の浮き沈み  
人生に浮輪が一つあればよい  
脱線しながら余生送ってる  
前向きに生きるためにはこつがある  
港には悲喜こもごもの詩がある

紀の川市 辻内 次根

足元は砂地迷っていられない  
確認をします鏡の中の顔  
素振り百回男は何時追われてる  
ゆっくりと呼吸録に染まるまで  
つまりきはせぬかと何時も下を見る

和歌山県 森下 よりこ

梅雨が明けたら窓の汚れが今更に  
風の訪れ待って一人の窓開ける  
追い風に乗っていよいよ楽天家  
二十回ほど献血をした過去がある  
好きな顔どこにも見えぬ義理の会

倉吉市 前田 喜美子

のたりのたり過去を包んで海は風ぐ  
身勝手な人はストレス溜めている  
割り勘に水さす人がいて困る  
別人になりたくて行く美容院  
失業に大黒柱ゆれ出した

米子市 吉田 陽子

夏休み近所にドツと子供増え  
生活と夢が入りをする財布  
一括払いもう迷わずに店を出る  
カップルをつまみに一人喫茶店  
信じ合うためのメールを繰り返す

鳥取県 岡本幸枝

すこやかに我が身愛してダイエツト

感謝の意あればチャンスも付いて来る

口喧嘩できるあいだが花じゃやない

散り際が見事だったと言わせたい

しあわせを掴もう錆びた釘同士

鳥取県 大塚美代子

得意気に携帯メール打つ子供

深呼吸しながら渡る丸太橋

脛に疵あつて進めぬ花時計

どの服にしよう鏡に聞いて見る

テポドンが魚群狂わす日本海

鳥取県 飯野菖子

老いの道やっぱり母を追っていた

牛を追うそんな時代も生きてきた

見事です気持曲げずに咲いたバラ

身を守るたった一つの口だから

口喧嘩後ろを向けばもう忘れ

松江市 松浦登志子

暗算が苦手で財布やせてくる

願いごと叶わないのは怠け癖

色黒が色白になる寒い夏

山近く川も近くて怯えてる

保険の歯おちよほ口にて笑います

雲南市 菅田かつ子

うれしくて着たり脱いだりまた着たり

嫁さんに総て任せて居るつもり

せつかちな暑中見舞が濡れて来る

また脛を噛られながらうれしそ

ちよつと待て言うから続きでてこない

広島県 若年幸子

梅花藻の素直な流れ涼貰う

原爆忌背のケロイドが叩きだす

企業戦士盆は休みでないと言う

カンナ燃ゆ真夏の元氣一人占め

真夏日のなあんにもしない孤独な日

北九州市 岡田幸生

無器用に糠床混ぜる妻の留守

大物へ尻尾を振っておく保身

焼カレー門司のむかしを食べに行く

神棚が見当たりませんワンルーム

真夏日は上衣を脱がせたい遺影

高知市 松尾憲子

還暦の恋阻まれて加速する

追い風に乗ってみようか少しだけ

ハグをして貴方のパワー下さいな

特製のうぬぼれ鏡隠し持つ

独り寝の気楽さというつまらなさ

札幌市 三浦 強 一

ピアガーデン夏を飲んでる弾んでる

怠ければすぐ雑草の生える脳

太陽に子らが染まった夏休み

子の光る眼は大切に育てよう

訳ありの品が人気という不況

札幌市 小沢 淳

八月の海に漂う鉛色

冷凍に保存してます師の言葉

転び癖ついて八起きは他人任せ

義理を欠くことも覚えて後期を過ぎ

老班をさらし天下と国家説く

栃木市 岡野 すみれ

台風が狂ったらしいUターン

この角を曲れば生家あつたはず

スランプの長さ占いでも行こう

月参り母の元気がそこにあり

同郷のよしみ異国でうちとける

横浜市 長島 亜希子

アレクサンドリアの海からアラオ生き返る（海のギフト展）

セミの抜け殻孫の土産に持って行く

イケメンの候補だ拍手おくとく

せめて夢見させてもらおうマニフェスト

公約が守られればのいい話

京都市 清水 英 旺

熱帯夜きのうの澱がへばりつく

誕生日がうれしと言えらうちが華

逃げ水をもう追いかけることしない

平凡なシナリオ劇を演じ来た

京都市 藤井 文 代

世渡り下手近道したが元の道

肩書きが生きてるうちは嘘もつく

建前に本音からめて意地通す

実力がないから神も否定する

大阪市 吉川 弘 泰

無人駅一人佇むもみじの木

千円でもみじ祭りを高速で

ボール飛びもみじの葉端後を追

おおきにと言うて交した旅の酒

大阪市 尾崎 ゆ め

避けることも逆うこともできぬ縁

血縁を捨て捨ててまた拾う

手助けの欲しくない時欲しい時

手を先に握られ負けたなと思う

大阪市 片岡 松 枝

八月は玉音聞いた墓の道

玉音流れこれでゆつくり寝られるぞ

物物交換するものがない焼けだされ

戦は嫌九条守れ人間まもれ

大阪市 安藤 なつこ

年の功本音はネンネさせておく  
本音やねん俺の目を見て返事して  
気にかかるきつと向こうも気にしてる  
クーラーでリッチにカゼをひきました

大阪市 太田 としお

グループに根性と書きふるい立つ  
脳の死が人の死ならば死んでいる  
リサイクルゴミの中から宝物  
自民でも民主でもない日本党

大阪市 平井 露芳

暑さにもめげずウイルス元気です  
でんぐりを止めても続く放浪記  
八十も働け言うて口を曲げ  
川柳で歌う給付の使い道

大阪市 山本 加お里

思いつきり笑い飛ばしてすむ話  
せつかに飛び出してきた菌みがき粉  
反応を見ながら動くうまい詐欺  
つぶらな目ママの動きを追っている

大阪市 寺井 弘子

バーゲンが乏しい財布こじあける  
幸せを演じストレス増してくる  
手の内を明さぬ母のにぎる駒  
里の道癒されている道祖神

大阪市 橋村 容子

万歩計丸く成る背をかばいつつ  
咽ごしをキリンとアサヒせり合つて  
自分作うまい梅酒に癒される  
寝る事が一番いいと昼寝する

大阪市 松田 聰

外見はインテリ実は非常識  
音頭とる着物姿に隙がない  
紙とペンこれだけあれば別世界  
携帯の自転車わが者顔でゆく

大阪市 吉内 タカ子

原爆碑さけぶ平和の炎天下  
補聴器も使わぬ日々は脳冴える  
寝息聞き明日の至福を願う床  
エコバッグ地球のために持ち歩く

池田市 上山 堅坊

平穏な辻で起きてる怖いこと  
ワンテンポ遅れて笑い返される  
新聞は一面そして後ろから  
妻急逝財布の秘密そのままに

泉佐野市 助川 和美

ガチャガチャとしてあげてると手伝う娘  
現世にトンチで渡る橋欲しい  
臍かじる息子がなんで成人や  
鬼嫁と言えずしつかりした嫁と

茨木市 島田 誠一

病みはじめやつと味方は妻と知る  
偶然を實力に見たのが悲劇  
フルムーン葉トイレに暮れる旅  
まな板の鯉にはなれぬ手術前

門真市 矢坂 英雄

ほどほどで結論出して動かねば  
理屈こねじつとしてゐるこれもくせ  
手足出て声は最後にしめるとき  
右左批判で時間かせいでる

河内長野市 山本 莞子

乾杯だ古希に咲かせた二輪草  
流れ星望みしつかり受け止めた  
立ち話もれる会話が気にかかり  
花びらに彼の気持をもて遊び

河内長野市 辻村 洋子

料理好きレシピファイルが肥えはじめ  
頑固さをしつかり磨くおじいちゃん  
いいんだよ仲間外れが大物に  
ラブレターセピア色でも胸踊る

河内長野市 山室 光弘

隠してる大きな口に二枚舌  
子離れが済んで果せぬ妻離れ  
しみじみと女の強さ見る平和  
不便さと気楽ないませ妻の留守

河内長野市 宮守 正博

課長より音痴で歌う癖がつき  
仲間割れしたくないので無理を聞く  
ジーパンの穴からのぞく膝小僧  
坂道も妻の日傘がはずんでる

河内長野市 木太久 正一

七夕に心踊らぬわがよわい  
三食を作つて食べて終る日々  
暑くても晴天がよい甲子園  
目が合つて妻が選んだマルチーズ

河内長野市 内海 綾乃

先生方選挙になると顔を出す  
片づかぬいらいらする日夏休み  
長雨で家計圧迫野菜高  
裁判員自分になつたらどうしようか

岸和田市 中岡 香代

原因はないけどおこる反抗期  
セールの息子を思い断れず  
父無口母が三倍喋ります  
限りある命を惜しむ秋の虫

堺市 遠山 唯教

産声のリズムを聞いて母になる  
いま一歩およばなかつた心技体  
嬉しいとお喋りになる長電話  
しあわせに溢れる笑みが美しい

堺市 羽田野 洋介

目立ちたがりちよつと騒いで浮き上がる

気力よしあとは体力金次第

押さえれば押さえるほどに飛ぶ噂

ごゆつくりもお茶一杯じゃ間が持てぬ

吹田市 二宮 栄子

風鈴が眠り私は起こされる

殊更にわびしく思う雨の夜

蛇口の湯受けて苦勞の亡母思う

古里に辛くて甘い水がある

豊中市 谷川 勇治

桃太郎拾えなかつた老夫婦

焼酎は悪友ですが捨てられぬ

デイサービスカスターネットのハトポツポ

内緒話耳から口へすぐ出ます

豊中市 荒巻 夢

洗濯物バリバリとなり梅雨明け

振幅が大きすぎたか猫じゃらし

風鈴の金魚もうだるこの暑さ

日食で話弾んだ知らぬ人

豊中市 源田 啓生

原爆忘知っているのか蟻の列

身の錆を吐いて紡いだ句の幾つ

暑い日は迎えの鬼が戸を叩く

くっつけたおデコで計る軽い熱

富田市 古田 千華

野菊活け異なる意見噛みしめる

割り切れぬ話の外に居て平和

毒舌も明日はスタミナ切れるころ

アナログを脱皮出来ない戦中派

寝屋川市 岡本 勲

家族会議口やかましい父外す

ほろほろにされても通す俺の意地

夏一番の幸せビール開ける音

遺産相続兄弟姉妹敵味方

羽曳野市 仲谷 真一

炎天下選挙運動命がけ

プロポーズあれはまっ赤なうそだった

人類の平和と緑守らねば

平成の維新改革夏の陣

羽曳野市 宇都宮 ちづる

また元の二人に戻る休暇明け

熱帯夜一匹の蚊と鬼ごっこ

京の友暑中見舞いに夏野菜

ペランダのゴーヤ日陰と食もくれ

羽曳野市 松本 静子

風鈴が涼しさをくれる家の軒

患者さんバーコードにて管理され

なだらかな畝傍のお山霧の中

車窓から見る病院のまど悲し

枚方市 坂本 ミヨノ

花火眺めながら空襲思いだす

亡夫呼ぶはすの花香る深い闇

八十路の恋歩け介護もいらぬよう

梅雨明けて鳴く蟬時雨位置を変え

枚方市 小川 良吉

ほどほどの妻の小言が今生きる

夏が来て歌えばそこに尾瀬が見え

老いたりて爪は日々伸び背は縮む

現代史戦とテロの繰り返し

箕面市 寺井 柳童

紫陽花に元気をもらうにわか雨

盲目の指鍵盤に蝶の舞い

眠い目をこすりあわてて体操へ

駆け込んで気がつく女性専用車

八尾市 中島 春江

叱られしこともなつかし墓洗う

へこ帯の垂れて夢中のおどりの子

指の先まで楽しんでいる盆踊り

熱帯夜ねそびれて飲むカンピール

八尾市 田邊 浩三

老人会男子トイレも列できる

質草を迎えに走る給料日

譲られた席に曾孫を座らせる

死ぬるまで頼むぞと膝撫せてやり

八尾市 松葉 君江

頑固一徹父からもらう血の遺産

面倒見よくてふところ火の車

浮き沈み支えてくれた妻の汗

四角四面父からもらう血のバトン

八尾市 前田 紀雄

是々非々で建設的に一歩ずつ

拉致問題日本は誰を派遣する

夏野菜日照時間不足する

若田さん地球に帰り茶碗持つ

大阪府 若月 祐作

精検の安堵をもらい乾杯を

雄と雌追いつ追われつ仲がいい

小休止眼鏡も外し汗を拭く

老友が逝き夏の窓辺も小暑なり

大阪府 畑中 節子

宿浴衣心も口も軽くなり

脱ぎすてし長靴で鳴く秋の虫

鎌を振るリズムに合わす蟬しぐれ

誕生日今が一ばん若いのだ

大阪府 坂口 公子

秋天の陽射しが届く胸の闇

いい事をふと物にする散歩道

思い込みで即覆えるのも天地

一陣の風が青田に絵を画かす

大阪府 西川 冷子

カーレース瞬く間もなし唸り行く

連発の花火の影に父浮かぶ

輝いて轟く花火間を数え

スイミング飛沫ばかりで進まない

大阪府 小栢 こそずえ

ブレーキをあれこれ試す老いの脳

ETCもいらぬ近場の嫁が来る

雨音を聞いて被災地おもいやり

繕ろうても五体満足日々感謝

大阪府 高木 道子

糸とんぼついと向き変え逆らえぬ

朗らかに飲まれたお酒百の長

一服を盛ったジョークが響かない

ぬるま湯につかり傘寿に焦る脳

奈良市 加門 萌子

念願の書写山へ行くケーブルカー

木洩れ日がやさしい小径の仏様

創建のいにしえ人の心技体

会えるときあっておきたい血の絆

奈良市 矢野 良一

ウォーキングひとときの涼通り雨

夏祭り女御輿が艶添える

強い意志無言で語る太い眉

出穂に風の匂いが香ばしい

奈良市 阿部 茶々

行き先を示してくれた師が逝きて

マイケルはネバーランドへ行きました

たこ焼に青い目並ぶ戎橋

齒のブリッジ欠けて気になりおちよぼ口

奈良市 辻内 げんえい

ハンカチで泣く振りをするドライアイ

席譲りその日一日いい気分

梅雨景色早苗の田んぼ残したい

政治家のこころ再生総選挙

奈良市 田中 賢治

妻の留守部屋明明と帰り待つ

孫預けゲート待ちする若夫婦

四つ相撲背中に光る玉の汗

汗知らず寝そべる猫に蝉しぐれ

奈良県 谷川 憲司

クラス会マドンナの面影捜す

立て前に潜む本音に耳澄ます

聞き酒の梯子で酔ったことがある

定年後何ということなく多用

和歌山市 磯部 義雄

王手飛車勝ったつもりでいる相手

ハードルを下げて未来を子と会話

カロリーを考え食べて病んでいる

燦々と汗輝いている農夫

岩出市 藤原 ほか

神戸市 早川 孝子

誕生の知らせルーツの血が騒ぐ  
磨くほど磨り減つてゆく僕の靴

ストレスにアイロンかけて汗をかく  
目を閉じて心の扉広くする

ダイアリーきつと逢えるとまるつける  
飛ぶ勇氣あればチャンスはやつてくる

楽しみは生きるわたしのエネルギー  
お試しにやってみたらとひとり旅

岩出市 村中 悦男

尼崎市 小池 幸子

湯あがりの膚にやさしい青田風

総選挙迂闊に乗れぬマニフェスト

まんじゅうの旨さにまける血糖値

食欲を満足させてこのメタボ

色香をも乗せず煌煌稲の花

揚げ花火夏の暑さも吹飛んだ

電柱の影一列にバスを待つ

夏最中雷涼し俄か雨

紀の川市 吉村 幸

加東市 黒崎 美紗子

梅雨明けていそいそ開ける梅の壺

夢うつつ異国の歌を聞くラジオ

農の汗さらりと流す梅ジュース

カーテンで囲んでくれた治療台

坪庭に秋待つ蓄二つ三つ

収穫の楽しさくれるミニトマト

ふるさとの先ずは清水に生き返る

梅雨開けてようやく梅の土用干し

田辺市 大峠 可動

加東市 安達 厚

八月や精霊蜻蛉身を洗う

今日生きるだけでうれしい老いの坂

炎天や枯骨のいのち焦がすかに

明日のこといつも白紙で生きてます

一も二も三も本音はさりげなく

うとうととするのも生きる秘訣です

岐路迷路どこへ行こうかなあー雲よ

空無限小さなことは忘れよう

橋本市 石田 隆彦

加東市 岩本 美緒子

愛犬が十歩進んで振り返る

湿度多い今年の夏を耐えている

何くそと起きるダルマのかたちして

三泊して娘の家よりも吾が家よ

身のほどの歩幅で歩くこの余生

終らねば明日の一步が踏み出せぬ

九条が錆びないように光らす目

花とわたしにっこり交わす筆の綾

川西市 日野岡 和之

携帯はみんな孤独で持っている  
十本の指まるめ飲む岩清水  
寿きてたがいの達者口ばかり  
いたわりと優しさこもる散らし寿司

篠山市 谷田 多美子

わだつみの嘆ききこえる世の乱れ  
慟哭が豪雨を呼んで八月忌  
リハビリの温療法で寝てしまい  
天気予報狂うて傘があわて出す

篠山市 沢山 啓子

山頭火こも歩いた道とする  
義母の瞳がこの頃どこか泳いでる  
猫好きと解ってすべてを許そうか  
坂道は仏を負って登る夏

篠山市 永井 かほる

長雨で丈だけ伸びる野菜達  
大きすぎ丁度の水瓜数ほしい  
すきな友出会うだけでもほっとする  
長梅雨で野菜も私くさります

三田市 辻 開子

孫と言う宝があつてだす元氣  
洪滞がいやでゆっくり留守をする  
ウオーキング今日も足向く友がいる  
食そそる皿に一葉を盛りつける

宝塚市 丸山 孔一

手折ろうか畦に残るか彼岸花  
研いでいるこの刃どちらに向けようか  
押したくも引きたくもありこの拳  
採血の結果出るまで未練酒

西宮市 株元 玲子

つまずいて拾った石は試金石  
口下手を問いつめられて貝になる  
お人好しどこどこまでも騙される  
世渡りの下手な私でさえ元氣

西宮市 泉水 冴子

ストレスと闘っている体脂肪  
パソコンも時々やんちゃして困る  
計画になかった案が受けている  
秋の空おとこ心と酒の味

西宮市 吉井 菜々子

爽快な熱いシャワーと雨の音  
お銚子をコトシとハート温める  
本番を終えていきいき取り戻す  
たくさんのご褒美だよね星光る

西宮市 足立 茂

傘買うかコーヒー飲むかにわか雨  
満だけでもういらんに数え年  
もうだめだ鯛が覚悟をする生簀  
長生きをしてねと孫のねだり方

三木市 山口 久子

今日もまた暑さに負けず一日を  
暴風雨傘は逃げるしずぶぬれだ  
ひまわりはみんな仲良く東向き  
梅雨明けて我が世の春と蟬時雨

鳥取市 大前 安子

母と見る星に願った笹飾り  
両手からこぼれ落ちたは母の星  
不意に来る計報に鼓動乱気流  
髪をとき紅さす母の旅支度

鳥取市 下田 茂登子

軽々に喋ってならぬ内輪揉め  
仕事場で転んでみたい石に逢う  
一度でいい抱いて抱かれてみたい月  
欲と頑固同時進行して困る

鳥取市 近藤 秋星

向日葵は天道さまの申し子だ  
コスモスが静かに出番待っている  
台風を持って行かれた傘踊り  
退却は敗北 一步でも前へ

鳥取市 高浜 勇

あの世までガイドたのんだ覚えはない  
投げられた言葉じんわりきいてくる  
透明な水も緑や青にみえ  
かすがいが出て行き他人ふたり居る

鳥取市 池澤 大鯨

オペ延期家族多忙で立ちあえず  
後片づけ面倒なので食事抜く  
見舞客互いの愚痴を入れかわり  
することもなくて病床昼寝する

鳥取市 津村 律子

ひまわりのように大きな笑顔もつ  
満天の星グラスに受けている至福  
団扇手に窓辺は虫の演奏会  
チルドレン民主の風を刺せますか

鳥取市 山口 千代子

地味派手も破れも似合う若さの美  
夏休み豆台風がやって来た  
歯みがきがすめば食べたいものも止す  
卒寿過ぎ杖にすがらず歩く幸

鳥取市 坂本 なつみ

流れ星手の届かない清い空  
ダイヤリング大宇宙ショー涙する  
忠告がぐざりと胸を刺してくる  
じいちゃんが目薬注して泣いて見る

倉吉市 酒井 芙美子

他人から受けたご恩は忘れまい  
介護する心鬼にも菩薩にも  
内緒話広がりすぎて大つぴらに  
こそこそと出て行く先は内緒です

倉吉市 藤井美津恵  
亡き義姉の部屋をのぞけば花の鉢  
雨上り杉の木立に霧を抱き

ようやくに遅い梅雨明け緑風  
立秋と梅雨明け同時梅を干す

境港市 中井虎尾

風鈴の音聞きたくて当たる風  
不安です自民主のマニフェスト

心太食べて舞台で唄う俺  
石橋を叩いて橋と共に落ち

米子市 見山温子

平のまま終る誤算も鯛の膳  
悔しさはいつも後から湧いてくる

夕焼けに渚の恋が燃えている  
老いの暮し両隣とはコンビ組む

米子市 加藤正二

るるんで未知の世界を散歩する  
火星には水があるとか飲みたいな

シルバーマーク付けてそこのけ町走る  
はばかりずくシャミが出来る独り者

米子市 小塩智加恵

陽の当る座席が空いた田舎バス  
八十路過ぎ保険勧誘話聞く

美男子で演説うまい蛙の子  
赤シャツを着れば若いと疎まれる

米子市 田村周子  
禁断の菓子が誘惑茶の時間

ストレスを抱えて仰ぐ梅雨の空  
人生の努力実つて花が咲く

鬼面夜又心の中は阿弥陀仏

鳥取県 斉尾くにこ

痛み分けてできる夫婦と勘違い

黒子の美学我慢の後を残さない  
意地解けばこんこんと湧く澄んだ水

負け惜しみたらたら今日は敗北者

鳥取県 橋谷静江

旨い水たつぷりあって住みやすい  
祝い事つづき財布も軽くなる

考えているが実現できぬ夢  
グループのリーダーが好きついで行く

鳥取県 吉野いさお

この芝居先を読まれた節がある  
投げやりをあと四五回はするつもり

油断して妻に咬まれた二枚舌  
軸足が臭い噂でブレ出した

鳥取県 岩崎和子

梅雨明けは火花あげたい大空に  
髪の毛も縮んでいよ今日も梅雨

ゴーヤ料理やっとうにか美味しそう  
歩き終え今日も無事です空仰ぐ

鳥取県 田口清帆

団塊の余生じつくり夢を描く  
夫婦でも愛の湯かげん味かげん  
川柳でのんびり過ごす余生です  
日々感動日々新鮮な潤いも

鳥取県 加賀田志延

台本が無くて人生面白い  
貧乏な連れがくれたよ工夫の字  
今咲いた花は明日の花でない  
目元だけばっちりメイクしてマスク

鳥取県 岡村孝明

栄転へ夕餉の酒はよく弾み  
汗流す気になり過疎に移り住む  
手が触れただけで響いた青春譜  
法話胸に響きしばらく動けない

鳥取県 西谷悦子

旅人を養っている海であり  
人間の大海原で躍ってる  
生も死も海はやさしく受け入れる  
スマートに生きたい海が広すぎる

松江市 山根邦代

約束をしてから心弾み出す  
梅雨明けぬ心にかビが生えそうな  
太陽の笑顔あいたい雲の上  
明日の天気うらなう星が出ていない

松江市 相見柳歩

ペンネーム歴史の上に響かせる  
プロポーズずばり君から言ってくれ  
人生の終わり仏の手が掬う  
低い鼻ほとけが彫ったものならば

松江市 柏井日出子

ここはどこ外人ばかりの二条城  
安産の石に腰掛け渴き身や  
先斗町やつと京らし涼に会う  
球児から元気をもらうもえる夏

松江市 錦織禮子

日溜まりのいつもの縁で爪を切る  
まだですか不老長寿の薬です  
被写体の力を借りたデビュー作  
一病息災細身の賢夫人

出雲市 川島和歌子

思ったよりすんなり越えた八十路坂  
ずばずばと仕切る母さん頼母しい  
おだてられうっかりのつて本音吐く  
みの虫も風の誘いに身をまかせ

雲南市 福岡博利

長梅雨に雨だれだけが歌ってる  
度忘れを笑い合ってる老い二人  
散歩する意欲が消えた水溜り  
元氣くれる筆を毎日持っている

安来市 原 煩惱児

隠岐の島今に流人を語り継ぐ  
横文字に私は古い日本人  
横文字が辞書に有ったり無かったり  
孫と電話成長度合い感じつつ

島根県 森山 彰

青春は泥に塗れた玉の汗  
初孫の寝息をそっと聞いてやる  
いざごぞをそっとそのまま風見鶏  
脳トレもほっと一息休刊日

美作市 小林 妻子

ロボットに口伝の技は伝わらぬ  
くれぐれもくれぐれもなど耳底に  
ご機嫌の悪い日はない辻地蔵  
残飯の賞味期限を知る雀

竹原市 國 實 力

ふる里の方言消えてゆくピンチ  
生きたくて笑っています食べてます  
年齢を当てて欲しいという自信  
ひとりがいいよと妻は時どき思うだろ

竹原市 六田 半 徳

深呼吸山の空気はみどり色  
選んだら責任重い総選挙  
マニフェスト合戦終えて吉か凶  
雨水の利用方法思考中

宇部市 高山 清子

雨災害一氣に平和崩れ去り(大雨災害に遭う)  
平気だった雷今は身が縮む  
仮住い馴れぬ暮しに疲れ果て  
不景気へ台風地震また不安

今治市 渡 邊 伊津志

手から出る気力が骨を強くする  
分かつてはいるが因果は種がある  
見る人を幸せにする書道展  
思いやる心は目でも分かるらし

福岡県 林 さだき

僕の性自分のことは後にする  
見る聞く歩くいっぱいあってまだ死ねぬ  
口喧嘩半分減ればいい女房  
老い進み切るに切れないしつけ糸

北九州市 小松 紀子

足し算が苦手通帳瘦せ細り  
創意工夫されど赤字が埋められぬ  
頑張らず気ままに暮す余生です  
背を越され孫の存在頼もしい

唐津市 吉 富 節子

肩書きの名刺に頭下げ続け  
ライバル校応援に行く甲子園  
いんちきの匂い見抜けぬ欲の皮  
せつかちと五十年居てこつを知り

唐津市 岩崎 實

生きることに働くことと同じこと  
積み重ねそこに生まれるたからもの  
グラムでは何人分かわからない  
手回しのよさにこっそり涙する

唐津市 北村 松風

肩書は後期高齢新名刺  
名刺には無縁で友は農に生き  
棚田道自転車おして行く八十路  
麦藁帽豊作祈り水回り

メルボルン 藤原 ポン吉

炊きたての湯気に包まれ笑みこぼれ  
口元におべんと付けた子が育つ  
おにぎりですつ子供の力こぶ  
辛いとき腹一杯でまた明日

シドニー 三谷 たん吉

何兆円 一億人がピンと来ず  
甘言で票を操る人非人  
藍が勝つやっと実ったひとりの旅  
遼も勝つハトにやるエサ大盛りに

東京都 高岡 弥生

新記録 大安売りの新水着  
反抗期過ぎると親の出番なし  
夏終わり湿気と曇り彼岸まで  
夫と子不在私の夏休み

東京都 井上 つよし

梅雨の終りを待ち兼ねたのに秋が立ち  
ラジオ体操やつと済ませて一眠り  
暑中見舞いのお礼メールで済ませとく  
ゴーヤ朝顔緑の壁に花が咲き

昭島市 野口 忠

雷に稲穂が背伸びして応え  
遠い日の母はやつぱり避雷針  
先生の発音ノーと帰国子女  
涼しげな顔はしてるが情熱家

草加市 飯土井 健翁

明治だと舐めるでないぞ知恵を溜め  
川柳を友とし暇の無い暮らし  
折り折りは子等に小遣やる明治  
交通禍罪の意識の無い若さ

横浜市 巖田 かず枝

おしゃべりの好きなケータイ持つてる  
妻の留守家が静かで丁度よい  
蛙の子だけどちよつぱり期待する  
省エネと言つても手抜きを考える

佐渡市 高野 不二

言いかえて見てもやつぱり高齢者  
親に言われた通りには子に言えず  
道楽を一つ残している傘寿  
結局は売りに出されていた空家

八月八日八十八の誕生日

幼な友訃報の知らせ雨しきり

Vサイン交わす笑顔のケアの友

事件ですす孫ヨタヨタ初歩き

静岡市 渡辺 芳子

懸命に生きて来たけど重きつげ

ぐちは皆一人言ですOFFにする

思い出せない人にニッコリ礼返す

まぶしさや男くささの帰省の子

豊橋市 藤田 千休

またたいて恋のメールか姫ボタル

余暇の海に働き蜂があこがれる

学校へ塾の合い間に通わせる

専門のガイドが欲しい黄泉の旅

岐阜市 平野 あずま

パラソルを畳んで終わる夏の恋

空気にも値段ついている別荘地

女三人黙って啜る心太

ガンリンを満タン車嬉しそう

江南市 脇田 雅美

アリバイをきちんと言って仲直り

箸の位置仲居のしぐさ右ひだり

ぶどう狩り干したぶどうはトルコ産

年金も目立たぬように目減りする

藤沢市 加藤 スズコ

### 第32回 神戸川柳大会 神戸川柳祭'09

日時 10月17日(土) 午前10時開場  
場所 兵庫県民会館9F大ホール  
神戸市中央区山手通4-16-3  
TEL 078-321-2131

JR元町駅、阪神元町駅から北へ7分、  
地下鉄県庁前駅東1・2出口よりすぐ  
兼題 席題なし 欠席投句拝辞  
「再び」長島 敏子 選 (ふあうすと)  
「芸」梶原サナエ 選 (時の川柳社)  
「何故」河内 月子 選 (川柳塔社)  
「鍋」森中恵美子 選 (番傘川柳社)  
「週刊誌」平山 繁夫 選 (時の川柳社)  
「切手」赤井 花城 選 (ふあうすと)  
「炭」大森 一甲 選 (時の川柳社)

◎各題2句 出句締切 11時30分  
開会 13時  
会費 2千円 (各題秀句呈賞)  
主催 神戸川柳協会  
共催 ふあうすと川柳社・時の川柳社  
後援 神戸市・神戸市教育委員会 他

### あかつき川柳会 11月句会

日時 11月13日(金) 14時  
会場 クレオ大阪中央(多目的室4階)  
地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘」  
駅①、②番出口・北東へ徒歩3分  
兼題 「ベルト」「暁」「燃える」「時事吟」  
投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14  
江島谷勝弘宛

### 川柳塔のぞみ 10月句会

日時 10月27日(火) 13時  
場所 銀座区民館(地下鉄東銀座3番出口)  
宿題 「算数」「しゃかりき」「理想はそうだが(各2句)」  
「自由吟」1句  
欠席投句 10月24日 必着 播本充子宛  
〒193-0832 八王子市散田町2-31-3

# 愛染帖

## 新家 完司 選

海南市 三宅 保州

何時間寝たか毎朝考える

(評)「夜中にトイレへ行ったから…」などと計算する。健康を気遣ったことであろうが、にんげんは面白いことを考えるものだ。

大阪市 柴本ばっは

見積書届いて夢がみなこわれ

(評)あれもこれもと夢を詰め込み過ぎたのだ。このまま諦めるのは残念至極。予算の範囲内に収まるように夢を縮小しよう。

浜松市 岡田 史郎

台風に構えて居れば地震なり

(評)八月十一日朝、静岡県県の皆さんの実感。相次ぐ天変地異を止める策はまだないが、そこから発生する災害は人智で軽減できる。

大阪市 西川 冷子

夏祭り画面変われば災害地

(評)「朗らかな笑顔」に和み、「悲痛な涙」にこわばる。「朗らかな笑顔のニュースばかり」が有り得ないのは、にんげんの宿命か。

西宮市 牧淵富喜子

風鈴の釣り糸替える原爆忌

(評)戦争の恐ろしさを思い起こし、犠牲になられた人々の冥福を祈る。涼やかに鳴る風鈴の音は、ありがたい平穏の象徴。

枚方市 寺川 弘一

老後の費用妻が毎日はいじいてる  
お猿にも生命線がちゃんとある

大阪市 谷口 義

天高くもう逃げ道はないらしい

七夕に竹輪の好きな犬が死に  
畏まった顔で明太子を食べる

高槻市 富田 美義

古里はいつも優しい耳がある

盆栽は自分の意見許されず

犬釘が錆びて日本が揺れている

大阪市 森田 明子

子供へは元氣ゲンキと言っている

落ち込むとつい買っている派手な服

三田市 堀 正和

お中元ビールに過ぎるものはなし

給付金はたいて夏の上高地

寝屋川市 籠島 恵子

ため息があつちこつちで出てしまふ

あかね雲メールをしたい人がいる

羽曳野市 吉村久仁雄

恋人岬妻と微妙な距離で立つ

結論を時に任せて酒にする

鳥取県 斉尾くにこ

機嫌いい笑顔と見られ無理言われ

ていねいに書いてもなんと幼い字

堺市 羽田野洋介

いつの間にか孫の目線が高くなり

まあええかすぐ妥協する無気力さ

西予市 黒田 茂代

自己満足だけでやってる拾い

一服をするとそのまま寝てしまふ

(評)しまりのないことである。が、平穏な暮らしそのものでもある。いつの間にか、そのような歳になり、そのような体力になった。

大阪市 井丸 昌紀

そう言えは昨日もここで転んだな

(評)「昨日も」ということは、今日も転んだか転びかけたのだ。路面が悪いのか、それとも、昨日も今日も千鳥足であったのか?

紀の川市 北山 絹子

ボス猿のような男を飼い馴らす

(評)かつては、思い通りにならないと怒り狂う野蛮な男であったが、今では借りてきた猫。飼い馴らすまでのご苦労をお察しする。

加西市 金川 亘子

齒磨きも言わなきゃしない孫と夫

(評)飼い馴らしたつもりで夫であるが、横着な性格は一生直らないものらしい。孫もそのDNAをしっかりと受け継いでいる。

高知市 松尾 憲子  
築そうな夫のパンツはいてみる  
朝寝して昼寝してイザ夜の街

藤井寺市 鈴木いさお  
もしも下戸だったら家が建っていた  
正直な人は正直そうな顔

八王子市 播本 充子  
キムタクに言われてセコムしています  
B型が見ないで捨てる正誤表

豊橋市 藤田 千休  
ペンギンとサミットしてる昭和基地  
押入れに有象無象が詰めてある

米子市 政岡日枝子  
涸れかけているけど池と呼んでいる  
五年目の癌シクシクと梅雨あけず

大阪市 太田としお  
自打球は自己責任や我慢せえ  
水虫のあのしつこさを学ばねば

鳥取県 岩崎 和子  
梅雨空をトンカツ揚げて吹きとばす  
マニユアルに謝り方も書いてある

富田林市 中井 アキ  
割り箸のようにゆかぬ遺産分け  
羽曳野市 森下 一知

陰口がCO2を撒き散らす  
大阪市 大川 桃花  
暑くても葬式はある午後一時

三田市 北野 哲男  
淋しゆうて休耕田になった胸  
好奇心消えた男は日向水

堺市 矢倉 五月  
廃車したのに道路情報今朝も見る  
ぐうたらを見ている夏の動物園

弘前市 高瀬 霜石  
上半身肉食下半身草食  
胸開いた服着て見るなどは如何に

和歌山市 木本 朱夏  
お願いの連呼と競う蝉しぐれ  
立ち位置がぶれないように水を飲む

堺市 奥 時雄  
解らずに経上げていいのかな  
病人を検査予定が追い回す

東かがわ市 川崎ひかり  
偶数月諭吉迎えに銀行へ  
DNAトソビの親にトソビの子

豊中市 荒巻 夢  
蚊も必死耳朶の端咬んでくる  
とりあえずビールそのあとまたビール

鳥取市 春木圭一郎  
和歌山市 古久保和子  
医者も患者も親子二代という医院

吹田市 太田 昭  
声変わりの孫と思つたのが迂闊  
四ツ角を上手に曲がる消防車

鳥取県 竹信 照彦  
松葉杖使う両手も足もある  
杖ついてバリアフリーを思い知る

尼崎市 春城 年代  
鼻歌は久しぶりだなさるすべり  
たまごかけごはんが続く一人の昼

枚方市 伊達 郁夫  
長梅雨に濡れた男が乾かない  
転ぶ度道の長さを知らされる

鳥取市 倉益 一瑠  
要介護5に百均の髪飾り  
強がりよひとりじゃ棺に入れまい

奈良市 矢野 良一  
面従腹背やつと覚えた処世術  
五十年何とか成るで生きている

羽曳野市 吉川 寿美  
敬老の日の座布団が厚すぎて  
左遷地の水がうまいと書いてある

藤井寺市 太田扶美代  
花火見るふりして天国を仰ぐ  
草を引く不意に虚しくなってくる

大和郡山市 坊農 柳弘  
車座で独り善がりの紫煙の輪  
貸し借りがちよつぱりあって無一の友

橿原市 居谷真理子  
嫁姑最初に潰れたのは男  
教養があつて俗人にもなれる

豊中市 松尾美智代

吟醸酒冷やして飲めば飲みすぎず

手を抜いた子がたくましく育つて

海南市 小谷 小雪

ちよつと見て甘えられるか見極める

揺れだした空気に足を踏んばって

奈良市 岩本 浩一

助手席でナビする妻が姦しい

組板の今朝のリズムが低気圧

鳥取県 加賀田志延

踏んばって回し続ける妻の独楽

完璧に赤と書くなら赤いペン

八尾市 高杉 千歩

面白い話に飢えたまま立秋

大阪情話夫に聞かすご命日

和歌山県 森下よりこ

私にしては上々の人生

目立ちたがりの妹が主導権

八尾市 吉村 一風

平凡が上出来みんなもう八十路

髪染めて席を譲られなくなつた

米子市 白根 ふみ

物忘れ部分日蝕めいた脳

豊中市 水野 黒兎

童巻がわたしめがけて飛んでくる

倉吉市 山中 康子

ドロップ缶からから鳴って終章に

豊中市 谷川 勇治

松江市 三島 崧丘

酒つまし明日の事など考えぬ

堺市 村上 玄也

ほろ酔いのうちは財布を気にしてる

雨三日お化け胡瓜を切り刻む

大阪市 津守 柳神

詩の朗読函のすき間から音がもれ

藤井寺市 津田シルク

年金が無ければ僕も粗大ごみ

鳥取市 岸本 安章

子よ育てあんまり手数かけぬよう

豊中市 安藤寿美子

敬老会の通知が二枚来ています

美作市 小林 妻子

度胸などいらぬあなたの傘の中

和歌山市 武本 碧

後厄を三度のオベでまぬがれる

鳥取市 池澤 大鯨

お盆前亡父はやばやと夢に立つ

箕面市 広島 巴子

八月の空の彼方の深い悔い

藤井寺市 若松 雅枝

お隣の核実験に音を上げる

東かがわ市 木村あきら

父母逝つて里のこだまが返らない

奈良県 渡辺 富子

すぐに出る愚痴が私を駄目にする

富田林市 大橋 鐘造

鳥取県 石谷美恵子

大根もごぼうも気持ちいい足湯

茨木市 藤井 正雄

八十の手習い孫とEメール

美作市 福原 悦子

番組がつまらなくなる祭日だ

安米市 原 煩惱児

嫁さんの親と時々いい電話

香芝市 大内 朝子

当り前の事が嬉しい古希の坂

泉佐野市 稲葉 洋

夕焼が淋しくないぜ明日は晴

堺市 近藤 治子

まだ死なぬ信じて今日も始まつた

大阪府 澤田 和重

孫と遊ぶ時は童話の顔になる

倉吉市 松本よしえ

えちぜんくらげ食べられるならいいのにな

大阪市 田浦 實

働くしか能がなかった父母偉大

加東市 中上千代子

丸い背の影したがえてゆく畑

弘前市 高橋 岳水

改修の川から消えてゆくホタル

鳥取市 大前 安子

不意の客縁側からのおでました

紀の川市 辻内 次根

シルバースhirt先に座つた者の勝ち

市 荻野 象山  
齒にドリル痛けりや右手上げと言う

鳥取市 有沢せつ子  
気配りのない子も言えはしてくる

弘前市 福士 慕情  
水害のたびに被害に遭うメダカ

八尾市 中島 春江  
ばて気味のからだになじむ冷奴

羽曳野市 酒井 一壺  
びつたりと合わぬ日もあり夫婦にも

松江市 安食 友子  
アゲンスト物ともせずに千鳥足

四條畷市 吉岡 修  
わからんけどお経ただただ写して

大阪市 榎本 舞夢  
犬を呼ぶ時のやさしいお父さん

鳥取県 大塚美代子  
年毎に腹の時計も狂いだす

堺市 遠山 唯教  
スランプを抜ける我慢がむつかしい

松江市 錦織 禮子  
大小の不覚日常茶飯事に

高知市 小川てるみ  
秘密などないから回る風車

唐津市 樋口 輝夫  
ごゆっくり言っはいるが茶も出ない

大阪市 岩崎 玲子  
腹が立つ姓かわってから運悪い

大阪市 神夏磯典子  
隅っこに居てもしつかり聞いている

和泉市 横山 捷也  
子を育てあとは各駅停車の灯

鳥取市 津村 律子  
悪性腫瘍とれても認知との戦

加東市 黒崎美紗子  
球までも木陰の涼へ飛んで行く

姫路市 古川 奮水  
ペダル踏む自転車挨拶はベコリ

大阪市 小泉ひさ乃  
人の世をひっそり見てる昼の月

札幌市 三浦 強一  
後期高齢一人一匹終の宿

藤井寺市 高田美代子  
つまらない事にこだわる独り酒

鳥取市 土橋 登  
安木節どじょうすくいには難しい

大阪市 古今堂蕉子  
自己嫌悪時々ねむらせてくれぬ

岸和田市 井伊 東吉  
お供物にジュースが届く下戸の家

京都市 高島 啓子  
ミシユランがどうしたという京料理

神戸市 山口 光久  
弱震も激震もあり半世紀

シドニー 坂上のり子  
気安く喋る日本語やはりありがたい

弘前市 相馬 銀波  
長梅雨に疲れた傘が乾かない

鳥取市 西川 和子  
雨の日に梅雨が明けたと報じられ

奈良市 加門 萌子  
繰り言も付き合いのうち湯治の日

明石市 桃谷 和郎  
たんぼぼが飛ぶゆつくりと生きてみる

西宮市 緒方美津子  
亭主関白は絶滅危惧種かな

鳥取市 夏目 一粋  
親孝行をことわって逝つた父母

八王子市 川名 洋子  
回り道しすぎたような気がしてる

大阪市 奥村 五月  
後期でも俺の鱗はまだ無傷

富田林市 片岡智恵子  
遅い肩幅に惚れ半世紀

大阪市 福岡 末吉  
ひと安心筆致軽妙妻のメモ

日立市 吉成 ます  
買うほうが安い野菜に鋏を振る

和歌山市 磯部 義雄  
マニフェスト追肥のことが書いてない

堺市 宮本かりん  
足して二で割れば夫の色になり

大阪市 坂 裕之  
他人にはあんなに笑顔見せるのに

平成二十一年度 路郎賞

路郎賞準優秀作第一席

鳥取市

檀原市 安土理恵



福西茶子

一日一笑ネタは身近にたんとある

深呼吸ときどき毒も吸っている

お昼まで寝ます お日さま悪しからず

即答の癖で貧乏くじばかり

心経もワルツになりそ嬉しい日

三日前実兄を病気で失い、悲しみに打ちひしがれていた矢先、突然の受賞の知らせに一瞬耳を疑い、次の瞬間、一生懸命後押ししてくれた亡兄の顔がタプリ、嬉しさと悲しみが同時に押し寄せて参りました。路郎賞だなんて、一生縁の無い賞と思っ居りましたので夢のようです。未熟な私を今までご指導下さいました皆様、入選させていただいた選者の皆様、本当にありがとうございます。今後とも一生懸命精進いたしますのでご鞭撻の程宜しく願います。

柳歴

平成十二年 川柳塔鹿野みか月入会

平成十六年 川柳塔同人

平成十九年 第59回西日本川柳大会第二位

路郎賞準優秀作第二席

高知市 小川 てるみ

この道と決めて一本木を植える

青い実が熟し切れずに落ちている

ご機嫌が斜めツンツン酔の匂い

辛せの種をせっせと蒔き直す

独りではないと悟ってよく笑う

平成二十一年度 川柳塔賞

川柳塔賞準優秀作第一席

札幌市

海南市 小谷小雪



小沢 淳

福も禍もお入りなさい半開き

ごつくんと清水飲み込む道半ば

だとしたらこれからさらに急な坂

異次元に居る母からのモノローグ

ピーナツをほちほち名案を探す

川柳塔賞準優秀作第二席

明石市 桃谷和郎

美しい地球に寄生する人科

日常を切つて惰性を絞り出す

死んだ気でやってないから生き延びる

お互いの運も分らず旅をする

いい笑顔ほどよく毒が抜けている

この度受賞の知らせを頂き、事の大きさに  
只々運に恵まれたものと感激致しております。

柳歴

平成十五年

北海道川柳研究会同人

十八年

川柳あきあじ吟社幹事

二十一年

川柳塔社誌友

二十二年

川柳研究社誌友

二十三年

台湾川柳会会員

柳友の皆さん、これからもお世話になります  
すが、よろしくお願ひいたします。

咲いて散るそんな自然に僕もいる  
手ぶらでは何故か真つ直ぐ歩けない  
されど辞書これほど世話になろうとは  
おまけだと思えば余生気が軽い  
見て見えぬ聞いて聞こえぬ他人事

## 路 郎 賞 得 点 表 (応募総数142名)

1位=5点 2位=4点 3位=3点 4位=2点 5位=1点 (表の数字は得点)

作家 選者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
河内 天笑			1						3		5							4		2
西出 楓楽					5										2	1	4			3
小野句多留				2			3	1		4										5
今 愁女	5				2		4					3	1							
坊農 柳弘			2					3		5				1	4					
穴吹 尚士	4		5	3					2						1					
井伊 東吉									1	4					2		3	5		
出口セツ子	1				3									4	5					2
寺川 弘一	3				2	5			4							1				
平松かすみ		2		1							3	4					5	4		
藤村 亜成										3	4					5	1	2		
黒田 能子					4	2											5	3	1	
牧渕富喜子					5				3					1	2					4
山口 光久				2	3				4							1		5		
喜田 准一			5					1			2				3	4				
武本 碧				2							1					5	3	4		
石谷美恵子										1	3					2		4		5
夏目 一粋		2			5		1	4	3											
最上 和枝				3			2				5				4					1
両川 洋々	2		5			1									4					3
伊藤 寿美					5				3							1			2	4
竹治ちかし					4				3							1		5	2	
松本 文子		4	5			1			2								3			
大石あすなろ	2										3				5				1	4
山本 玉恵			1					2			3					4			5	
市丸 晴翠	2							3			4				1				5	
清川 玲子			4			5					1					3		2		
<b>合 計</b>	<b>19</b>	<b>6</b>	<b>28</b>	<b>2</b>	<b>17</b>	<b>(46)</b>	<b>6</b>	<b>15</b>	<b>30</b>	<b>7</b>	<b>(47)</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>27</b>	<b>33</b>	<b>18</b>	<b>(40)</b>	<b>21</b>	<b>33</b>
	吉村久仁雄	近藤佳子	井丸昌紀	藤井則彦	吉岡修	安土理恵	山田耕治	坂上淳司	志田千代	板東倫子	福西茶子	清原悦子	春城年代	榊本宏子	岩崎公誠	山岡富美子	神夏磯典子	小川てるみ	久保田千代	倉益一瑠

## 川柳塔賞得点表 (応募総数 68名)

1位=5点 2位=4点 3位=3点 4位=2点 5位=1点 (表の数字は得点)

作家 選者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
河内 天笑	2							1	5						4					3
西出 楓楽	4	5		1		2				3										
小野句多留			1	2										5				4	3	
今 愁女				2			3		4			1						5		
坊農 柳弘			2	5						1				3			4			
穴吹 尚士				5				4		1							3		2	
井伊 東吉				4	1			2						3						5
出口セツ子			3	2						4									5	1
寺川 弘一								4		2			1							5 3
平松かすみ							3				2	5		1						4
藤村 亜成	3													1	2	4		5		
黒田 能子		4			1			3						5			2			
牧瀨富喜子	5								4							1	2		3	
山口 光久	3						5	4									2		1	
喜田 准一	5	1									4									2 3
武本 碧	3			5					1					4	2					
石谷美恵子			2					1										3	4	5
夏目 一粹			3	1	5			4										2		
最上 和枝	1		2				4				3							5		
両川 洋々	5				4		2	3												1
伊藤 寿美			2			1			5						4		3			
竹治ちかし								1						2		3	4		5	
松本 文子		5						3	4						2			1		
大石あすなろ					3		2			1				4						5
山本 玉恵								1						2		4			5	3
市丸 晴翠	5			4							1			3					2	
清川 玲子									5		1			2					4	3
<b>合 計</b>	<b>36</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>26</b>	<b>19</b>	<b>1</b>	<b>24</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>12</b>	<b>11</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>32</b>	<b>14</b>	<b>12</b>	<b>20</b>	<b>34</b>	<b>53</b>	<b>15</b>
	小谷 小雪	吉井 菜々子	助川 和美	桑名 孝雄	花岡 順子	平野 あずま	早川 孝子	山崎 武彦	西谷 悦子	岡村 孝明	津田 シルク	菅田 かつ子	野口 忠	川島 良子	森下 よりこ	吉田 陽子	松尾 美智代	糞谷 和郎	小沢 淳	六田 半徳

## 平成二十一年度二賞選考委員

### 第一次選者(六名)

河内 天笑・西出 楓楽・川上 大輪・小島 蘭幸  
村上 玄也・山本希久子・木本 朱夏

### 第二次選者(二十七名)

本社関係(二名) 河内 天笑・西出 楓楽

地方関係(二十五名) (一)内は人数 プロック内五十音順

### 〔北海道・東北 関東 北陸ブロック(2)〕

小野句多留・今 愁女

### 〔京都・奈良ブロック(1)〕 坊農 柳弘

### 〔大阪ブロック(6)〕

穴吹 尚士・井伊 東吉・出口セツ子・寺川 弘一

平松かすみ・藤村 亜成

### 〔兵庫ブロック(3)〕

黒田 能子・牧渕富喜子・山口 光久

### 〔和歌山ブロック(2)〕 喜田 准一・武本 碧

### 〔鳥取ブロック(4)〕

石谷美恵子・夏目一粹・最上 和枝・両川 洋々

### 〔島根ブロック(3)〕

伊藤 寿美・竹治ちかし・松本 文子

### 〔岡山・広島・山口ブロック(2)〕

大石あすなろ・山本 玉恵

### 〔四国・九州(2)〕 市丸 晴翠・清川玲子

昨年九月から今年八月の間に

誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を  
選択して応募してください。

ただし、「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳  
塔賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、  
間違いのないようお願いします。

## 平成二十一年度各賞選者

愛染帖賞 新家 完司

檸檬賞 高瀬 霜石 木本 朱夏

一路賞 小西 雄々 松原 寿子

各地柳壇賞 遠山 可住 播本 充子

## 受賞者の皆さんおめでとう

### 河内 天笑

十名の受賞者の皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

路郎賞・川柳塔賞は、一次選者七名、二次選者二十七名の延べ三十四名の厳しい目を通してだけあって、川柳塔色の出た味わい深い句が選ばれました。とは言えノミネートされた各二十句に優秀はなく、惜しくも賞に入らなかつた人も大いに胸を張って、来年リベンジを果たしていただきたいと願っております。

路郎賞ははからずも三人とも女性になり、近頃の女性のパワフルさを見る思いがします。川柳塔女性のそのパワーは肩肘を張つたものでなく、人を暖かく包容するものであることが、句から読み取れます。

川柳塔賞の小沢淳さんは、昨年の準優秀作二席に続く快挙で実に見事です。受賞の三人の句は理知的でありながら理屈が前面に出ず、すつと心に解け込む感じがあります。

愛染帖賞の奥時雄さんの句には、上質のユーモアが漂っていてホッとさせられます。檸檬賞の居谷真理子さんの句は、辛辣で川柳らしい川柳です。一路賞の白根ふみさんの句には真摯な祈りがあり、米田恭昌さんの各地柳壇賞には、人間讃歌があります。

以上六賞のどの句も、どこへ出しても川柳塔として誇れる句です。

## 二賞選考経緯

### 木本 朱夏

兵庫・山口その他、集中豪雨の甚大な被害に胸痛めながら、例年のように八月十二日、第一次選考を行った。

路郎賞には昨年と同数の百四十二名、川柳塔賞には一名プラスの六十八名の応募である。例年のように規定違反がないか、チェック作業にはいる。

応募規定には作品の掲載月と掲載頁を記載のこと、と注意してあったにも関わらず記載洩れがあったり、何故か各地柳壇に掲載された作品から選んでいたり、単純なミスで失格となつた方も……。

また二次選者に選ばれた人が応募されていたが、応募資格がないことも確認したい。

一次選考に残つた作品の中から、最終の二十編を天笑主幹が決定。コピーの上、全国の二次選者に郵送。

二十一日、返送された選考結果を西出理事長立会いのもと、木本朱夏、山岡富美子が事務所で集計。路郎賞・川柳塔賞が決定した。

昨年も書かせていただいたが、一年間の自分の作品を丁寧に見直して応募作品五句を自選することは、案外難しいようだ。

麻生路郎は「いのちある句を二句を遺せ」と叫んでいる。来年こそ多くの同人・誌友が応募してくださることを期待したい。

## 二賞候補者在住地

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
路郎賞	羽曳野市	鳥取市	大阪府	豊中市	四條畷市	橿原市	尼崎市	河内長野市	堺市	大阪府	鳥取市	東京都	尼崎市	京都市	大阪府	河内長野市	大阪府	高知市	三田市	鳥取市
川柳塔賞	海南市	西宮市	泉大津市	香南市	大洲市	岐阜県	神戸市	神戸市	鳥取県	鳥取県	藤井寺市	雲南市	昭島市	横浜市	和歌山県	米子市	豊中市	明石市	札幌市	竹原市

受賞作品

堺市 奥 時雄

死んだなら酒のせいだと言われそう  
右利きは時計回りに腹撫でる  
老妻に甘えてみたら喜ばれ  
審判もやらせてくれる草野球  
もし明日死ぬなら今夜何食べる

評 奥時雄：「死んだなら」の共感性あふれる自嘲。「右利きは」のナンセンス・ユーモア。「老妻に」の諧謔性。「審判も」の温かい人間味。いずれも川柳の手本となる。岡田史郎：掲出三句共に、自らの姿を正直に吐露。特に「雷鳴に」の「弱さ」は普遍性があり、誰もが共感できる。  
水野黒兎：静かに落ちて着いて自省している結果、句も格調高く仕上がっている。「ポケット」の詩性を高く評価する。藤田千休：「国会に」の批判性。「がりがりも」の見付け。「上役」の比喩。いずれもレベルが高い。  
(新家完司)



奥 時雄

ゴルフのブービー賞以外およそ賞には無縁と思っていた  
ただだけにこの度は驚きました。わけても愛染帖賞を  
頂けるとは、私にとって最高に嬉しく名誉なこと感謝  
しています。川柳でこんなに心地よい酒が飲めるとは思  
いもよらぬこと、選者に感謝しつつもう一丁「カンパニー」

柳 歴  
平成十四年 そうりゆう会 会員  
平成十四年 堺川柳会 会員  
平成十四年 エイシスの会 会員  
平成十八年 川柳塔同人

準賞作品

浜松市 岡 田 史 郎

妻臥せて朝からメシのことばかり  
コンビニの前で花見の勢揃い  
雷鳴にまだ生きる気で逃げ帰る

豊中市 水 野 黒 兎

まだ知らぬ日本語あまた広辞苑  
ポケットにどんぐり握り古稀となる  
目の底で蚊の飛びまわる古稀の春

豊橋市 藤 田 千 休

国会に乳母日傘が群れている  
がりがりも肥満も同じ火葬代  
上役の顔でワイフが指示をする

受賞作品

榎原市 居谷 真理子

許しますもう愛してはいないから

評 毎月の沢山の句との格闘に大いに疲れ、そしてたつぷり楽しんだ。特に、朱夏さんとの共選は光栄であり、気が合いが入った。真理子さんの句は、いつも「僕好み」でわくわくした。選者冥利に尽きた。充子さんは抜群の実力者。できるならダブル受賞としたかった。  
(高瀬霜石)

評 たくさんの力作と向き合った一年間でした。受賞作を決めるにあたり、霜石さんと私、それぞれが選んだ五句計十句の候補作品の中から主幹が決定しました。受賞作品は一読明解、穿ちの利いた作品。準賞は「永遠」と「ラムネ玉」の取り合わせが新鮮な作品でした。  
(木本朱夏)



居谷真理子

川柳を詠める幸せ、作品を読んで頂ける喜び。その上今回、望外の賞まで頂戴致しました。これはおそらく激励の鞭と受けとめ、これからも川柳とともに歩んで参ります。本当に本当にありがとうございます。

柳 歴  
平成 十年 川柳塔なら入会  
平成十二年 川柳塔同人  
平成十四年 路郎賞準優秀受賞  
平成十八年 愛染帖賞受賞

準賞作品

永遠に本音を吐かぬラムネ玉

播本 充子

候補作品

ゼロ金利いつまで続く鎖編み 高島 啓子  
そうですかあなたの根っこもゼロですか 高橋 宏臣  
にんげんに化けてうろろろしています 夏目 一粋  
鍵穴でジキルとハイド入れ替わる 広島 巴子  
ペパーミントが真実を語らせる 播本 充子  
明日からは旧姓きつといい未来 柴本ばつは  
叱られた0点叱った0点 櫻庭 順風  
合鍵をもらう私も共犯者 生嶋ますみ

受 賞 作 品

米子市 白根 ふみ

美しい地球を雲間から念ず

評 地球の環境破壊、特にCO<sub>2</sub>発生量削減は、グローバル的に解決すべきである。「庶民の「念ず」がこの句のキーワードと解したい。

準賞作品は、人間としての頑張りと闘志をたたえ、また「役者」という隠喩法で、共に豊かな心情が描かれ、魅かれるものが多い。

評 遠い昔、山間に架けられた筧から流れ落ちる水を両手に受けて飲んだ記憶がある。全てを育む地球なればこそ人間の根源的な物への批判と反省がこの句の着想を踏まえて力強く伝わってくる。準賞作品は大朔さん独自の持ち味と一本筋の通った気迫に生きざまが窺える。さまざまな感動や心情的な風詠が織り込まれた充子さんの句は、優しい父に癒される。候補作品は全体的に人としての心が滲み出ている。

(松原 寿子)



白根 ふみ

川柳塔さやらほく会長の政岡日枝子さんから思いもかけぬ一路賞受賞の報せをいただき、この私に！と唯々驚きで一ぱいでした。

平素は地域の諸先生方からご指導をいただきその賜物だと深く感謝しております。本当に有難うございました。

これを励みにまた続けていきたいと思えます。

準 賞 作 品

煮えたぎるファイトが壁をこじ開ける 萩原 大朔

いい役者でしたやさしい父でした 播本 充子

候 補 作 品

ご自愛を祈って花の切手貼る 徳山みつこ

閻魔様に抜かれた舌が生えている 大谷 篤子

流れ見て内緒はなしを小出する 岩崎 公誠

母さんの分がなくなる不意の客 早川 遡行

拉致という短い棘がまだ抜けぬ 奥谷 彩子

柳 歴

平成二年 川柳塔さやらほく入会

平成四年 川柳塔社同人

平成十七年 茴香の花賞受賞

受賞作品

奈良市 米田恭昌

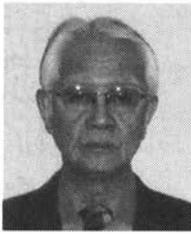
節くれた指が一途に鶴を折る

評 選者二人が迷うことなくこの句を推しました。一読明快、これぞ「いのちある句」でしょう。準賞句、候補句も手垢の付いていない佳句でした。

(遠山 可住)

評 十善戒の不邪見(正しく判断しよう)不偷盜(他人のものを尊重しよう)を基に選考しました。穿ち、比喩に加え、個性を大切にす川柳界であって欲しいものです。

(播本 充子)



米田 恭昌

趣味ひとつとつちよつと芽の出で伸びぬままと詠んでいた全く賞に縁のない私が受賞とは、驚きと喜びで一杯です。毎月ボランティアで介護センターへ行っています。が、受賞はその時の様子を詠んだ句で、数多の佳句の中からお目を止め、選んで頂いた方々に厚く感謝申し上げます。これを機にまだまだ精進せねばと、気を新たにしております。有り難うございました。

柳 歴

昭和六十一年 NHK川柳教室

(橘高薫風先生に師事)

平成元年 川柳塔社同人

現在 川柳塔理事、常任理事を経て

参与 翠洋会会長 川柳塔なら

奈良登美ヶ丘産経女子園講師

準賞作品

子育ては楽しかったよさくらんぼ 古田比呂子  
三億円入れる金庫は買うてある 北野 哲男

候補作品

花の名を教えてくれた山男 山本 義子  
品格を積み重ねます本の虫 澤村 哲史  
きらきらと暮りたいから好奇心 黒田 能子  
企みを閉じ込めている山椒粒 牧野 芳光

# 誹風柳多留一篇研究 50

伊吹和男・山田昭夫

増田忠彦・山口由昭

小栗清吾

清 博美

377 人のすゝみをかわかしにひらだ舟

伊吹 この場合のかわかすは、ただで見たり聞いたりすること。平田舟は、底が平たくて喫水が浅く、細長い大形の川舟。吉野丸や川一丸など川涼みの屋形船の中での、歌や三味線や踊りといった他人の遊興を、平田舟からただで見物する人たち。

清 賛。 ひきやむとよしの、くるり川と成 九35

378 なびかぬと鎌でおどかす麦の中

伊吹 麦畑の中での村出合い。言うことを聞かぬ田舎娘を鎌でおどすとは、おだやかでな

い。鎌や麦やなびくなどの縁語仕立の句。

清 賛。 だけへからおらやたといふ麦の中 三九二

379 かさぬくせいけんかましい事をいひ

伊吹 例句のように貸すのなら意見も我慢して聞いていられるが、貸しもしないで意見を言うとは、ふざけた野郎だ！

かさそうでいけんかましい事をいひ

一五三一

山田 賛。 まったく口だけ言う輩の何と多い事か。  
清 賛。

380 ほりかけた白などの有ルさかいろん

伊吹 使い古した白は、石垣や飛び石に再利用されているのをよく目にする。彫りかけた白に何か深い意味があるのだろうか。境論は、論争というより境界線の確認といったものだと思う。現代でも境界線の確認は、昔に埋められていた石の列でお互いが納得している。新しいのは矢印や赤い筋の入った六方法体のコンクリートの石片一個が、地表から見えるように埋められている。境界線の確認をしようにしたら、彫りかけた白が出てきたというのだから。

かた炭がさかひから出て物をいふ

安七仁四

山田 賛。「彫りかけた白」には特に意味はないと思います。まさに「などのある」です。  
山口 賛。掘り出さずとも雑然と置いてある様にも思える。要するに境に無頓着だったのである。  
清 賛。

381 旦那敷まじやうと四ツ手帯をとく

伊吹 木綿の座布団も持っていない時化した四ツ手は、駕籠昇が帯を解いて着ていた半纏を駕籠の底に敷いてくれる。

大門を出ると木めんのふとんなり

安八義3

清 賛。

382 あてことも無と財布を母ハもぎ

伊吹 当事もないは、とんでもない。どら息子  
が遊興費はしさに親の財布を盗みかけたの  
を母親が見つけ、大それた事をするものでは  
ないとその財布を取り上げた。

盗人を捕らへ母親を下ヶ

二六38

清 賛。

383 きつい事昨夕迄ハしぶんなり

山田 武家の年礼は、供揃えの上で参上する  
のが礼儀。しかし常雇いなど出来ない下級の  
武士は、町人などを臨時に雇い、俄武士に仕  
立てて恰好をつけることが行われた。

武士のまねして、錢を三日とり

安六55会

日当は、

武道やつして四百取松のうち 八八17  
という句のように一日当たり四百文というの  
もあつたようだが、

上下はかそう武百て来てくりやれ

天三智2  
辺りが相場であつたようだ。しかし、  
松がとれるとさむらいが百さがり 一一一  
とあるように、松の内が過ぎると半分となる。

江戸で松の内は七日間だが、武士の場合は前  
掲の「安六55会」の句のように、少なくとも  
目上の士分には、正月三が日で終わつていた  
のだろう。

昨夕は「昨日の夕方」(「日国」)で、「十六分」  
はその臨時武士のこと。彼は三日の夕方まで  
は士分で、身揃えから日当まで結構な身分だ  
つたが、早くも今日は元に戻つてしまった。  
現実には厳しく、この落差はまことに「きつい  
事かな」。

小栗 ただ、三日たてばアルバイト終了は当  
初からわかつていたことだから、それが「き  
つい事」というのは違和感がある。しかも正  
月を不示措辞もない。別解がありそう。

伊吹 別解があるとすれば、妹の不始末なか  
なで、身分を解かれた妾が兄。  
ばかな事いもとがしんで武士をやめ

二二27

清 伊吹説の妾が兄か。

384 くらやみへ四ツ手衣を引いて行

山田 暗闇は、俚諺「暗闇から牛」を利かせ  
たもの。江戸高輪には牛車用の牛がかなりの  
数(千疋以上とも)が飼育されていて、高輪  
車町の道は牛町と俗称されたほどであった。  
主題句は、暗闇から牛、牛から品川を暗示  
したところがミソで、四つ手が芝増上寺の僧  
を品川へと「引いて行き」。

十八丁あなたへ僧ハ四ツで也

一五27

山口 賛。暗闇は女犯の僧が墮ちる暗黒世界  
でもある。

小栗 賛。四つ手が客引きのため、暗い方へ  
引つ張つていく光景と思つていました。

清 賛。

385 花の山鬼の門とハおもわれず

山田 「花の山」の上野は「鬼の門」つまり  
鬼門「とは思われず」。上野は江戸城の丑寅  
(東北)の方角にあり、いわゆる鬼門に当た  
る。しかし、桜時分や寛永寺の参詣の賑わい  
からは、とても鬼門などと縁起の悪い所とは  
思われたいのは無理もない。しかし寛永寺は、  
もともと江戸城の鬼門を守る霊場として建立  
されたものである。

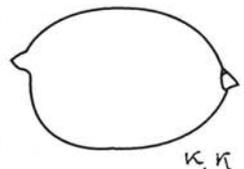
清 賛。此うへの無ひ結構な鬼門ン除ヶ

三九6

共選欄

檸檬抄

(薫風書、カットとも)



「削る」 牛尾 緑良選

ひっそりとしのぎを削る水面下  
名工のミクロ単位のかんな屑  
エンピツを削るナイフは父譲り  
半分は削ってもいいのが会議  
日本列島端の方から削られる  
ゼロ一つ削れば届くネックレス  
さびしいから削る気はない生活費  
過去の傷消して出直す削除キ―  
不況風骨身を削る音がする  
しがらみがあり交際費削れない  
削ったら海の匂いのかつを節  
国のため命削っていた昭和  
鉛筆を削ると湧いてくる勇氣  
筆箱に消えて久しい肥後守  
心ない落書削り取る遺跡

- |       |    |     |
|-------|----|-----|
| 大阪狭山市 | 矢野 | 梓   |
| 西予市   | 黒田 | 茂代  |
| 大阪府   | 澤田 | 和重  |
| 豊中市   | 藤井 | 則彦  |
| 唐津市   | 山口 | 高明  |
| 岐阜市   | 平野 | あずま |
| 池田市   | 栗田 | 久子  |
| 松江市   | 三高 | 淞丘  |
| 藤井寺市  | 若松 | 雅枝  |
| 奈良市   | 米田 | 恭昌  |
| 海南市   | 三宅 | 保州  |
| 大阪市   | 鶴田 | 遠野  |
| 和歌山市  | 玉置 | 当代  |
| 岸和田市  | 井伊 | 東吉  |
| 尼崎市   | 長浜 | 美籠  |

「削る」 高田 美代子 選

盆休み孫に預金を削られる  
削るのは決って僕のお小遣い  
ああ言えばこう言う舌へ削除キ―  
削られてみごと入れ歯にすげかえる  
シンプルになるまで私を削る  
木の枝を削り岩魚を串刺しに  
貧困の政治が削る命まで  
身を削る思いへ母の苦勞性  
四捨五入バサッとわたし削られた  
禅修業心が丸く削られる  
家呑みにしるとはっさり削られた  
名工のミクロ単位のかんな屑  
鉛筆を削り明日を書く支度  
子育てに削った骨がまた疼く  
鈍行のダイヤを削る村は過疎

- |       |     |     |
|-------|-----|-----|
| 大阪府   | 初山  | 隆盛  |
| 和歌山市  | 磯部  | 義雄  |
| 大阪府   | 高木  | 道子  |
| 東かがわ市 | 清川  | 玲子  |
| 寝屋川市  | 籠島  | 恵子  |
| 愛知県   | 早川  | 遯行  |
| 米子市   | 高田  | 振作  |
| 香芝市   | 大内  | 朝子  |
| 羽曳野市  | 徳山  | みつこ |
| 東大阪市  | 佐々木 | 満作  |
| 四條畷市  | 吉岡  | 修   |
| 西予市   | 黒田  | 茂代  |
| 大阪市   | 坂   | 裕之  |
| 篠山市   | 沢山  | 啓子  |
| 弘前市   | 相馬  | 銀波  |

身を削る思いでホームあとにする  
 どこをどう削り仕送りましたか母  
 家計簿に夢を削った跡がある  
 酒代を削ると生きる価値がない  
 良心の錆をこっそり削り取る  
 良心の疼きを削り立ち直る  
 身を削る苦勞免れ肥満体  
 エンピツを削るだけならいいナイフ  
 ひっそりと削る愛した人の名を  
 ふところを少し削って祝い金  
 簡単に削って見せる情と金  
 イケメンに惚れて命を削られる  
 鉛筆を削って一句捻り出す  
 老々介護いのちを削る音がする  
 もつたいない命を削るなどしない  
 かと言って食費削れぬ食べ盛り  
 私のお皿そっと削っとく  
 自尊心削れば通用する顔だ  
 子育てに命削ったあとがある  
 少しずつ欲を削って生きている  
 削除キー腹立ちまざれだとしても  
 削るとこ無い家計簿とニラメッコ  
 削られることを見越した予算案

和歌山市 堀 富美子  
 堺市 加島 由一  
 河内長野市 山岡富美子  
 鳥取県 稲村 遊子  
 吹田市 穴吹 尚士  
 和歌山市 松原 寿子  
 堺市 近藤 治子  
 芦屋市 黒田 能子  
 松江市 川本 畔  
 西宮市 泉水 冴子  
 西宮市 片山 忠  
 和歌山市 福本 英子  
 高石市 浅野 房子  
 倉吉市 山中 康子  
 東かがわ市 清川 玲子  
 和歌山市 田中 みね  
 雲南市 菅田かつ子  
 八尾市 宮崎シマ子  
 鳥取市 春木圭一郎  
 札幌市 三浦 強一  
 和歌山市 古久保和子  
 加東市 中上千代子  
 堺市 村上 玄也

原点に戻ろう風が石削る  
 削られて削って磨く仏の目  
 やりくりの家計を削る祝い事  
 ニードルで削ると私らしい顔  
 骨身削った貯金の利子の当て外れ  
 価値観が違う人だと切り捨てる  
 ぼっと出の良さは荒削りなところ  
 お手伝いしてます削除されよう  
 味付けができぬ年金削られて  
 一行を削ればそれは果し状  
 少し鼻削れば話聞いてやる  
 一匹の猫と私の削り節  
 國のため命削っていた昭和  
 青春は食費削って見た映画  
 名簿からひとり削る花瓶  
 鉛筆を削ると謎が解けてくる  
 国防費削れば見えてくる平和  
 貧相なからだを削る虎落笛  
 6Bを削り火花の前祝い  
 肩書きを削れば角も取れてくる  
 一つずつ許し重荷が削られる  
 宮大工職まで透かすカンナ屑  
 削られた森からけものたちの乱

青森県 松山 芳生  
 砂川市 大橋 政良  
 加東市 黒崎美紗子  
 西宮市 吉井菜々子  
 堺市 荻野 像山  
 三田市 堀 正和  
 高槻市 左右田泰雄  
 大阪市 古今堂蕉子  
 大阪府 野田 栄呼  
 美祿市 安平次弘道  
 泉佐野市 稲葉 洋  
 紀の川市 北山 絹子  
 大阪市 鶴田 遠野  
 大阪市 萩原 大朔  
 紀の川市 宇野 幹子  
 川西市 西内 朋月  
 藤井寺市 鈴木いさお  
 鳥取市 夏目 一粋  
 倉吉市 山中 康子  
 藤井寺市 若松 雅枝  
 八尾市 宮西 弥生  
 奈良市 田中 賢治  
 鳥取市 倉益 一瑠

エンピツを日がな削って無為無策  
欠点を削ると個性消えて行く

お小遣い削るとママのマニフェスト  
これ以上何を削れと言う家計

削除キー押せば白紙になれますか  
後輩に天狗の鼻を削られる

削られた主役削られない端役  
少しずつ削って三世代同居

削られてまた削られて木の仏  
一行を削ればそれは果し状

シンプルになるまで私を削る  
身から出た錆を削っている孤独

あまり削ると寒い心が丸出しに  
四捨五入バサツとわたし削られた

人間を削るポロポロゴミが出る  
鉛筆を削り反論とがらせる

辛口を少し削ると独りぼち  
亡夫の古い鉛筆削り貰っちゃお

行間を削ると見えてくる本音  
秀句

処方箋旨い物から削られる  
美辞麗句削れば軽い金屏風

お手伝いしてます削除されぬよう  
秀句

和歌山市 福井 菜摘

大阪市 小谷 集一

泉佐野市 稲葉 洋

藤井寺市 津田シルク

和歌山市 武本 碧

八王子市 播本 充子

大阪市 神夏磯典子

奈良市 居谷真理子

海南市 小谷 小雪

美祿市 安平次弘道

寝屋川市 籠島 恵子

堺市 柿花 和夫

米子市 政岡日枝子

羽曳野市 徳山みつこ

美作市 小林 妻子

大阪市 升成 好

鳥取市 土橋 睦子

尼崎市 春城 年代

弘前市 斉藤 劭

羽曳野市 森下 一知

弘前市 福士 慕情

大阪市 古今堂蕉子

物思いつい鉛筆を削る癖

敗者の弁削り歴史が作られる

ノミの跡探れば荒い息遣い

身から出た錆を削っている孤独

まぼろしを一つ削って脱皮する

削り節老母の匂いのするうどん

少しずつ欲を削って生きていく

鉛筆を削るきれいに書きたくて

コツコツと削る音してお味噌汁

欠点を削ると個性消えて行く

削りゆくうちさようならだけになる

削られる予算子育てのこれから

人間を削るポロポロゴミが出る

執念を削る九回裏がある

生活費削って覗く美術館

あさつてに後悔がくる削除キー

削るのは酒か化粧で採めている

粗削りときどきホームランを打つ

後の一日はコントにして削る

十円玉で削る小さな宝くじ

酒代は削るなこれは葉だぞ

鉛筆を削り続ける反抗期

奈良市 加門 萌子

大阪市 森田 明子

和歌山市 古久保和子

堺市 柿花 和夫

大和郡山市 坊農 柳弘

大和高田市 鍛原 千里

札幌市 三浦 強一

鳥取市 西川 和子

寝屋川市 森田 麗

大阪市 小谷 集一

京都市 高島 啓子

長岡京市 山田 葉子

美作市 小林 妻子

鳥取市 武田 帆雀

八尾市 宮崎シマ子

枚方市 寺川 弘一

堺市 遠山 唯教

大洲市 中居 善信

大阪市 谷口 義

尼崎市 藤岡 りこ

河内長野市 村上 直樹

大洲市 花岡 順子

## 追悼

### 吉田あずきさん

享年八十三歳

昨年度愛染帖賞を受賞された同人吉田あずきさんが、帰らぬ人となられた。昭和五十七年頃からNHK学園、橘高薫風先生の下で川柳を学ばれたあずきさんは、その後「川柳若葉の会」「サークル檸檬」に所属、多くの柳友からその死を惜しまれた。以下は一言ずつ頂いた追悼の言葉である。(順不同)

あずきさんを想う

若葉の会が萎れてる

も一度元気を待つていた

も一度おしゃべりしたかった

悲しくて淋しくて口惜しくて

若葉の葉っぱが泣いている (高嶋シマ子)

あずきさんとはNHK教室、若葉の会と二

十年近いおつき合いです。お話好きで、何を聞いてもご存じでいつも頼ってばかりいた私です。旅行も一緒にさせていただき、楽しいでしたね。もうお会い出来ないのは淋しいですが安らかに眠り下さいませ (黒田能子)

昨年七月の句会に、いつものように御座候

を持参して下さったのが、あずきさんに会った最後になろうとは……

その時、脇腹の痛みを訴えておられました。まさかそれが命取りの病気だったとは思いませんでした。互選での理路整然とした選評が今も思い出されます。「サークル檸檬」は大きな痛手を蒙りました。(西出楓菜)

計報に驚きました。昨年九月頃から私も病気になる、同じく「サークル檸檬」を休まれていることを聞きました。私はどうにか回復し、投句を続けながらあずきさん早くよくなつて、早くよくなつてと心で叫んでおりました。本当に残念です。今はただご冥福をお祈り致します。(浅野房子)

あずきさんとは娘や孫が近くに住んでいることもあって、とても親しくおつきあい頂きました。川柳の感性有難う。(前たもつ)

あずきさんの選評が楽しみで大好きでした。少し違う角度で句を捉えられ、それなりに納得できる選評でした。突然の計報残念です。

(鶴田遠野)

檸檬句会が初対面ですが、毎回適切な言葉で句評されます姿が、今も印象に残っています。只々ご冥福をお祈り申し上げます。

(長浜美穂)

救急車バリの思わぬ武勇伝

「サークル檸檬」初めからのおつき合い有

難うございました。バリでの一齣、あずきさんの思わぬ一面を見せて頂きました。

(奥田みつ子)

雷門から四十分ほどの道を土産店を覗きながら、人生の事一杯話して下さいました。いい一刻でした。素晴らしい方でした。

(太田扶美代)

端正な横顔お身のこなしが胸に留まっております。残念に存じます。ご冥福をお祈り申し上げます。

蒼き野のコスモスと咲き給うなり

(山本義子)

四年前から参加させて頂いてる「サークル檸檬」であずきさんに初めてお会いしました。よく通る声でユニークな句が印象的でした。

(井丸昌紀)

吉田あずきさんに初めてお会いしたのは平成十四年六月のサークル檸檬の句会でした。新参者の私に優しく接して下さい、いろいろな相談にも乗って頂きました。心から感謝いたしております。

道 句 抄

この道を来たから会えた人はかり

雑踏の中へ孤独を溶かし込む

平均のあたりで安堵して眠る

まだ着地きまらぬままに老いてゆく

日が沈む前に戦を語らねば

白 い

斉藤 嘉選



白いめし食べ残してはいけません  
 白い歯が輝く夏の球児たち  
 白旗を掲げたら友がどっと増え  
 誓いますと書けばいいのにまだ白紙  
 白帆に風一杯のヨットかな  
 皇太子に撫でて貰った犬のシロ  
 嫁の手がこんなに温い白い杖  
 白一色着替えた亡母へ紅をさす  
 いま一度ゼロから挑む白い画布  
 白い雲見ると手を振るおばあちゃん  
 わが余生白紙委任を子に渡す  
 生と死の晴着は白と決まってる  
 白足袋が静かに燃える初舞台  
 いいことがあると二人で白ワイイン  
 真っ白い日記死線をさまようて  
 無器用で白に勝てない野の董  
 温めた白無垢からの半世紀  
 ワイシャツの白さへ妻の自負がある  
 油断して白い小指に嵌められる  
 あなたとの白いページを開けました  
 白球が反れてため息出るファン

よりこ 遊行  
 (先)五月 修  
 弘泰 秋星 典子 孝明 賢子  
 (七)順子 勇治 あやめ 唯教 愛論 振歩 千歩 栄呼 昌鼓 一花 幸子

真白いハンカチ持たす嬉しい日  
 コーラスの白い服から澄んだ声  
 白が好き薔薇も桔梗もコスモスも  
 あと五分答案白いまの夢  
 叱られる白紙叱つてける白紙  
 外出へ白い下着をつけている  
 反抗期白紙で逃げているテスト  
 死に花という真っ白な菊の花  
 凜然と白装束の初登山  
 産声から白いページを埋めてゆく  
 白い服緊張感に凜とする  
 戦死した父が残した白い地図  
 真白いバラの鼓動を確かめる  
 終の旅無垢の心で行くつもり  
 曲がり角風で読んでいる白い杖  
 佳

英子 喜子 扶美代 雅明 朝風 銀波 花匠 悦子 裕花 アキ 芳生 キヨミ 俊子 一壺 岳水 可住 一風 慕情 人 白紙汚し続けて生きている 地 勝負服下着は常に白である 天 木漏れ日があふれる角の白い家 坂上りの子 軸 大根の白は畑が生んだ色

この世

大内 朝子選



極楽とこの世往来さすお酒  
 この世から一掃したい核兵器  
 この世にはまだ未練あり医者通い  
 女房の牽制球はいつも不意  
 この世から離れる時は礼を言う  
 生かされてこの世の坂で蹴蹴く  
 コンビニへ車を走らせる不意の客  
 ゲリラ豪雨この世の地獄みてしまっ  
 真夜中のベルは不吉な音で鳴る  
 現世に生きた証の子が育つ  
 ホックリと逝きたいけれどまだ惜しい  
 欲があるだからしぶとく生きられる  
 加減乗除有ってこの世はおもしろい  
 旧友の不意の電話に身構える  
 身の丈を知ってこの世の橋渡る  
 おさらばへ元気でいたい万歩計  
 別れ告げ突然妻が出て行った  
 せいいつぱいこの世の味を覚えとこ  
 あつこつち痛くこの世に在るかぎり  
 この世まだ未練を抱いて火種  
 生きている証拠に今日も髭を剃る  
 生かされてこの世で恋をたんとする  
 不意に来た人は素顔を知っている

哲男 強一 敏子 淳司 ヒデコ 遡行 ミツ子 勝視 婦美子 賢子 忠 堅坊 アキ 道子 千歩 富子 修 扶美代 遠野 英子 克博

にんげんを満載にして世が軋む  
不意衝かれ違う私が相手する  
刻々と変わるこの世が面白い  
突然の知らせで変わる不幸

生きてさえ居れば何とかなるこの世  
義理一つ果して心地いい疲れ

あの世説く僧にも未練あるこの世  
人の世や落ち目になれば潮が引く  
うしろから不意に味方の弾が飛ぶ

いろいろとあるがこの世はいいところ  
押し入れがみな引き受ける不意の客  
不意つかれいらんことまで言うてもた  
うめばしになってこの世へしがみつく

佳  
生きていろうちが華だと跳んでいる  
死にたいと時には思うのがこの世  
人間に生まれたことを好しとする

星屑を両手に受けているこの世  
この世へのごあいさつです呱呱の声

人  
この世よりあちらに友が多くなる

地  
災いは北の方から不意にくる

天  
そこそこのポジションるんなこの世

軸  
迷いつつわたくしの道生きている

(出題の手違いで、「この世」不意) 両題の選と  
させて頂きました。

公 誠

美 義

美 籠

孝 一

寿 美

猥 杏

みつこ

岳 水

准 一

かずお

時 雄

玄 也

み ね

正 和

(花) 順 子

慕 情

松 丘

(矢) 五 月

霜 石

蝨

播本 充子

軸

迷いつつわたくしの道生きている

(出題の手違いで、「この世」不意) 両題の選と  
させて頂きました。

ペ ア

生嶋ますみ選



草食系同士のんびりペアを組む  
ペアグラス苦労したのかセピア色  
ペア組んでフォークダンスに燃えた頃  
お揃いの花柄犬は気づかない  
ペアのシャツ少し照れているのが夫  
時どきはごっつんこしてペアカップ  
観覧車ペアでないのがひとりいる  
ペア組めば互いに良さがみえてくる  
ペアルック妻は二倍の生地が要る  
神様に誓ったペアの紐ゆるみ  
ヒラリーさん夫とペアでない政治  
ペアシューズ私のばかり傷んでる  
最強のペアと思ってる亭主  
割れ鍋に閉じ蓋ペアの息が合う  
いつまでもペアでこの世に生き残る

佳  
あのペアでダブルス組めばもう決まり  
連獅子の見事親子の血が燃える  
最高のペアだと信じ添い遂げる  
次の世もあなたとペアで漕ぐボート  
ハーモニートても合ってる茉奈と佳奈

人  
ハンコには朱肉君にはほくの胸

地  
本籍を「きぼう」に移すアダマイブ

天  
舞い終えて蜚のペアは星になる

軸  
退職してペアで楽しむ割烹着

英 子

勇 治

敏 子

哲 男

黒 兔

雅 枝

振 作

倫 子

俣 子

弘 子

玄 也

惠 美

輝 夫

み ね

シマ子

(編) 洋

(七) 順 子

欣 子

時 雄

富 子

か つ 子

明 子

茶 子

朝 子

慕 情

(花) 順 子

みつこ

唯 教

章 子

像 山

俊 子

セツ子

美智代

裕 之

松 丘

蝨

のり子

ばつは

圭一郎

隆 盛

日 出 子

霜 石

蝨

播本 充子

軸

舞い終えて蜚のペアは星になる

黒田 茂代

軸

退職してペアで楽しむ割烹着

# 初歩の教室

題一星

鈴木公弘

限られた音字数をもって過不足なく意思表示することの難しさは十分に理解しているつもりですが、皆様の性格まで垣間見えるような作品に出合った時などには、句の出来がどうかとは別次元の、縁というか、感慨深いものを覚えます。しかし、以前に指摘したこと、筋を打たれる思いがします。

第一回目の記事の中で、作品と向かい合う姿勢の一つとして「真情美の原則」を掲げました。真実を指摘しただけの句には思いやりが欠け、情け中心の句には時代がかつた臭いがあります。そして、美にこだわりすぎると、かえって安物の辞典を読むがごとしとなりません。では、どうすればいいのか…まさにこれが、このコーナーの課題ではないかと思えます。そのような観点から毎回、まずは作品と対話させていただきよう心掛けています。もう一点、このコーナーを経て新同人が生

まれたとき、胸が熱くなります。今後ともそうなるよう努めたいと思います。

さて、今回は佳句、とりわけ着想・着眼のよい作品から紹介します。

### 【佳句】

原 どの星にしよう小指へ飾る石  
添 どの星にしよう小指を飾る石  
時々は笑いなさいと光る星

健柳  
総選挙希望の星をチェックする  
老いらくの恋は見るだけ夏の星

紀雄  
星空を仰げば星に吸われそう  
星取り表自分に勝った日を記す

秋星  
一部は補正しましたが、いずれも目の付け  
どころがよい作品です。

【背景が見えないため、なぜと思う句】  
原 塚スター汗流しきる武庫の川 俊子  
武庫川は、宝塚のスターを育てるのに、大事な役割を果たしているのですね。

大  
原 朝星夜星母に感謝の香を焚く イセ  
母に感謝の気持ちを表す方法として香を焚くという意味のようですが、他にはありませんか。母上様はご健在ですね。

文代  
原 願い事夏の星座は届きそう  
なぜ夏の星座なのでしようか。

振作  
原 ふる里に満天の星捨ててきた  
落ちぶれる前の自分と澄み切った故郷の夜

空とを重ね合わせておられるのでしようか。

原 星の数かぞえて消えた悩み事 安子  
星を覗いていたら消えたのではないですか。

原 朝星夜星むかし話を通じない こそえ  
エコノミックアニマルと言われた時代がありました。ロマンが通じなくなつたのも事実です。しかし、今も朝星夜星を仰ぎながら出退勤される職業の方もおられますよ。

【状況報告にとどまつた作品】  
原 とまる宿安心出来る星の数 美紗子  
添 星影のワルツ私の応援歌 絹子  
添 星影のワルツ歌って帰路につく  
原 災害地屋根の破れに星を見る 冷子  
添 被災した屋根の破れに星を見る  
原 二人して流れる星を数えた日 堅坊  
添 二人して数えた星は遠ざかり  
原 一時は期待の星と騒がれた 宣子  
添 騒がれた期待の星は今いずこ  
原 今月の運勢気にす星座見る 綾乃  
添 誕生月の星占いを覗き込む  
誕生月は一例です。この部分に他の事柄を入れても成立する場合がありますので「流れない」よう注意してください。

原 星空に負けじと花火打ち上げる 正二  
添 星空に負けじと花火打ち上げる

原 灯を消せばふるさととは星くずの海くにこ  
添 星くずの海に古里かしこまり

原 降る星の一つ一つにあるドラマ 陽子

添 降る星のどれにも違う事情あり

原 わたしにはうちの寝心地五つ星 亜希子

添 うちはいいい寝心地いつも五つ星

原 この星があつてふたりは結ばれる 柳歩

添 この星に結ばれた恋ありがとう

原 やつとこさひと筆書きの星書けた 弥生

添 まだ元気ひと筆書きの星が描け

【表現を再考してほしい作品】

原 もう一度星の間を泳ぎたい いさお

添 もう一度期待の星と呼ばれたい

原 好きだから遠回りした星月夜 唯教

似たような句がたくさんあります。

原 よく光る一番星が父だろ 智加恵

客観的に見れば、父の部分が流れます。

原 寝たきりで見た夢星のみえぬ夢 すみれ

添 寝たきりは星の見えない夢を見る

つらい句になりました。

【出句前に推こうしてほしかった作品】

原 星に手を繋げそうな里に住む ます

添 星と手を繋いで生きる里に住む

原 緑台に星と語りて指をさす さだき

添 緑台に座つて星と語り合ふ

原 エコの星数えて選ぶあれやこれ 志郎

添 エコの星数えて家電見て歩く

原 流れ星リストラされて何処へ行く 弘泰

添 明けの星リストラされてどこへ行く

原 星たちよ地球の汚れ見えますか 照美

添 お星さま地球の汚れ見えますか

原 星に愚痴はくだけ吐けば胸がすき タカ子

添 星に愚痴吐くだけ吐いて楽になり

原 一番星今日一日を締め括れ 開子

添 一番星出て一日を締めくくる

原 星条旗なぜか日本はこびるのか 周子

添 星条旗へなぜ日本はこびるのか

原 何億の宇宙の星よ輝やこう 律子

添 何億の宇宙の星よ輝やこう

【入選する可能性がある作品】

星屑の町徘徊の母を追う 幹子

この星の未来を案じエコライフ 治子

星くずの地球で君と会う奇蹟 勇

師の鉄拳歯をくいしばる星がちる 嘉彦

あの星のどこかであなた見てるのね 節子

星ほどもあつて結んだ赤い糸

星一つ美人じゃなが運はいい 孝明

星よりも窃かに吹いた千の風 恵美

七夕に秘密流した天の川 道子

急ぐな娘よ星の数ほど居る男 孔一

目に星が飛んでホッペがパンと鳴り 光弘

都会では死語となつたか星月夜 宏造

案の定図星とされて脂汗

流れ星あの世へすつと行きたいが 大朔

星ひとつ見つけ喜ぶ都会の夜 みち代

星空に母の笑いが見えて来る 利子

子等が待つ家路を急ぐ星あかり 菜摘

衛星は宇宙のゴミに成り果てる 酒坊

凡人の願ひ聞いてよお星様 なつみ

宇宙の星さほうをあげて夢叶う 玲子

星三つ家族がくれる料理好き ちづる

プロポーズ綺麗な星が味方する 克博

マニフェストいずれしがない流れ星 義雄

目に星を宿すあなたについて行く 志延

ひとつの詩ひとつの星とめぐり逢う 早加永

七夕に願かけしたが星は出す 久子

【今月の推せん句】

忘れてた期待の星であつたこと 谷川 憲司

そうです。自信を持つてください。

勝ち星を誉めてやりたい通知表 辻村 ヒロ

継続は力なります。

この星は未来の子らに借りている 木見谷孝代

この謙虚さを持つべきでした。

【私の句】

まだ割れぬ星に懸賞金出して

不況風流れて星は消えまして

(登載漏れは役員が添削して返却いたします。なお、

用箋には必ず氏名Ⅱフルネームをお書きください。)

# 秀句鑑賞

同人吟 水野黒兔

—9月号から

運動不足なのでコロッケ買いに行く

谷口 義

日ごろからお医者さんに運動不足を指摘され、歩け歩けと指導されております。谷口さんはずでに自発的に運動をなさっている。素晴らしい。見習わなければなりません。今日もコロッケ、明日もコロッケ、これも運動のためだ。

南から悪運強く掃蕩せり

櫻庭 順風

この原稿を書いているのは八月の終戦記念日の前後、戦争関連の報道番組が多く放映されました。誠に苦難、苦汁に満ち満ちた戦争体験談の多くは、二度と愚は繰り返すまいとの強い気持の込められたものでした。この句の作者は悪運強く表現されておりますが、これは無事に掃蕩された方々が掃蕩できなかった戦友の方々への哀悼と万感の思いを込めた表現でありましょう。櫻庭さまにはよくぞ頑張つてご掃蕩されましたねと敬意を表します。

遠吠えで終る赤提灯の愚痴

横山 捷也

赤提灯では酔うほどに誰もがが大出世を遂げ、ひいきチームの監督に、会社の社長に、やがては総理にまでなり悲憤慷慨する。しかし残念ながらその場限りの遠吠えで…。

—近所の戸を繰る音に順がおり

春城 年代

雨戸の明け閉め、シャッターの上げ下しなど日常の生活音にはその家独自の順序やリズムがある。—近所のほうも我家の生活音に特定の順序を感じていることでしょうね。

カーナビの底に冥土の地図がある

吉村 久仁雄

この世を生きていくに際し、何か目に見えない神の導きのようなものに従つて行動しているのではないかと、ふと思ふことがあります。そんな神のナビゲーションの先にはきつと冥界、いや極楽が待っているに違いない。

秋を迎えに行く自転車飛ばす

山本 希久子

なんと軽快な九八の調べでしょうか。そしてなんと澆刺とした句でしょうか。実り多い秋を迎えに、多少の坂道であっても自転車のペダルを勢いよくこぐ。爽やかな風が後押ししてくれる。さてどんな収穫があるのでしょうか。作者の大きい実りを祈ります。

短詩文芸は短歌、俳句、川柳と豊富で、これらの文芸においては、五音と七音とを基本としていることが共通で、日本人にはこの五と七のリズム感がたまたまなく心地よいものようです。この心地よいリズムに、時には破調を許容してこの川柳という世界を楽しみたいと思つていきます。

わが駄句を除いて千六百八十七句と対峙させていただきました。作者諸氏の句に込めた深い思いの底にまで達し得ぬ鑑賞に終つているだろうことを、予めお許し願つておきます。

ねばねばを食べて百歳まで粘る

銭山 昌枝

誰の言葉か知りませんが「歳を取ることは神の恵みであり、若さを保つことは生活の知恵である」との金言があります。ねばねばの食品摂取はまさに生活の知恵ですね。納豆、おくら、大和芋などは代表的なねばねば食品であり、サメの軟骨などの抽出加工の硫酸コンドロイチンなども近年脚光をあびておりますね。どうぞ百歳以上を目指してください。

雨上がり銀色の月一人占め

森田 明子

満月の笑みをわたしがひとりじめ

栗田 久子

ここに余裕があり、満ち足りている時にはいつも見なれた月が銀色に輝き微笑みもする。その月をひとり占めできるとは羨ましい限りの境地ですね。

バーゲンの元の正札面子なし

吉岡 修

愛用しているわたしのシャツの元の元の正札では三千八百円、大売り出して半値になり、季節外れでさらに半値になり、買ったときは九百八十円。よくお似合いですね、ハイありがとう、四千円もしたんですよ……などと答えることにしております。

人類を地球がじわじわと裁く

江見 見清

ゴミばんと捨てて地球を悲しませ

増井 ヨシ枝

地球を掘り返しては石油を、鉱石を枯渇するまで採取し続ける。そして二酸化炭素をはじめとして有害物質を廃棄し続ける。地球上で万物の霊長と驕る人間が実は地球を無残に傷つけている。国の経済的事情やエゴだけではない。はすまない事態になってきているのですね。

氣前よく引き受け後は四苦八苦

米原 雪子

ついうっかりと、或いは義理人情がからみ保証人になったり、大役をひきうけたりして後で四苦八苦するのがこの世の常でしょう。か。その辺りの機微を巧くついた句ですね。無器用に父が楷書で歌うたう

木本 朱夏

丸めがねで直立して歌う東海林太郎を髣髴とさせますね。「不器用」は作者の謙遜であり、そこに明治生れ大正生れへの尊敬の念が込められています。それぞれの時代にマッチした歌が流行っていくのですが、最近の金切り声で歌う英語交じりの、いや日本語交じりの歌にはついていけない私は「不器用な父」の世代の歌いぶりに郷愁を感じます。

えん罪を生む横着な犬の群れ

鈴木 公弘

満員電車内の痴漢の冤罪事件を思い浮かべながら読ませていただきました。気の毒としか言いようのない冤罪事件、本当の痴漢はもちろん許されるものではありませんが、冤罪事件を誘発するのは、社会的訓練をろくに受けぬまま、横着に群れている未熟な人たちによって誘発されていることも多いのではないかと共感した一句でした。

日本語で頑張っているモンゴル人

持田 多輝子

何年も駐在したのに少しも上達しなかったわがドイツ語に比べ、モンゴル出身の力士たちの日本語のなんと流暢なことでしょうか。相撲世界のしきたりや用語の独特なことを思えばよくぞ頑張っているものだと思います。したたかな首が並んだ終電車

長浜 美籠

終電ぎりぎりまで残業をこなしたサラリーマンの狂者たちか、夜学の学生たちか、勤務後一杯飲んで帰るお父さんたちか。いずれにせよこの苦難に満ちた社会を強く生きる人たちの姿が終電車の中に凝縮されている。疲れきった顔でなお明日に備えて書類に目を通す者ささみかけられる。それをやさしくエールの眼差しで見ている作者。

左遷地で孤立無援のほたて貝

政岡 日枝子

ほたて貝のような人物と言われてどんな性格の人を思い浮かべるか、さまざまな解釈を楽しめる句ですね。各種のビタミン、タンパク質、アミノ酸などが豊富な食材としてのほたて貝を、今は左遷の身であるがぐつと無口で耐えている朴訥だが信頼のおける芯の強い味のある人物像ととれます。

# 秀句鑑賞

—9月号から

夏目一粋

## 角番をいくつも越えた影法師

赤木 妙子

私も人生での角番を分身と共に、曲がりなりにも越えて来ました。その角番が励みにもなり今があるのです。妙子さんも今ふり返り、よくぞ頑張ったものだ、懐古していることでしょう。でも相撲界では一度落ちると再起は難しいようです。

## 人差指の向こうに深い森がある

宇野 幹子

「深い森」とは奥深く微妙で、たやすく知ることの出来ない森を指しているのでしょうか。とすれば人差指を、いとも簡単に使うのは失礼なことかも知れませんね。

## ではまたのまたが計報となる無念

三浦 強一

長い人生では別れた後に急死するという不運に遇うことも稀ではありません。命の儚さを思い知らされます。無念の一言。

## 円満を求めて僕は黙秘権

大隅 克博

私もときどき三猿を上手く使っています。ただし円満を保つためには言え、ほどほどに行使して欲しいものです。

## 手にあまるひとりよがりの感受性

斎尾 くにこ

ものを感じとる力、刺激を受けられる感覚が強すぎるのでしょうか。感性には良い面と悪い面があるようです。「手にあまるひとりよがり」には気をつけてください。

## 言うよりもまだ言われたいありがとう

木村 忠義

まったく同感です。世のため人のために懸命に尽くして感謝されたいですね。でも齢、(よわい)には勝てません「ありがとう」を言うときが何人もやって来るのです。

## ケータイはみんな孤独で持ち歩き

日野岡 和之

ケータイは利便性から、またたく間に地球上に氾濫しました。でも突き詰めて見ると相手を知らずにメール交換する時もあるのですから、人は孤独に弱い生きものだと思えます。

## 秘めことこのひとつも無いという不安

山崎 武彦

「秘めこと」には神秘的な夢とロマンが潜在していて私は好きです。ただ片恋のような

「想うだけ」と言う要素が強く、なにかもの足りなさを感じます。また「出世」など現実的な厳しさも一面では持っています。武彦さん一つや二つの秘めことは生き甲斐にも、なると思いますが。

## 感受性みがけと雲が形変え

神野 千恵子

うき雲・千切れ雲・鯛雲・入道雲など風に吹かれて流されたり形を変えたりするので。また人それぞれの感性で時には母に見えたり、動物や鳥に見えたり、その時の心境で自在に変わります。雲に発破をかけられた千恵子さん诗情ゆたかな川柳に期待しています。

## パニクの脳にっこり花の鉢

堀 富美子

どんなに腹が立っていても悩みがあっても楚々として可憐な花を見ていると嫌なことも忘れてしまいます。

## よくもまあここまで生きて来たものよ

渡辺 芳子

私もよくそう思います。「よくぞまあ」の言葉には呆れ返る。驚嘆するの意があり、喜びも悲しみも幾歳月の重さを感じさせます。特に戦争経験をお持ちの方はひとしおだと思えます。芳子さん、たまには自分を褒めてあげてください。

### 第33回 寝屋川市民川柳大会

日時 11月3日(祝) 12時開場  
 会場 寝屋川市立総合センター 4階  
 (京阪寝屋川市駅下車、バス西口乗場より守口市駅行、太間公園行他乗車総合センター前下車)

兼題と選者 (各題2句)  
 「毒」 伊達 郁夫 選  
 「ポスト」 大内 朝子 選  
 「居酒屋」 吉村 一風 選  
 「ゆっくり」 河内 月子 選  
 「弱点」 藤井満州夫 選  
 「薬」 川上 大輪 選

会費 1000円  
 賞 各題秀句に賞状と記念品  
 投句 10月29日必着(無料)  
 送り先 572-0063 寝屋川市春日町9-9  
 高田博泉 内 川柳ねやがわ  
 072-827-9204  
 主催 寝屋川市川柳協会  
 後援 寝屋川市文化連盟 川柳ねやがわ

### 第19回 枚方市民川柳大会

日時 10月25日(日) 13時半開場  
 場所 枚方市立枚方公園青少年センター3階  
 (京阪枚方公園駅下車西へ徒歩3分)

お話 卒寿迎えて思うこと  
 磯野 いさむ  
 宿題 各題2句 欠席投句拝辞  
 「進む」 山路 節子 選  
 「髪」 中岡千代美 選  
 「ペン」 藤本 秋声 選  
 「そわそわ」 伊達 郁夫 選  
 「無茶」 笹倉 良一 選  
 「生きる」 井上 一筒 選

締切 午後2時  
 参加費 1,000円(発表誌呈)  
 賞 市長賞、市教育委員会長賞 他  
 連絡先 〒573-0047 枚方市山之上5-3-20  
 三村 一子 (TEL072-843-2389)  
 主催 枚方市川柳協会  
 後援 枚方市教育委員会  
 (午前中は会場近くの「鍵屋資料館」でお楽しみ下さい)

### 全日本川柳誌上大会のご案内 (柳多留第14集)

日本の全柳人が、だれでも、どこからでも参加できる「全日本川柳誌上大会」(平成柳多留第14集)を開催します。日川協年次大会・国民文化祭文芸大会と並ぶ(社)全日本川柳協会の権威ある三大自然行事ですので、こぞぜひご参加ください。

#### 課題と共選者(各題2句・連記)

「ロボット」 佐藤 正 | 竹森 雀舎 共選  
 「消費税」 鈴木 東峰 | 塩満 敏 共選  
 「蛙」 廣島 英一 | 進藤 竹生 共選  
 「儲かる」 渡辺 梢 | 井上 博 共選  
 「世代」 堀江 加代 | 永石 珠子 共選

#### 第二次選者

大木 俊秀 平田 朝子 川俣 秀夫  
 久保田元紀 新家 完司

参加費 2000円(投句料)・平成柳多留第14集代金含む  
 賞 平成柳多留賞・川柳大賞・NHK会長賞・  
 (社)日本青少年育成協会会長賞・(社)全日本川柳協会会長賞  
 全日本川柳誌上大会賞(予定)

締切 平成22年2月1日(月) (当日消印有効)

発表・表彰 第34回全日本川柳鳥取大会(平成22年6月)  
 参加方法 参加用紙(雑詠1句)と出句用紙(2通1組)  
 に記入し、参加費2000円(振替又は小為替)  
 とともに左記へご送付ください。

〒530-0041 大阪府北区天神橋二丁目北1-11-905

社団法人 全日本川柳協会

電話 (06) 6352-2210  
 FAX (06) 6352-2433  
 振替口座 00970-9-3575

# 本社 九月句会

九月七日(月) 午後五時  
アウイーナ大坂

残暑とは言いながら、30度を越える暑さの  
続く七日、出席八十三名で本社句会が開催さ  
れた。

本日のお話は、井丸昌紀さん。川柳と酒  
と題して、昌紀さんならではの楽しい酒にま  
つわるお話が始まりました。三歳頃から父に  
仕込まれたこと。大学で、すっかり先輩に酒  
の飲み方を教えられたこと。そして、朝日  
なにわ柳壇 入選を契機に川柳の門を叩いた  
ことを楽しく語ってくれました。

「そんなお陰で、私の川柳には、いつばい  
お酒に関する句が溜まっています。川柳家の  
先輩達にも、酒の句が山ほどあります。川柳  
を続ける中で、どうしても私には酒が拘わっ  
てきます。そして、ついに句会後に懇親会  
のある句会、だけをモットーにするようにな  
ってしまいました。数えただけでも、川柳柳  
塔本社句会、南大阪川柳句会、川柳塔す  
みよし、サークル檸檬、川柳文学コロキ  
ユウム、天守閣、川柳瓦版、と川柳句会  
を追いかけているのか、飲み会を追いかけて

いるのか解かりません。  
酒ばかり達者になってゆく句会 昌紀  
楽しい川柳酒談義でお話をしめくらられま  
した。  
(郁夫 記)

月間賞は山田耕治さん(尼崎市)に輝く。  
(司会)美籠・昭(協取)扶美代・蕉子  
(受付)俣子・宏子(清記)光久

## 席題「仲間」 西内 朋月選

秋風と共に仲間をはずされる  
割り勘の時はいつでも声かかる  
お互いのヘソも見せ合う旅仲間  
麻雀の仲間揉めたり笑ったり  
すつきりと脱いで仲間にもらう  
痛いとは慰め合っている仲間  
ロケットも仲間酸素を吸いたがる  
寒いひとこの指止まれ仲間だよ  
出世して仲間はすれにさされる  
仲間から見ればいいかげんな男  
月の夜はワイン酌み合う魔女仲間  
寄り合えば病気を披露する仲間  
下戸だから僕は仲間に入れない  
五時のベルに阿吽の呼吸飲み仲間  
顔見れば誘い合っている呑み仲間  
会うとすぐ手帳を開く飲み仲間  
休肝日を冷やかに来る飲み仲間  
腹が減るとみん仲間に見える  
口下手な人だ仲間になれそうだ

蕉子 哲男 朱夏 時雄 理恵 朝子 柳伸 朝子 尚士 義楽 楓子 賢子 月子 光久 則彦 遠野 淳司 昭好

弁護士と医者が仲間にいる安堵  
よく笑う人の仲間にしてもらう  
人間は仲間と思っているカラス  
仲間から外れたくない雑魚の群れ  
スタートのここで仲間の手を放す  
晩学へ仲間がやる気出しはじめ  
疵なめる仲よし子よし進歩せず  
逆風も仲間と居れば怖くない  
胸襟を開くと増えてくる仲間  
独身の仲間出し抜きゴールイン  
大失敗許す仲間の輪がぬくい  
飲む時はいつも仲間に入れられる  
暗唾したのがきつかけで仲間です  
佳  
呆けテスト一緒に受けたのは仲間  
爛つけて仲間待ってる長い首  
ちよūdい距離に暮らしている仲間  
いつ来ても誰かと会えるママの店  
一番の仲間は夫だと思ふ  
人  
独身の約束破り仲間割れ  
駅裏で一杯呑めばもう仲間  
天  
胃袋が無い者同士すぐ仲間  
軸  
落ち込んだ時に助かる飲み仲間

和夫 希久子 千里 好 扶美代 (久)千代 東吉 章久 なぎさ 淳司 みつ子 玄也 見清 公誠 郁夫 瑠美子 天笑 千枝子 俣子 富美子 いさお

兼題「縞」 奥 時雄選

通りやんせゼラズンにせかされる  
 縦縞が今頃急に元氣出し  
 縦縞を愛しつづける三世代  
 勢いに乗れぬ私も縦縞も  
 よろけ縞粒な女の裾さばき  
 苦勞性なのと女将のよろけ縞  
 遺された大島袖通す  
 縞の帯似合う女将のいい味呵  
 古い着物つぶしたらしい縞模様  
 縞の帯たつたひとつを持って余す  
 茶畑が見事緑の縞をなす  
 横縞に流れるテレビ吹き見る  
 じいちゃんの縞の財布は当てになる  
 縞柄もよくお似合いと如才ない  
 縞木綿の案山子は納屋に臥したまま  
 ひょう柄とトラが浪花の街を行く  
 縞柄の和服でオンブした記憶  
 イメージは縞の合羽というおとこ  
 縞模様女を少しとがらせる  
 永らえて妻も貴祿よろけ縞  
 大胆な縞柄シャツが野暮に見え  
 押入れに縞の合羽が入れてある  
 木曾の旅宿の格子にある歴史  
 ごめんねと言うて虎刈りした母  
 父ちゃんのわか床屋でトラにされ

哲子 勝弘 光久 富美子 千里 理恵 宣子 一風 耕治 ダン吉 賢子 公誠 和夫 庸佑 俣子 靖鬼 柳伸 柳修 恵子 理恵 玄也 義一 一步 則彦 雅明

砂の縞風紋千里ゴピ砂漠  
 ネクタイはストライプしかない夫  
 縞馬の競馬があれば楽しかろ  
 父さんの宝古びたラガーシャツ  
 砂丘の縞きつと天女のデッサンだ  
 縞のスーツやっぱり今日はやめておく  
 縞鯛をぶつ切りにする島育ち  
 住  
 移り香がかすかに亡妻の縞袖  
 ケンケンバツ横断歩道の長い脚  
 縞馬に見る神様の美のセンス  
 黄八丈母の面影抱いて着る  
 短足に縞のズボンを勧められ  
 人  
 袖着た娘一氣に女なり  
 地  
 縞馬は老若男女同じ柄  
 天  
 縞物のとりこになって島の人  
 軸  
 刑務所に近いので縦縞を着る

正雄 和夫 能子 眞理子 義子 ダン吉 たもつ 寿美 宏子 楓楽 集一 瑠美子 蕉子 淳司 恵子

生産地偽り御用なりました  
 本場から松茸とどき大騒ぎ  
 自給率あげると野菜叫んでる  
 朝露のついた野菜をさげて父  
 産地直送道産娘が嫁に来る  
 デバ地下で江差道分聞いて買う  
 無農薬産地の虫もついてくる  
 目立たない場所に小さく中国産  
 産直の栗がのどかに童歌  
 原産地モリタニアの蛸のめし  
 わたしの産地龍馬すつくと海望む  
 笑顔つて心に産地あるんだね  
 国産の息子がひとり売れ残り  
 気にしたら食べるものない原産地  
 江戸前の鮪産地はインド洋  
 フランスとだけは読めますワイン飲む  
 産地から直送便の新鮮さ  
 出生地の自慢花咲く青テント  
 食欲の秋に産地が気に掛かる  
 カミさんは秋田の生まれだが黒い  
 産地直送わが家の庭の茄子トマト  
 豪快な笑いと食べる磯料理  
 東北が産地と知れた国訛  
 焼酎の芋に誇りとこだわると  
 北の旅リンゴもぎ取りかぶりつく  
 この私京都育ちの壬生菜です  
 水揚げの港が原産地の魚

一步 光久 蕉子 寿美 寿美 耕治 能子 能子 さいお ふりこ 公誠 賢子 朝子 直樹 朋月 集一 正雄 ルイ子 恭昌 昌紀 淳司 千代 楓楽 尚士 天笑 一風 弘風 哲男

旅先は物産展で決めました  
わが産地ふるさとを詠むこころ詠む  
国産を選ったら金が続かない

佳

島からまっすぐ来たと茄子胡瓜  
生産者の写真を貼ってある野菜  
晩酌は灘が合ってる父ゆずり  
氏素姓問われて困る回遊魚  
人情も添えて詰っている産地

人

輸入したエサで育ってきて和牛

地

日本産ですだから九条守ります

天

日本に生まれたことが誇りです

軸

産地なら牛も私も書いてある

兼題「去る」

久保田千代選

謎一つ解けて確かな夢が去る  
惨敗の自公難壇から下りる  
去るも来たのものなんとやっばり天下り  
大物が落ち抜け殻となる自公  
去って行く背中へ投げる紙つぶて  
惜しい人去った後からおしまれる  
退き時を失して不名誉な最後  
掌中の珠もいつかは手を抜ける

恵子  
みつ子  
昌紀

哲男  
玄也  
像山

富美子  
修

真理子

昭

富美子

美義  
淳司  
一風  
天笑  
寿美  
靖鬼  
玄也  
哲男

中締めで消え二次会で盛り上がり  
試食しておとちゃんにも買うて去の  
去り難いケアホームの母のそば  
開発という名で森が消し去られ

去る人を追いかけるほど野暮じやない  
思い出の父母去らぬ山ある限り  
去る者を追って転んだのは私  
腹の中見せるとみんな去ってゆく  
心から消し去り難い恋うずく  
去る者は追わない主義でまだ独り  
本当の勇氣去りゆく友に見る  
底辺の過去が育てた人間味  
舞台裏黙って去っていく黒子  
うつくしい一札のこし上司去る  
引き際をそつと教えて波がひく  
去る者は追わず恋はケセラセラ  
振り向かず去った男の背に未練  
意気地ないボクを嗤って去るチャンス  
セブテンパーソングで燕おくり出す

いい事が一杯あった顔で去り  
去り状の心構えはできていく  
去ってからなくてはならぬ人と知り  
大好きなお金が好きに去ってゆく  
良き敗者そんな去り方だつてある  
さいならと言つて中々去なん女

佳

ふる里を去ると決めた日高い天

天笑  
耕治  
公誠  
好

理恵  
宏子  
恵子

楓楽  
光久  
昌紀

美智代

正雄

郁夫

理恵

扶美代

柳弘

朝月

五月

宣子  
勝弘  
玄也  
一步  
月子  
ダン吉

もう来ない男の歯ブラシがぼつん  
去り際に言うだけ言うた悔いがある  
去るときも男は仮面つけたまま  
去りてのちなお惚ばれるお人柄

人

去る者は追わぬと決めた桐の花  
去る者を追って小石に蹴つまずく

地

去る日にはちゃんと言いたいありがとう  
ちよつと触れ値札見つめて女去る

軸

兼題「スポーツ」

河内 月子選

どの場所に居てもスポーツ当るきみ  
スポーツを一度浴びると癖になる  
スポーツライト浴びてた美女が被告席  
スポーツをはじめて浴びている遺影  
スポーツは目立ちがり屋の誘蛾灯  
テーパーカット今日の主役は隅の席  
センサーのスポーツ浴びる午前様  
スポーツを浴びていなく馬の足  
スポーツを当てると照れる月見草  
いい汗がスポーツ受けるお立ち台  
家族からスポーツ受ける生まれた日  
スポーツは無慈悲敵まで暴くから  
彬の碑今やガイドのスポーツに

保州  
朱夏  
集一  
直樹

義子  
楓楽

公誠

准一

雅明

美智代

和夫

求芽

たもつ

耕治

哲子

いさお  
好  
美智子  
淳司  
ダン吉

スポットを避けてひっそり地に還る たもつ  
 スポットになればチャンネル替えて見る 千枝子  
 幽霊がスポット浴びて出る歌舞伎 玄也  
 栄転というスポットで飛ばされる シマ子  
 観光スポット讃岐うどんに並んでる 義  
 スポットを浴びてあれから変になる ダン吉  
 ここというところでスポットコマージュ 天笑  
 カラオケでスポットライト浴びている 勝弘  
 月光へ足長おさんタツプ踏む 哲子  
 私だけのスポットもたそがれる 希久子  
 地球見る特等席は月だろ う 保州  
 スポットを釣りのマニアは教えない 唯教  
 スポットを浴びた日もある座りだこ 朱夏  
 落ちこぼれと言われ運動会のスター 泰昌  
 お日様のスポット浴びる日向ほこ 集一  
 一押しはどこかと言えは有馬の湯 蕉子  
 喫茶店僕のスポットきまつてる 勝弘  
 スポットを浴びると態度大きなり 天笑  
 スポットは浴びぬ雑兵たちの汗 楓楽  
 スポットを当ているのもサクラです 恵子  
 横に居たご縁でスポットを浴びる 扶美代  
 穴場だと書かれ穴場でなくなつた 見清  
 どん尻に咲いてスポット浴びている 扶美代  
 スポットを浴びているのは妻の方 能子  
 わたくしの癒しスポット立ち飲み屋 完司

地

スポットを当ても僕は光らない 公誠

天

遠くても夕陽の見えるバスに乗る 保州

軸

わたくしのスポット誰も入れない

兼題「互角」

河内 天笑選

かあさんと互角にわたる強い父 賢子  
 三すくみのままじつとりと脂汗 朱夏  
 割り勘負けしない決意の大ジョッキ 直樹  
 女房と互角だという思い込み 昌紀  
 メタボ見せ合つて互角と飲み交す 五月  
 禁断の木の実アダムもイブも食べ 集一  
 度忘れも互角で仲のよい夫婦 耕治  
 知恵足りぬ分は笑顔で勝負する 求芽  
 五分五分の試合へ風が味方する 千里  
 もうこれで互角になった秋刀魚焼く 義  
 江戸っ子と互角に喋る河内弁 瑠美子  
 互角だと思つた時に負けていた ダン吉  
 酒飲みは互角に飲める友さがす 蕉子  
 一票という切り札は互角です 富美子  
 目をかけた部下が互角に肩並べ 昭  
 ハンディは互角勝負は時の運 修  
 互角ではないドングリの背比べ 靖鬼  
 背のびした互角を嘲う足の裏 寿美  
 父ちゃんと互角でくらす楽しいな 月子

飲み比べいい勝負して高くつき 完司

ん百年本家と分家競い合い 保州

戦いは互角で執念が勝り ふりこ

ひいき目に互角互角とはやされる なぎさ

良い試合勝者が敗者褒め称え 正

懐はどっこいどっこいらしい酒 哲男

惜敗の拍手敵にも味方にも 楓楽

お隣と互角笑顔とゴミの量 完司

互角にはなれぬ子宮がございます (志) 千代

いのち産む女と互角にはなれぬ 楓楽

許されて許してこれで互角でしょ 理恵

不揃いな個性の寄つている互角 朝子

腕互角しかし人柄負けている 勝弘

佳

格差など無いマネキンの脚線美 柳弘

共白髪物忘れでもいい勝負 淳司

鍵屋でも玉屋でもよい遠花火 保州

夫も妻も時々はする無駄つかい 希久子

ジャンケンポン恨みつらみは残さない 朋月

人

音をあげぬ妻と私の無言劇 好

地

お互いに俺より音痴だと思ひ 時雄

天

いつからか妻も互角に厭かく 山田 耕治

軸

対等の友の握手に差が生じ

# みづせのたけ

毎月24日締切・35句以内厳守  
編集部

## はびきの市民川柳会大敗 永田 章司報

満足に食べれなかった戦中派  
いらいらが満ちて迎える総選挙  
満場一致決めた案だが行き詰まる  
よろこびはひとりになって満ちてくる  
ていねいに沈む夕陽に満ち足りる  
鼻べちゃとよく言われてた背中の子  
おたやんがああ鼻だから愛される  
今日までは無事その後は神任せ  
昨日とも明日とも違う今日のボク  
二度とない今日という日をおだいに  
今日からは何度言うたか酒やめる  
後期高齢今日も青春しています  
今日のこと今日で終わりにしてけじめ  
残業のゼロにせつない縄のれん  
粗削り楽しみなが磨く玉  
家計には削減できる無駄はない  
削除する名前の増えたクラス会

アヤ子 章司 庸佑 美代子 猿杵 一壺 六點 フジ ヨシ枝 いさお 光男 一知 りつえ ちづる 久仁子

自分史のページに欲しい削除キ  
議員さんあいそが良い選挙だな  
賛美歌に心を癒す処方箋  
美 喜

## サークル檸檬大敗 西出 楓案報

なに色にしよう私のラッピング  
一歩出す何かが変わり始めてる  
何食わぬ顔で急所をついてくる  
ふる里をなにかにつけて想い出す  
なにをなにしてちゃんと通じる古いふたり  
マニフェスト何を言っても眉に唾  
さてなにをしよう自分へプレゼント  
何がさて先立つものが不如意なり  
煩惱を捨てると何も怖くない  
何色に塗っても埋まらない空虚  
何着ても美人の妻は良く似合い  
プライドを捨てれば私風になる  
何もなく過ごせ夕日に手を合わせる

美 籠 光久 加お里 昌紀 みつ子 いわゑ 義子 楓楽 遠野 美智代 たもつ

## 竹原川柳会大敗 古田 太虚報

ピンチには自分信じて切り開く  
幾つものピンチふたりだから越えた  
どうしよう私残して逝くなんて  
鳥沈む地球ピンチの温暖化  
ピンチはチャンス花束を送る  
どこ行つた私の知恵が家出する

慶子 栄恵 幸子 弘子 千代美 規代

知恵の輪が解けたまんまで置いてある  
善と悪知恵はどちらの顔を持つ  
神さまがくれた知恵にもある格差  
知恵を出し合つてまあるい輪になった  
人間に戻れる知恵を模索する  
豊作の案山子も弓矢かまえてる  
弓道部青春刻み娘は卒業  
弓道部少女真つ直ぐ恋をする  
弓に矢になれる夫婦間的がある  
最後の矢残して深く考える  
母の弓時々泣いていたんだね  
弓少し外れて僕の妻となり  
ほーほーホタル私の水はどこですか  
モロコシの甘さ程度の幸が良い  
心配事話し仏間の灯が揺れる  
雷鳴かペーとーペンの運命か  
大好きと肩をするりと風抜ける  
がんばつた証流れてくる汗は  
大輪の花火の手が届きそう

半徳 一路 静風 蘭幸 力

## 川柳おっぱい吟社香川 川崎ひかり報

狭くても家賃の要らぬ家に住み  
什送りの半分家賃が持つてゆく  
賃貸に住まぬ誇りの亀の甲  
不景気に賃仕事まで姿消し  
荷物より高い運賃母心

賢 八重子 あきら 放任 弘

賃金を上げてと騒ぐ村雀  
賃金がまた遅れると言うウワサ

和歌山三幸川柳会 武本

錯覚であつてほしいというカルテ  
錯覚だおたまじゃくしが空を飛ぶ  
ヒーローになつて観ているスクリーン  
凸面鏡愛はまほろしだったのか  
わたくしを母と錯覚する鏡  
母の手と見紛うような弥勒さま  
絵に描いた餅へ迂闊に手を伸ばす  
紫陽花が錯覚してるウラおもて  
森林浴眼鏡が要らぬほどに酔う  
挙げた手のやり場に困る勘違い  
あの頃は確かに見えた赤い糸  
肩の荷を降ろしたような殉戦碑  
老人がひとり降りたら空のバス  
階段を登つて降りて物忘れ  
目の位置を降ろすと世間温かつた  
天下りレールは疾うに敷いてある  
しょぼくれて山から天狗降りてくる  
坂降りる方が苦しい自尊心  
褒められて降りる時には無い梯子  
幕降りて騒ぐ私の愚かさよ  
大企業も急降下する台所  
ポランテア汗を量つたことがない

いさむ  
ひかり

碧報

菜摘  
町子  
武  
朱夏  
碧  
孝子  
絹子  
美花  
幸  
嘉平  
八重子  
剛  
次根  
房代  
柳昌  
芳女  
みね  
登美代  
義雄  
賀代子  
かずみ  
章子

リハビリの汗は涙の味もする  
人間よりもっと切ない河馬の汗  
頂上を極めた汗だ拭わない  
したたる汗のち実感しています  
まっすぐに流した汗は奪えない  
名人芸汗のかかない顔をして  
汗かきが仕事したよな顔をする  
花いっぱい植えていい汗かいてます  
遊びから拾う未来の宝物  
バーチャルな世界で遊ぶ子の無口  
ほど遊んで頭が痛い腰痛い  
偉ぶつていても男は回遊魚  
ふるさとの風と遊んだ薫草履

松露川柳会鳥取

小西

雄々報

目標は高く揚げずにはほどほどに  
晴ればれと目標どおり仕事した  
目標にとどまかけたが夢がさめ  
目標を持つて頑張るお年寄り  
介護保険縁ない暮し目標に  
目標はポケットの夢咲かすまで  
的紋りライフワークをたてなおす  
草取りも目標たてて少しずつ  
目標をクリアした日は雲の上  
目標のハードル高く届かない  
白寿まで生きる目標練りなおす

桂香  
和子  
昇  
理恵  
准一  
順一  
東吉  
イセ  
幹子  
純子  
当代  
保州  
俵子

佳句地十選

松山芳生

人間が肥り地球が痩せていく  
本棚のマンガで脳を遊ばせる  
一本の輪ゴムが我慢しろと言う  
スローライフに檸檬沈めるティータム  
ゆっくりと歩いたら駄目老いがくる  
渴きたす心に掬う今朝の水  
列島のびちみする時刻表  
生と死の狭間で呼吸する脳死  
犬が往くやっぱり家族だったんだ  
削つて削つて三原色になる

三津子  
志華子  
無限  
弘一  
堅坊  
淞丘  
章子  
柳弘  
弘弘  
アキ

目標へ向つてのびる朝顔だ  
穏やかな長寿めざして生きている  
目標へ努力の二字を積み重ね

静江  
正光  
雄々

川柳塔鹿野みか月(鳥取) 福西

茶子報

今宵またあなたと飲もう生ビール  
露ほどの命に欲は離さない  
煙いはずなろう黄泉へ行く煙  
煙いのは秘書ではないよ本人だ  
棚経に米一升の礼をする  
下山してカラカラ喉に生ビール  
煙い人近く退職するらしい

クニ子  
房子  
盛桜  
稔  
螢  
重忠  
和枝

決断をせまる鐘の音夕焼ける  
土砂降りに雨宿りして生ビール

彩子

生ビールの味でおぼえた家のすじ  
風下を歩く変人煙に巻く

汲香

ドリブルがうまくてシユートゴール入れ  
茶柱に弾んでいます今朝の靴

隼人

元氣いい母の傘下で凌ぐ露  
露おりに涼しい朝の草むしり

茶子

わかあゆ川柳会鳥根 松本はるみ報

美代子

死を覚悟度胸に散った花筏  
辛口の批評に負けぬ津軽弁

花匠

あつさりとした性格の友が好き  
棚経のいつか主役になる時も

幸枝

今ここで過去と未来を分けている  
年金で素朴な鍋をかこんでる

恵美子

乳を吸うドクンドクンと血を創る  
糞虫の度胸が欲しい北の風

雅城

人恋し泡が恋しとピアガーデン  
棚経に先祖は耳を傾ける

弘子

おしゃれして出掛けた今日は年金日  
衣替えなどと服選るいい時間

聖子

辛口のペンが世相へ立ち向かう  
厚化粧すれば度胸も知恵も湧く

花峰

札東で煙たいことはすぐ消える  
おにぎりを買ってマクド追ってゆく

八重

未来など見えぬ眼鏡を拭いておく  
不況今未来を思う川の音

伸子

核心をすばり突いているいい度胸  
ほのほのと花の匂いの道をいく

慕情

棚経で他宗の経も有難い  
棚経に白く咲いている蓮の花

蟹良

ひっそりと手と手をつなぐ甲虫  
万歳で出てひっそりと帰国した

好栄

川柳ふうもん吟社鳥取夏目 一粋報

五楽庵

生きていてよかった旨い生ビール  
解決を見たかうまそう大ジヨッキ

小満

度胸など無かった胸が抜けていた  
辛口が鍛えた老いよ生き甲斐よ

好栄

身勝手な私を叱るように雨  
手際よくとろく女房が頼もしい

洋々

棚経のかわりに千の風うたう  
煙に巻くつもりが逆に咽せている

完司

川柳塔みちのく(青森) 小寺 花峯報

清泉

下書きをした道迷うカタツムリ  
愛おしく寂しくて買う花を選る

美雪

ブレーキが効かなくなつた夕餉どき  
いらぬ世話やき過ぎ煙たがられてる

陸子

好い日ですでんぐり返しの二三回  
窓際が反骨のペン離さない

一路

身勝手な親鳥ひなを置いて出る  
割り切れぬ寄せ隣境石

春名

あれからは妻が嵌つた生ビール  
二次会へ煙たい人は遠慮する

露子

辛口の味付けをした自分史だ  
榎山のゆらりと登るカブト虫

夕香

戦争のダメージ語り継ぐドーム  
湯につかり今日のダメージときほぐす

美恵子

み仏を迎え棚経せぬ宗旨  
棚経へ誂えられた僧の下駄

野節子

弾み始めた手まりさわやか風になる  
辛口の批評と決めている授業

芳生

貸した金催促をして恨まれる

孝男

煙る日を遠目に想うのもしのち  
棚経にいのちの流れ汲んでみる

物子

一呑

重忠

煙いもの勇気をもって招き入れ

富久江

銀波

房江

永子

順風

善夫

永子

銀波

無限

永子

銀波

節子

永子

銀波

秀四

父つつあんが身勝手に家出たまんま  
 ダメージを大きくのぼしゼロにする  
 割り切れんケーキに子等がケンカする  
 苦にするな一度や二度のダメージだ  
 名案も予算で没は割り切れん  
 株損のダメージ妻に内緒です

蟹郎  
 成子  
 由美子  
 澤子  
 美男  
 殺

家屋敷売ってマンション買えと言う  
 割り切れん学があるのに職がない  
 身勝手が過ぎはしないか北の国  
 身勝手だ離婚話もそっち退け  
 とういた種と忘れをして遅時きだ  
 ダメージは健康よりもお金でしょ  
 ダメージもスクラム組めば立ちなおる

惣子  
 悦子  
 昌鼓  
 益子  
 菊香  
 行男  
 虎尾  
 茂登子  
 清信  
 一京  
 清帆  
 喜美子  
 はつ江  
 喜子  
 一粹

割り勘の端数は若いのがかぶり  
 身勝手がすぎてダメージ強くなる  
 割り切れん思いを抱いている養子  
 呑みこんだ言葉はすべて日記帖

豊かさ  
 退職  
 蛇行した川  
 メタボ  
 辛抱したね  
 辛抱ももう限界  
 辛抱のかたち  
 ゆとりある人  
 初殺に卵抱  
 抜け殻に男  
 人間の殻  
 メモさえも  
 ローン済み  
 一枚のメモ  
 反論へ妻  
 メモ一つ  
 演壇で頼  
 一枚のメモ  
 辛抱が続く  
 どうぞ力を  
 幸せを夕陽  
 かたくなに  
 八起き目  
 恋熱れて  
 ボケット  
 さようなら

味忘れさせ  
 部長の殻  
 辛抱聞いてやる  
 とりのない家  
 ひとで救われる  
 虎ファン  
 防ぐ木木  
 自然体  
 置いてくる  
 時もある  
 首相  
 ゆとり  
 隙間から  
 噛る  
 舞う  
 山がある  
 国民も  
 菩薩さま  
 ゆとり  
 老いる  
 殻を脱ぐ  
 花時計  
 走り書き

博一  
 千梢  
 郁夫  
 隆子  
 あかり  
 修  
 隆盛  
 ふりこ  
 章久  
 集一  
 寿美  
 弘風  
 一風  
 真理子  
 富子  
 萌子  
 和夫  
 良一  
 卓

必要にされ辛抱もまた宝  
 耐えて耐えて耐えて虹の橋渡る  
 辛抱へんと座つた肝つ玉  
 ドビッシーにひたりきつてる雨の午後  
 一行のメモが引き金震度七  
 殺そつと開けて少女の好奇心

弥生  
 桜竜  
 朝子  
 のりこ  
 光久  
 美千子

川柳塔なら

坊農 柳弘報

辛抱が足りない見本ここにあり  
 畏も明けて後家るんるんの一人旅  
 若い頃苦勞したから今がある

隆之  
 浩二  
 彰治

辛抱が足り  
 一人旅  
 今がある

理恵  
 柳弘  
 國治  
 みつ子  
 恭昌

白も黒も犬のルールで仲が良い  
 くじ引きを妻にまかせせる休肝日  
 写経百巻積まりよとむすめ還らない  
 皆眠り案内やめたバスガイド  
 妻の掌の中でぐつすり眠つてる  
 激戦の島鎮魂の天体ショー

勝規  
 四郎  
 高明  
 輝夫  
 蜂朗  
 晴翠

川柳塔唐津(佐賀)

仁部

四郎報

川柳らくだの会鳥取 岸本 宏章報

宏章

海が好きなのに私は泳げない  
泳ぐ子に手を振る母の浜日傘  
縄のれんくぐれば水を得た魚  
泥沼の政界泳ぐ狐狸親爺  
わたし今時流に乗って泳いでる  
人生を両棲類で泳ぎ行く  
トラブルの元は鋭い妻の鼻  
僕が出て妻が入って湯が溢れ  
秘め事を妻が知ってる無言劇  
借金を断ってから友と溝  
火の玉を無断で飛ばす北の怪  
断って悪者になる覚悟する  
アメリカはお代官さまか言いなりに  
家風断ち新しい風入れた嫁  
断りの判断迷う義理人情  
結果見て原因見ないボケ部長  
原因は欲ではじまり手はうしろ  
広重の絵さながらの俄雨  
さながらに地獄だったなヒロシマ忌  
大家族の朝は戦いさながらに  
選挙前日本変えると吠えている  
よろこんでいいのか長寿国ジャパン  
富士山と芸者さんでは淋しすぎ  
イチローはジャパンが誇る宝物

淳風 義泰 力子 寿海 珠子 蛙城 俊昭 泰弘 仁緑 玄也 洋 昭 つかさ 香代 東吉 笑司 樋代 呂万 ダン吉 扶美代 和美 すみえ 柳風 はるえ

大リーグでジャパンイチローいい仕事 弘子  
ジャパン出てジャパンの良さを知る子供房枝  
今昔の感ありメイドインジャパン 恩  
富士仰ぐ青い目ジャパンワンダフル 浅子  
富柳会大版 古田 千華報  
許そうとしても十指が動かない  
黙々と生きる頑固な父が好き  
人の言う事を聞かぬと決めました  
ベレー帽父の頑固を知っている  
梅雨寒へ頓服のある処方箋  
梅雨しごと棚田を守る無精髭  
お互いの頑固笑える歳になり  
手のひらに無欲の彩を遊ばせる  
髪型を変えた私に気付いてよ  
梅雨空をドーンと割って陽が注ぐ  
父の意に背いた日から梅雨に入る  
ギャル曾根の食べない顔は美しい  
一本のバラで見直すわだかまり  
見上げると入道雲の力コブ  
生きている間はいつもチャレンジャー  
頑固さが美談となった父の通夜  
しがらみを断って見直す弥陀の膝  
姿見に映して母になる背中  
底抜けに笑って梅雨を吹き飛ばす  
たんねんにくらし見直す不況風

アキ 加央里 壽峰 千恵 昌成 和子 鐘造 登子 よしみ 未知 恵 晴美 高鷲 武人 糺 澄子 紅紫朗 奏子 欣之 よりこ

頑固さを売って老舗はご健在  
ふところの深さに溶けてゆく頑固  
見直した時には遅すぎた二人  
ひと雨の心変わり責める風  
親離れそつと見直すのは背中  
妥協せぬ妻がせつせと荷を造る  
温風に触れて頑固も輪にとける  
人生を見直す朝の花を切る  
横を向き別の自分が喋り出し  
何度でも見直す愛の中の愛  
薔薇のジャム花を虐待したわたし

倉吉川柳会鳥取 竹信 照彦報  
八月は日本を考える月だ  
災害の後は景気がよくなるぞ  
災害をのがれて幸を思う日々  
無計画がわざわいとなり丸裸  
土砂災害指定されてる裏の山  
災いが天から地から湧いて来る  
災いの元寇にチャックする  
おみくじに災難ありで気をしめる  
何時か来る命の終わり考える  
考えがやつとまつまり飯にする  
考える前に手足が動く性  
少年化の未来考え怖くなる  
温暖化メダカがじつと考える

深雪 扶美代 彦次 佳子 寿之 伸雄 信子 鬼焼 七朗 森子 千華 石花菜 登 日出子 重忠 京子 喜美子 悠子 貞子 和枝 節子 茶子 よしえ 次男

献立を考えながら本を読む

言い訳を考えるほどボロが出る

怒るまい別に迷惑かけぬから

南極に別荘建てて涼む夢

運命の別れに一輪花託す

二ツ三ツ別の顔なら持つてます

別れ際そつと持たせるお小遣い

別注でなくても既製服でよい

別姓を通して女強くなる

送別会明日は我が身と酔えぬ酒

別離する夫婦この世は死に急ぎ

十人の出口入り口みな違い

解けやすい口約束は蝶結び

入口に氷の旗が舞っている

おしゃべりが過ぎる口にも紅つける

いろいろな口に泣いたり笑ったり

口内炎トマトキュウリで治つたよ

貝の口閉じて我慢の空模様

よくしゃべりよく飲む人がよいお客

高知川柳社

小川てるみ報

試行錯誤したから次の手が見える

手を触れただけの幼い恋でした

マジシャンの手から平和な鳩が出る

背信の両手が濡れて乾かない

再会へ言葉はいらぬ手を握り

和子

恭子

睦子

由紀子

美代子

いさお

英子

かつみ

酔芙蓉

祐子

小生

風露

萩江

美津恵

瑞子

康子

賀寿恵

龍枝

照彦

仏壇に合わす両手に嘘はない

猪突猛進これも若さの勳章か

進むしかない神に貰つた道だから

ひと波乱暗示を跨ぐ月の暈

過疎進む老人力で村おこし

前進へ亀の歩幅を笑うまい

進化して生きる力を捨てていく

進化する人科へ泣いている地球

五分間進ませて来た花時計

行進の足が揃っているチーム

すり傷に妙薬だつた母の唾

おまじないのように常備のセイロ丸

百薬の長を愛して古希迎え

川柳塔わかやま

川上 大輪報

盆がくる亡父と冷酒を酌み交わす

侮つた土用波から受けた傷

生かされて体験語る八月忌

八月の蟬は仏の声になる

葉月には葉月の文をくれるひと

そつとしておいて下さい八月忌

母さんの異だ誉めてから叱る

一目惚れ異にかかった鳥のよう

煩惱の異から抜けてきた独り

異を解く葦にすがつて尚生きる

人間の身勝手うなぎ異の筒

京子

典雄

千鳥

哲史

三千世

てるみ

正躬

三郎

幸子

和広

忠

みどり

進

追伸のあたりで異が見えてくる

吉相を信じています丸い鼻

吉日の切り口上へ玉の汗

浮き沈み越えて吉相現れる

一瞬にさつきの吉が裏返る

掌に揺れる勝訴が風に踊り出す

吉報に可愛い息子奪われる

吉日も凶日もない介護の手

月下美人の香り吉報来る気配

懸命に生き身の丈の吉を待つ

家族の和大吉やなと思う日々

人と合う何時も良い日と決めている

母ひとりまた五右衛門の風呂を焚く

文箱にねむる煙になつた過去

今生の別れか煙目に沁みる

話上手で何時も煙にまかれてる

マニフェスト蓋を開ければ立つ煙

川柳ささやま兵庫

遠山 可佳報

金塊を眺めるだけの列にいる

なかなかの雑草雨は欲しがらぬ

戦争のない分命おろそかに

絵画展軽く来たのによい心地

本当の心なかなか笑わない

給付金眺めて夢が大きすぎ

マネキンをじつと眺める思案顔

大輪

よりこ

利治

めぐみ

小雪

寿子

泰女

登美代

俣子

富美子

美子

真里子

徑子

輝子

ほのか

三男

紀久子

純子

美緒子

二英

美紗子

啓子

多美子

開子

なかなかの味つけ上手い女房殿  
傘寿まで生かせてもらい夢がある  
いい眺めだった困りの田にも家  
主婦多忙なかなか時間もらえない  
余裕出て空に表情あるを知る  
産声へいのちが一つ過疎守る

南大阪川柳会

吉川 寿美報

いやいやと思つた事がない介護  
いやはいやはつきりさせる若いママ  
誘われた旅にいやいやする返事  
いやいやをしたらそのまま消えたバカ  
いやいやのふりし勿体つけておく  
ボキヤ貧の頭から音がする  
君が代の乏しい声が悲しすぎ  
乏しいが乏しいなりに分ける髪  
パーゲンが乏しい財布こじあける  
酸欠の街であえていっているみどり  
物ばかり溢れ乏しい思いやり  
情報が乏しく連が逃げて行く  
乏しいのはお互いさまと言う右脳  
声かけてよいつでもザイル投げますよ  
万策が尺きて神風待つている  
ヘルプにはならぬ疲れる見舞客  
奇数月の財布白旗振つている  
被災者を助ける闇が深すぎる

照代 かほる 幸子 美智子 哲男 可住

ルイ子 タカ子 太郎 楓 楽 清 章久 昌紀 弘子 柳伸 みつ子 弘泰 柳弘 義子 尚士 和雄 祥昭 あや子

側にいるだけで立派なサポーター  
ヘルプミー夏と言うのに肥つてる  
マニユアルじゃ助けにならぬ孫を呼ぶ  
わずらつてるところどこもかしこも日本国  
八月の空へわずらうキノコ雲  
思いやる心を奪う病む社会  
わずらひはビールの泡が消しつてくれ  
曖昧な返事が生んだ勘定書  
曖昧な人には釘をさしておく  
曖昧に過した付けがいつかくる  
曖昧な話へ耳をかつぽじる  
毒舌の友のヘルプがさりげない  
老介護長わずらいの百度石  
梅雨空のように交互に躁と鬱  
あいまいな大阪弁で世を渡る  
曖昧な味へカレー粉少し入れ  
決着はいつも玉虫色だった

西宮北口川柳会(兵庫) 黒田 能子報

科学館で父と見た星道しるべ  
世の動きどう変ろうと北斗星  
満天の星に父母みつたり  
絶対に壊してならぬ青い星  
荒んだら夜の星空見てごらん  
辿り着く場所があるのか流れ星  
太陽と言われたこともありました

一步 忠昭 栄子 勝弘 たもつ 直子 弘風 光久 志華子 滋郎 寿美 ダン吉 千梢 克己 郁夫 シマ子 東吉

わこ 求芽 弘子 朋月 忠 歳子 章子

天体ショー神の造作にみるロマン  
やんわりと胸の内聞くアンケート  
胸三寸に納めた父の肩動く  
娘の胸はふくらみながら親離れ  
胸借りて本番に勝ち恩返す  
さよならに足したい言葉たたむ胸  
駄句であれときめきながら選を待ち  
この始末あな自分の胸に聞け  
胸倉をつかむ喧嘩はもう出来ぬ  
内緒金かぞえてもらし妻の背な  
ゼロの数かぞえ違えている喜劇  
夏休みあと幾日と親数え  
速き日の思い出紡ぐ数え唄  
十からは沢山と言う孫の指  
戦前戦後たまたま生を受け生きた  
たまたまが本気になったイヤリング  
百点をたまたま取つてからの欲  
少年はたまたまですとボランテア  
まぐれです言いつつ照れる入選句

松煙 野鶴 比ろ志 基輔 見清 浩司 直 正和 美津子 紀乃 玲子 緑 哲男 富喜子 美籠 光久 鹿太 キヨミ 耕治 美穂 千賀子 りこ 奮水 折杭 早加水

月の出をベッドの母が指を差す  
言いかけて止めた言葉に謎がある  
スタンドは汗と涙の甲子園  
名声も時の流れに転がされ  
沢山の愛をもらった四〇年  
生きている証拠と痛みさすつてる  
たまたまという言訳を疑われ  
まぐれです言いつつ照れる入選句

ブライドに刃入れたのが固すぎる  
一兆  
ナチュラルに見える化粧がむずかしい  
哲子

京都塔の会

都倉 求芽報

川柳若葉の会(大阪)

宮崎シマ子報

フルムーンにおめでたというミステリー  
則彦  
謎の国マーブル絵の奥推理する  
輝美

ちよつとだけ待たせて彼に氣を揉ます  
満子  
チアガールマーチに乗つて氣も弾む  
孝一  
地平線まだみつめてるきりんの目  
葉子  
まぢまぢの思惑胸に選挙戦  
英旺  
まぢまぢの意見まとめる丸い鼻  
朝子  
血液型がまぢまぢだらう茲しい  
昌乃  
幸せもまぢまぢ窓に灯がともる  
としこ  
ストライクゾーン時々まぢまぢに  
求芽  
土ふまずまぢまぢの道行きたがり  
宏子  
捌け口がちよいちよい掛かる進り  
ふりこ  
ひまだから仇のように蠅叩く  
典子  
ポンと尻叩いて送り出すチャンス  
欣之  
おざなりに叩くと音が返らない  
比ろ志  
叩いたらあかん二七物買わされる  
かずお  
一回目の結婚は叩き台  
啓子  
叩かれる度に膨らむ知恵袋  
文代  
愛情を少し挟んで子を叩く  
美義  
にわか雨傘が取り持つ縁もある  
鹿太  
無重力体験出来た二日酔い  
ますお  
推理小説続きは明日に消す灯り  
庸佑  
へそくりがなくなつた謎推理する  
綾子  
よろしうに推理不要の男です  
弘之

満子 孝一 葉子 英旺 朝子 昌乃 としこ 求芽 宏子 典子 欣之 比ろ志 かずお 啓子 文代 美義 鹿太 ますお 庸佑 綾子 弘之

たすけての旗振つてるの見えますか  
ますみ  
年重ね弱気がヘルプ言いたがり  
加津子  
助けてとは言わぬ男に意地がある  
弘直  
国の喧嘩タオルをなげる国がない  
香住  
バスタオルまどつてはととするタイム  
慶子  
手を振つてヘルプ待つてる向う岸  
能子  
本当はね老人みんなヘルプミー  
烈  
ヘルプヘルプ息子が金を取りにくる  
シマ子  
東大阪川柳同好会 宮崎シマ子報

照る曇る妻の機嫌のわかる椅子  
雅文  
单身赴任帰れば僕の椅子がない  
敏子  
ロボットに椅子を追われる夢をみる  
風子  
草いきれ若い二人に止まる時間  
和代  
花時計に笑われそうに待っている  
緑  
ゆつたりと時間流れる山の宿  
あや子  
苦と楽の時間共有して夫婦  
美弥子  
毒少し飲んでときめく時を待つ  
八郎  
ときめいた頃は美しかった虹  
和子  
ときめきは私を華にしてくれる  
朝子  
パリコレへときめくいつまでも女  
克己  
ときめきを残しマイケル駆け抜ける  
穩夫

種痘のあとまだ消えてない戦中派  
かね子  
わだかまり消え去りうまい酒になる  
秀夫  
後継ぎのない伝統芸に無為無策  
高尚  
限界集落今年最後の苗植える  
三重子  
一つ覚えの芸で催促するおやつ  
美子  
お手や伏せお預け出来るうちの人  
珠生  
方便も芸も持たずに生きた父  
賢子  
かつぱれを踊る親子の息が合う  
湖風  
ほたる川柳同好会(大阪) 水野 黒兎報  
絵日記に少し手を貸す親心  
久子  
面白い真面目な顔にゴハン粒  
信男  
小指立て信じていいのネエあなた  
幹治  
面白いこともあつたね終戦後  
黒兎  
英霊の声なき声が響く夏  
祥風  
夏負けにうちのアロエは勝っている  
契子  
雷はよそへ落ちると信じてる  
春代  
深夜まで鯛の声執帯夜  
柳童  
猛暑の日命の限り蝉が泣く  
長一  
夏休み今は静かな広い部屋  
禮子  
口癖はなんぞおもしろい事ないか  
勝  
川柳茶はしら(愛知) 板山まみ子報  
迷惑はかけたくないとい足踏機  
遡行  
ケセラセラこの世のことはこの世きり  
美千代  
縁ですねチャンスですよとい出逢い  
幸子

地球人命の皆工コ実施

裁判はいやで夫は裁いてる

ペア枕ひとつは足を乗せている

将棋指すいつきに攻めて王手なり

うまいものこの世のうちに食べておく

いずも川柳(会島根)

佐藤 治代報

出遅れも風を味方に勝負する

土壇場で開き直ったやせ蛙

ブームには乗りそなたブーメラ

遅れなどしない形見の腕時計

マスコミが煽るブームに腹が立つ

開き直ってそれから良く眠る

豚舎から赤い夕日が目に入る

明日読めず切ない嘘もつきました

ブームだと知らない物を買ってくる

遅刻して一番前で貝になる

ミスポークあなたの舌を喰らせる

遅れても許してくれる山がある

古日記開くと心ゆさぶられ

絵手紙の豚がのんびりしろと言う

生き抜いて宇宙ブームの旅に出る

愛情に触れると開く花の精

予定より遅れたバスに乗っている

ブームにも乗れずふわふわ浮いている

百合江

かつ子

由美子

雅美

まみ子

博子

佳子

桂子

健柳

夢生

敬子

たえこ

美千代

キミエ

久枝

弘子

美江子

歌子

テル子

昌枝

佐余

龍石

治代

ひろし

飛び出した子に門を開けておく

胸襟を開いたあとの青い空

悠々と遅れ大きな顔のバス

食い足りてメタボとなっている豚尻

美人とは世辞にも言えぬ豚の鼻

一杯が胸のしこりを解きほぐす

遅植もやがて芽を出す陽の恵み

常連の遅れの席は開けてある

一冊の本を開いてヒロインに

遅れまいコツコツ亀と歩いている

ブームです入道雲が海へ呼ぶ

よさこいのブームに乗って蛸踊り

うっかりと隠した嘘が動きだす

戦争がブームになっちゃいけません

よくもまあ嘘を並べてマニフェスト

妻の目を通すと嘘がすぐばれる

寿美

孝亮

すみ子

煩惱尼

ちえ

まこと

房子

房緒

多喜

蘭水

きみえ

圭詩朗

玲子

茂美

文子

ちかし

浮草の暮らしも楽し妻がいる

人よりも水着が記録塗り変える

公園で礼儀正しい犬に会う

俺にもあった浮いた話の二つ三つ

失礼と言って割り込むでかい尻

世の中を上手に泳ぐ聞き上手

少し角取れた礼儀が心地よい

水泳は得意世渡り溺れがち

定年後趣味を泳いで生き生きと

尾ヒレつけ上手に生きる年の功

修身を復活せよと老いの愚痴

荒海にもまれ浮力を身につける

人の世の浮沈見てきた大落暉

魂の浮かぶ瀬のない原爆忌

浮き沈み乗り越えて来た自負がある

半世紀泳いで無事にわが母校

けい子

正美

和子

敬二

淳司

富美子

一慧

幸雄

正子

芳野

武男

孝代

和代

三和子

幸子

正一

川柳塔まつえ吟社(島根)三島 沁丘報

直樹

エミ

輝子

靖博

明子

たけし

光弘

正博

直樹報

村上

長柳(会大坂)

はつくりと一足先に逝くつもり

人溶かし原爆廃墟今もある

世渡りも泳ぎも下手で困ってる

誉められる事は明日への糧になる

美人だが礼儀を知らぬ嫁が来る

親の恩礼儀忘れる反抗期

手の指が心伝える手話の人

接待ゴルフOBするのに苦勞する

送られた旗まなうらに原爆忌

送られることが嫌いで振り向かぬ

いい汗を流し明日へ送ります

送られたメールに腰が落ちつかぬ

桂子

ちえこ

たけし

蘭水

注湖

美智子

蘭

弱点に振れた不覚が悔やまれる  
 不覚にも壁に耳あり漏れていた  
 あの時の不覚私を変えまして  
 だまされて不覚の涙もう遅い  
 陽に干した私の脳は二十代  
 清濁を併せ呑み干す太腹  
 梅雨晴れ間カメ甲羅干し平和なり  
 原爆忌干芋主食だった頃  
 ほどほどの暮らしを囲む一夜干し  
 海へ来て心に溜まる不満干す  
 遠花火錆びゆく脳をくすぐって  
 くすぐられほころびまでも出てしまっ  
 鼻の先くすぐる話聞かされる  
 見えずいた言葉上手にくすぐられ  
 くすぐってみよう最後の奥の手だ  
 くすぐりたい気分であつた褒めことば  
 矢印が無いから自由に道選ぶ  
 矢印を探し未だに迷い道  
 貴方の歩く矢印について来た  
 煩惱に矢印のない迷い道  
 母逝つて矢印いつの間にか失せる  
 老いの道もはや矢印など要らぬ

川柳クラブわたの花大阪 西川 義明報  
 一眼レフ写した父もセピア色 俊子  
 はぶける無駄どっさりとある選挙前 晴美

料金を見てから探す星の数  
 水たまり探して歩く三歳児  
 洗いざらい担保に取るは死ぬつてか  
 お金より好きだと言え物がない  
 今が谷不況を蹴って行く散歩  
 皆既食鶏じつと座り込む  
 言わずとも心読み取る母の勘  
 谷あいの村にも進むデジタル化  
 嫁く朝無言のままの父の愛  
 妻の留守携帯オフのネオン街  
 子育ての汗は大树になる肥料  
 懐に抱かれて人は安らげる  
 老猫に我が身を重ね世話をする  
 盆栽の歴史を誇る植木鉢  
 盆栽み土産話のハワイ焼け  
 髪形も口紅も変え彼も変え  
 中吊りで中身のわかる週刊誌  
 父母の愛年月重ね気付く日日  
 珍客がナビのガイドでこんにちわ  
 私のいのち担保で折る神ほとけ

城北川柳会大阪 伊達 郁夫報  
 マニフェスト実行出来る財源は  
 病んでみて家族の中にある安堵  
 錆と垢持って人間やっています  
 動くのが好きで手伝い苦にならぬ

浩三 孝子 和子 ますみ はじむ たえ子 美代子 耀一 知佐子 民 君江 博子 愛子 宏至 義明 いつふみ 宏 正春 妙子 一風

そのまんまかまたかけてそのまんま  
 古民家の昔を語る錆びた釘  
 めざす服びつたり合つて若返る  
 合鍵も赤い糸切れ錆びたまま  
 頭からへろへろ融けてゆく酷暑  
 抱きしめて母乳で育つ優良児  
 よめほんの蓄え問うてみたいもの  
 連休の多さ大正呆れさせ  
 四年ぶり会えてうれしいあきあかね  
 ふるりの米はブレンド米でない  
 有り難いお経らしいが痛い足  
 眉に唾つけて自慢を聞いてやる  
 七十を越えれば何も恐くない  
 正直に喋って波乱巻きおこす  
 人の字のような形になる介護  
 安否問う友ふるさとに居てくれる  
 名も歳も問わず肩組む屋台酒  
 クラス会老いた錆浮く顔ばかり  
 モノクロをカラーに変える人と居る  
 背伸びした言葉ぐらついてた度胸  
 嗅覚で男の嘘を問い詰める  
 度胸ならなにわ女にまかしとき  
 致死量の毒に本心確かめる  
 働くしか能ない僕ですみません  
 よいしよする片棒ならば担ぐまい  
 寝をべつたままで尾も振るバテた犬

一幸 あさ子 容子 麗 令子 静枝 勝弘 千歩 美智子 妻子 弘風 かずお 東吉 典子 満洲夫 たもつ 郁夫 章久 明子 萬的 順三 昭 正 一歩 志華子 倫子

生きている意味を時どき聞いてみる  
辛酸をなめて人間度胸つく  
スローライフ阿吽の呼吸共白髪  
逆境の修羅場くぐって来た度胸  
輝しぐれびたりと消えたいわし雲

川柳花の輪(大版)

妻谷 重風報

中心にアンパンマンがいる家庭  
一目散ママ喜ばず二重丸  
母の背の丸みに思う親不孝  
人の世は丸に四角に馬鹿利巧  
原爆忘ぼろぼろ地獄語り継ぎ  
ボロボロとこぼす母さん叱れない  
ぼろぼろになつても使い易い辞書  
我が命受取人を外す妻  
家族会議口やかましい父外す  
ばあちゃんの入歯外したいいお顔  
酔うたかな十八番の歌を外して

尼崎尾浜川柳会(兵庫)

田原 一兆報

凶星さされ思わず見せる苦笑い  
再婚のしあわせを干す 羽蒲団  
ずるずると添うてきたけど悔いはない  
焼香が長く背中ツツかれる  
ノックしてね私只今ふて寝中  
反省もせずするする悪の道

朝子 野鶴 柳弘 集一 賢子

重風 一幸 風 芽田暮 泰子 音成 克衛 ミヨノ 薫 やすの 善栄

一兆 よしひさ やすこ 野薫 理江 五月

つかれたら愛の賛歌を唄います  
朗らかな笑いが周囲和ませる  
父と息子人生かたる焼肉屋  
ずるずると仲よくなった隣の娘  
運鈍根しみじみ人生考える  
沈黙の原爆ドーム平和問う  
ゲリラ豪雨ノックもせずに入り込む  
不況など知らないような青い空  
風の糸切れて無限の空に舞う  
幸いを纏いビリオド討つ予定  
花の水今日は引継ぐ退院日  
よく笑う人につられてよく笑い  
傷心を風が優しくノックする  
人生は脚本のない夢芝居  
志忘れずるずる生きている  
平凡の中でずるずる生きている  
目標を埋めて人生いまが旬  
明日はやる何度聞いたか重い腰  
延ばせるだけ延ばしていつも神頼み  
ずるずると深みへはまる妥協癖  
彼の胸こぶしで叩き拗ねてみる  
よく笑う当分縁のないあの世  
気紛れなノックに心乱される

菜々子 政江 政江 真陶 美代子 紀乃 勝巳 孝一 靖鬼 キヨミ 奮水 耕治 朋月 朋月 亀与子 かずお 求芽 美義 イサミ 全彦 鹿太 祐康 哲男 美籠

オフレコが記事になったと騒ぎ立て  
新築の木の香ロインを忘れさせ  
大根がお負け電車で持て余す  
情に掉さして一票もらい受け  
図書館通い避暑と昼寝とお勉強  
誘惑に負けて禁酒が消え失せる  
正面のドアが素直に開きすぎ  
目玉焼き成功したよ妻は旅  
ポイントのカードが誘う無駄遣い  
成人になった息子と酌むお酒  
イエローカード時どき夫にちらつかす  
平成に影をひそめている希望  
負けてやつと爆撃のない青い空  
崖っ縁でジョーカー持つて迷いだす  
地獄へはキヤッシュカード持つて行く  
木簡にやまとロマンの息づかい  
時時は病み妻の愛確かめる  
家計図はあるが何でもない家系  
負けとこう遺族年金もらうんだ  
旨い酒胸のボタンを外させる  
ビッグ記事にいつしか慣れて驚かず  
切り札は核廃絶と言うオバマ  
就任より辞任の方がトップ記事  
朝顔が無邪気に咲いて原爆忌  
八月の記事謎ひとつずつほぐれ出す  
言い負けた父にもそつと酒を注ぐ

庸佑 郁子 啓生 (水)玲子 千恵子 隆 さらり 勇治 則彦 萬的 十八娘 尚士 千枝子 寅次郎 宇乃子 早人 (岩)玲子 見清 寿美子 堅坊 満寿巳 柳弘 滴子 幸雀 葉子 美義

豊中もせい川柳会(大版) 藤井 則彦報  
負けましたそのひと言が言えなくて 夢

賢沢の覚えのないに成人病  
取って置きのカード私の笑顔です  
美智昆

若美川柳会鳥取 石谷美恵子報

枇杷の葉の煎じぐすりが癌に効き  
葉さくらの下で昼寝は極楽だ  
もう誰も来ぬ葉さくら道歩く  
若葉から青葉に変わる夏が好き  
一枚の葉書きが運ぶよい知らせ  
腐葉土になったわたしの先祖たち  
笹の葉がゆれる私の恋もゆれ  
葉ばかりが勢いよくて花咲かぬ  
緑の葉眺めて癒やす目の疲れ  
脱皮するたびに輝き増す少女  
マニフェスト選挙終れば全部脱ぎ  
責任を逃げる神経痛とか  
神経を尖らせ金庫番をする  
百歳を生きた神経まんまるだ  
神経を癒すベットの会話  
神経が尖る時で霧が湧く  
神経を一点にする闇の中  
父さんの神経ふれぬよう頼む  
神経の休まる我が家一番だ  
満月の夜は神経も穏やかだ  
梅雨どきの暑さ神経いらだたせ  
神経を使つて嫁は介護する

求芽

蟹郎

稔

清帆

孝男

圭一郎

一瑠

美雪

和枝

幸子

茶子

幸安

螢

はお

忠良

睦子

重忠

節子

一京

たぬ

菖子

和子

かつみ

だしぬけの悲報がほほをツネらせる  
だしぬけに大往生を遂げたいな  
だしぬけの指名オロオロする音痴  
美恵子

はびきの市民川柳会大邸 永田 章司報

妻の知恵家計の赤を黒にする  
非戦論たとえ赤だと言われても  
早よ穫つておくれと叫ぶバナナの木  
桃買いに行つてバナナを買つてくる  
病人になったらバナナあげましょう  
妻の目が笑ううす知つてるな  
うすうすの予感外れの宝くじ  
病名はうすうす知つていたけれど  
うすうすは感付いている妻不気味  
夏バテに緑黄野菜よく食べて  
私の一番好きなみどり色  
緑浴び人は素直になつて  
うたたねの頬を緑の風がなで  
アスファルト割つた緑がいとおいしい  
ローカルのニューズやさしい花便り  
初孫の誕生今朝のよい報せ  
盲目のピアニストから良いニューズ  
久々の明るいニューズシヨバン聴く  
民民と蟬がうるさく鳴いている  
近すぎて子はお泊りをしに出来ない  
カラオケにナツメロだけのクラス会

庸佑

いさお

美代子

扶美代

敏

一知

悦子

アヤ子

章司

フジ

一壺

ダン吉

千鶴子

みつこ

泰子

恵子

ちづる

久仁子

真一

ヨシ枝

喜久子

満月の雄の螢は雲隠れ  
誤字脱字それでも温い母の文  
美喜

川柳さんだ兵庫 北野 哲男報

終戦日亡父がいたらと母が言う  
お盆には無縁仏に余り花  
風雪に耐えおだやかな野の仏  
亡父の顔眉間のほくろの仏様  
膝質して寝かせてくれる生き仏  
加齢とは鬼が仏になる過程  
退院の記念に置いてきた臓器  
記念の日いらないう言わないうで  
部屋いっぱいおもちや広げて孫の笑み  
千円でCO2をまき散らす  
孫元氣笑顔いっぱい至福の日  
初歩さしかとふんばる未来の子  
見え見えのことばかり言う人気取り  
今だけは地元へ帰る議員さん  
ステテコのジジイも負ける夏のギャル  
精一杯生きた証の深い皺  
ロボットが人に似て来て来て恐くなる  
熱中症こわくガブ飲み夏太り  
吟行のみんなの願い句碑たずね  
古希迎えそるそる次の恋模様  
軽トラと同じ値段の絵入歯

喜代子

好文

婦美子

順子

朋月

章子

忠

ちあき

歳子

千代子

雅司

一子

克則

裕美

正和

光久

一泉

キヨミ

美紗子

祐康

哲男

六甲川柳會(兵庫)

伊勢田

毅報

充電と称し怠けておく夏日

改めて自分と対話誕生日

満点の妻になるのは諦めた

満点が巢立つた後のすきま風

満点を捨てて持ち味光りだす

満点のはなまる夢を追っていく

何事も満点ねらい努力する

ありがとう乾いた胸にいい響き

今生きて心にひびく蟬時雨

若者が天にひびくと打つ太鼓

ひびき合う友あり今朝の八重の花

いつまでも打てば響いていたいもの

港にはジャズより欲しい音がある

スピードが出ずに先輩追い越せぬ

現代よ速と競つてどこへ行く

スピードを少しゆるめて笑みふやす

離島では歩く速さで時が過ぎ

ほどのスピードで来たこれからも

流さず自分の歩幅忘れずに

古希近くこれからの旅ゆつくりと

老夫婦スピード落とし生き上手

嘘をつく不思議と口が早くなる

スピードが音速こえて音をたて

持ち時間スピードアップしなければ

楓 楽

いわゑ

利子

登美子

茂

(早)孝子

繁義

武彦

美恵子

(山)弘子

寛子

弘

勝

光久

忠貞

恵子

政一

史郎

浩司

千賀子

勤

基輔

能子

噴水が上がる生き方変えてみる

万歩計デジカメさげて今日は雨

風鈴が泣いてくれない熱帯夜

幕が降り善人役を脱ぎ捨てる

さるすべり花のかんざし天高く

医者でなく財布が止める酒煙草

疎開地へわたし探しのローカル線

左遷地も開きなおれば都かも

太陽は偉い相手を選ばない

白木槿ボトリと落ちて友惜しむ

米子住吉川柳会鳥取 渡辺多美子報

夏祭り口美にして里帰り

朝日さし夏の匂いで目がさめる

おすそ分けしたくコトコト豆を煮る

これでも結構男をたてている

淋しくはひとり芝居で今宵閉す

じいばばを三ツの孫がねかしつけ

そもそもはアダムとイブの二人から

ぶな林の新緑浴びて握り飯

億万長者幻でした夢でした

歳とって地球自転に寝起き逆

川柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

好きですと言うてましたが時効です

優しさを貰い優しさ差し上げる

和郎

盛夫

礼甫

順子

(小)孝子

洋一

美穂

毅

無限

みつ子

礼子

登美枝

多美子

未延子

ふみ

宏之

公一

すみえ

欣子

正二

修

ルイ子

アメリカが吠えてもテロは鎮まらず

好きなだけ飲めと言われて困ってる

極東の範囲がいつかインド洋

選挙カーマイクが吠えている真夏

アナタとの距離が縮まらないあせり

暮まいる今更託ることはかり

覚醒剤可愛い顔で人騙す

泥棒が去って安心して吠える

与野党が互いに吠えるマニフェスト

好きな道何度こけてもへこたれぬ

スキライ言えぬ戦後に親も泣き

縁あって貰った猫が多産系

歩くだけ見えてた浄土遠くなる

ここ一番吠えてた父がいた昭和

父が近き何時も聴こえるお念仏

少年が夢を貰った虹の橋

悔しさが聞こえる被災地の柩

九条を守りたいので吠えている

風鈴も眠たくなれば上を向く

九条までの距離を縮める反戦歌

手の届くところにも居た青い鳥

距離を置きそつとかがう顔の色

耳もとで吠えるのだけはやめてえな

是非かと臓器移植を問う脳死

父母逝つてふる里の道遠くなり

忠央

寿子

鈍甲

弘風

銀杏

仁清

さち子

博泉

三郎

一風

麗

あさ子

じゅんこ

茜

かすみ

栄二

柳弘

美智子

喜八郎

弘一

祥昭

秀雄

朝子

賢子

薫

浮き沈み世代交代来るまじし  
 ユーモアを効かせて人を逸らさない  
 いつからか母の型紙から抜ける  
 頂留子  
 庸佑  
 恵子

翠洋会(大阪) 安土 理恵報

いにしへの平城遷都寿きて  
 芋畑小判出たよなはしやぎ方  
 昔から美人薄命今違ふ  
 茶々  
 正雄  
 舞夢

アルバムを開く三十歳のわたし  
 戦争を昔話にしてならぬ  
 新聞はテレビ欄から見ると老後  
 生き甲斐も情報ネットで探す世や  
 千歩  
 楓楽  
 浩二

みのもんたゲスト差し置き識者振る  
 あの人の放送だから信じましょ  
 美人アナ天は二物を与えけり  
 大抵は普段着で見ているテレビ  
 日の出  
 集一  
 蕉子

勝ち戦だけを放送した戦時  
 玉音にひれ伏した日の蟬しぐれ  
 再放送「火垂るの墓」がまた泣かす  
 白痴化と言われたこともあるテレビ  
 れんげ  
 恭昌  
 みつ子

丁寧に見書き込む几帳面  
 アンケート個人情報聞きたがり  
 議論してずばりの指摘身に刺る  
 顔見知り間違いないが名前出ぬ  
 弘子  
 桃花  
 照子

ポリグラフのアイラブユーが揺らぎ出す  
 けんえい  
 昭

親は子の子は親の事わからぬ世  
 丸い背に悲しみ募る原爆忌  
 大仏の正眼未来憂えてる  
 四十一年逆らわれないが従わず  
 弁慶のようにひまわり立ち枯れる  
 親は子の子は親の事わからぬ世  
 志華子  
 満作  
 すみ子

川柳塔すみよし(大阪) 岩崎 公誠報

長丁場時の来るのをじっと待つ  
 神様にぎりぎりの時生かされる  
 憎しみの時の流れに掻き消され  
 もう少し時を下さいプロポーズ  
 躊躇せず時価のお寿司つまみたい  
 名刀が一気に時間たぐり寄せ  
 手に入れた時間を惜しむ二人連れ  
 一寸待て妻の決裁まだ下りぬ  
 時効やと古傷持った夫言う  
 恋の風時々私に吹いてくれ  
 今が食べ時賞味期限は気にしない  
 時々帰って来いと父は待つ  
 時すでに遅しの詐欺に引っかかる  
 逆境の時に知恵湧く連の良さ  
 信号を待つ一時に運が逃げ  
 この家をまさかの時は売りに出す  
 時どきは自分に暗示かけてやる  
 柳 弘  
 篤子  
 庸佑  
 りつえ  
 柳弘  
 定子  
 哲矢  
 舞夢  
 末吉  
 蕉子  
 芳香  
 太郎  
 チエコ  
 章久  
 克博  
 シマ子  
 日の出  
 美籠

くだわりが時の流れで消えてゆき  
 コツコツと海月を追って時の人  
 時により同じ言葉が胸を突く  
 うれしくて時のたつのも忘れてる  
 たそがれてしみじみと知る時は金  
 時々生きる証しのネジを巻く  
 幸せな時は幸せ感じない  
 美しい嘘が時間を忘れさせ  
 僕だってフサフサしてた時もある  
 つかまえておきたいこんないい時間  
 残酷な時の流れを知る鏡  
 時の人あつという間に忘れられ  
 百歳にたつぶり時間ある命  
 好きなことしている時は痛くない  
 待つて待つてと時の尻尾を掴む夢  
 三時間待つて五分の胃の検査  
 (奥)五月  
 公誠

堺川柳会(大阪) 河内 月子報

無人店風を信じているんだね  
 無念にも浮いた話のない私  
 太陽に味つけされた旬野菜  
 飛び蹴りの少年にある声変わり  
 雲ふわりいいなあしたは明日の風  
 その時の覚悟だなんてでまかせん  
 待ちぼうけいつも見ている花時計  
 扶美代  
 和夫  
 和子  
 唯教  
 直樹  
 時雄  
 朋月

光らない石も磨いている喜劇  
大声で笑える友が光ってる

肝心な時にケータイ切っており  
独りぼち思いがけない蜜飛ぶ

浮き雲と仲良くしたい高齢者  
こっそりと不好治療をする女王

ブランドもおもちゃも同じ時刻む  
人間はけもの以下だとオリの猿

日本列島派遣の首が浮き沈み  
ぼーっとする時間もちゃんと取ってある

つかの間の女王になる試着室  
女王が変わり税金高くなる

ご用心獣バリツとしたスーツ  
信じてはいかんうたがってもならん

死ぬ時もある時一人です  
森は雨森の怒りが雫する

獣より怖い誰でも刺すヒト科  
死に真似のうまい狸になつてきた

女王さまデイサービスの時間です  
人はみな氣力を大地から貰い

どうしても行きたい氣力ある限り  
飛び抜けて賢いことが心配だ

ピカピカの七ツ鉾は行ったきり  
帰る菓があるから妻は飛んでいる

日食の闇もたまにはええもんだ

公 誠  
日の出

梓

半 銭

千 代

好 好

惠 勇

五 月

天 笑

雅 明

月 子

み つ 子

康 浩  
舞 夢  
健 吾  
愿 愿  
竜 之 助  
としお  
ル イ 子  
房 子  
世 紀 子  
妻 子  
清 晋  
進

### 第34回全日本川柳大会

(2010年鳥取大会) 協賛

「春はくろほこ」第10回記念川柳大会

とき 11月1日(日) 10時開場

ところ 新日本海新聞社本社大ホール

TEL 0857-21-2880

JR山陰線「鳥取駅」南口徒歩3分

川柳塔社主幹 河内 天笑

おはなし (10月20日消印。出席者のみ)

事前後録 (10月20日消印。出席者のみ)

宿題 各題2句 締切11時10分

欠席投句受付 (10月20日消印有効)

「色めく」 両川 洋々選

「さらさら」 三村 舞選

「タツチ」 木本 朱夏選

「くどい」 土田 欣之選

「抜ける」 西出 楓楽選

「横」 天根 夢草選

表 彰 新日本海新聞社賞 河内 月子選

なりすな記念賞、秀句賞(各題3句)

欠席投句料 一、〇〇〇円(発表誌返)

会 費 三千円(昼食、粗品・発表誌返)

懇親宴 六千円(10月31日午後6時)

H・モナーク鳥取(申込10月15日締切)

お問い合わせ 〒689-0343 鳥取市

気高町飯里84-4 鈴木 公弘

TEL 0857-84-2886

### 第28回 鳥取県没句川柳供養大会

施主挨拶 両川 洋々 祝辞 鈴木公弘

弔 辞 竹口清信 読経 藤木大善

親族代表焼香 各川柳会会長

焼 香 参加者全員(数珠を持参)

と き 12月13日(日)午前9時受付・開場

ところ 新日本海新聞社 5F大ホール

JR鳥取駅南(駅裏) 徒歩三分

参加費 精進落しの宴 4500円(昼食・

懇親会・作品集呈)

兼 題 川柳大会のみ参加2500円

「敗者復活吟」 鈴木 公弘選

「引 導」 蔀 帆子選

「火の恋」 黒田 能子選

「なれの果て」 山下 蟹郎選

「カード」 岡崎 彰夫選

「老」 斉尾くにこ選

「冷やめし」 前田 孝子選

「肝っ玉」 後藤美恵子選

表 彰 総合上位迄(出席者優先・一句一点方式)

欠席投句 一〇〇〇円(切手可) 12月10日締切

投句先 〒680-0874 鳥取市宮長

205-45 萩原美雪 宛

主 催 川柳ふうもん吟社

後 援 鳥取県川柳作家連盟

# 柳界展望

同人の天位。

八百の轍が抱いている詩  
り 小谷 集一  
八月は六日九日十五日

森本 弘風

飢えた子の視線が胸に突き刺さる 新家 完司  
眉間の皺一本ずつにある

歴史 西出 楓楽

単線のレール a 波の響き  
西出 楓楽

○8月23日、第56回八尾市  
民川柳大会は八尾文化会館  
(プリズムホール)にて開  
催。出席130名。同人の秀句

百の手があつても父の手  
はわかる 鴨谷瑠美子

○第45回雀郎まつり川柳大  
会の第二部誌上川柳大会  
(45名参加)の同人特選句

ダンディな講師と源氏  
読破する 播本 充子

○8月29日、尼崎川柳大会  
は尼崎市総合文化センター  
で開催。出席者136名。

同人の秀句

回り道しない男のまつし  
ぐら 坊農 柳弘

その辺でよからう祖父の  
助け舟 藤井 正雄

▽御芳志御礼△

○丹後屋肇氏(同人、枚方  
市)より、夫人の池端登記  
子様の満中陰供養として寸  
志を拝受。

▼計 報▲

●吉田あずきさん(同人、  
豊中市)は21年4月名古屋  
市にて逝去。身内のみにて  
葬儀が行なわれた。享年83  
歳。追悼文89頁に掲載。

▽出 版△

○宮崎ヒサ子氏(同人、弘  
前市)は7月、百句集「流  
れつく」を発売。A5版40  
頁

▽訂正とお詫び△

8月号93頁下段2行目、作  
者正和・(宮)宣子。  
9月号73頁下段2行目、徐  
除に↓徐徐に。

▽取り消し△

札幌市

佐藤登美子

## 平成22年 本社句会 開催日程

会場：ホテルアウイーナ

開催日	開 場	締 切
1月7日(木)	13時	14時
2月9日(火)	13時	14時
3月5日(金)	13時	14時
4月7日(水)	17時	18時20分
5月7日(金)	17時	18時20分
6月7日(月)	17時	18時20分
7月7日(水)	17時	18時20分
8月6日(金)	17時	18時20分
9月7日(火)	17時	18時20分
10月9日(土)	同人総会 10時	
川柳塔まつり 句会締切 12時		
1000号記念大会 懇親会 17時		
11月5日(金)	13時	14時
12月7日(火)	13時	14時

紹介者 小沢 淳

8月号53頁上段14行目  
蛇行して川はふところ深  
くする  
を作者申し出により取り消  
します。

▽新誌友紹介△

鳥取市 池澤 大鯨

堺市 岸本 宏章

紹介者 澤井 敏治

栞花 和夫

常任理事会 出席21名。

①川柳塔85周年記念大会の  
最終確認・同人総会議案書  
の確認②一〇〇〇号記念大  
会③新年度常任理事・理事

④高野山合祀祭関連⑤六賞  
選考について⑥定例確認事  
項⑦各部報告事項⑧同人2  
名承認。次回(臨時)常任

理事会9月28日(月)13時30分

# 柳界展望

○7月5日、第42回女性川  
柳の集い(愛媛県)は県生  
活文化センターで開催。参  
加者116名。同人の特選句。

お茶を揉むリズムが母の  
指にある 黒田 茂代

○7月26日、第40回奈良新  
開川柳大会は奈良県文化会  
館にて開催。出席者180名。

同人の天位。

沢山の過去が沸沸する深  
夜 加門 萌子

君はまだ海のかげらを持  
ってるか 居谷真理子

もう一度挑んでみよう雨  
あがる 大内 朝子

○8月8日、川柳大阪八〇

○号記念川柳大会は大阪市  
立中央青少年センターで開  
催。出席者82名。

同人の天位。

八百の轍が抱いている詩  
り 小谷 集一

八月は六日九日十五日

森本 弘風

飢えた子の視線が胸に突  
き刺さる 新家 完司

眉間の皺一本ずつにある

歴史 西出 楓楽

単線のレール a 波の響き  
西出 楓楽

句会名	日時と題	会場と投句先
岬川柳会	18日(日)午後1時半締切 いじける・銀・期待	淡輪17区集会所 〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪3592 八十田洞庵
川柳 ねやがわ	18日(日)午後2時締切 スリル・煙・落ちる・自由吟	寝屋川市立総合センター 寝屋川市駅からバス 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
岸和田 川柳会	18日(日)12時締切 第59回 市民川柳大会 (詳細は本誌9月号111頁)	岸和田市立福祉総合センター 〒596-0807 岸和田市東ヶ丘町808-586 井伊東吉
東大阪市 川柳 同好会	18日(日)正午開場 第43回 市民川柳大会 (詳細は本誌9月号112頁)	東大阪市立社会教育センター3階 近鉄布施駅北長堂小学校隣 〒578-0925 東大阪市稲葉3-3-21 片岡湖風
豊中 もくせい 川柳会	19日(月)午後1時50分締切 澄む・模様・目立つ・自由吟	豊中市中央公民館 阪急曾根駅南東徒歩5分 〒561-0801 豊中市曾根西町2-8-4 江見見清
川柳 さんだ	20日(火)吟行会 ゴルフ・芝生・穴(ホール)・ 歩く・自由吟 各二句 席題なし	JR三田駅前 10時15分集合 有馬富士カントリークラブ行 〒669-1546 三田市弥生が丘5-2-4 堀 正和
川柳クラブ わたの花	23日(金)午前9時半から 祭り・番号・雑音・自由吟	八尾市生涯学習センター 〒581-0834 八尾市萱振町1-16-1-501 田邊浩三
和歌山 三川柳 幸会	24日(土)午後1時から ずばり・恋・リボン	和歌山商工会議所4F 第2会議室 〒640-8111 和歌山市神通7-17 古久保和子
川柳塔 すみよし	24日(土)午後2時半締切 値段・銀・道	住吉区民センター 南海高野線沢之町下車3分 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉3-16-8-206 鶴田遠野
はびきの 市民会 川柳	25日(日)午後2時締切 がやがや・あした・残す スタイル	羽曳野市立陵南の森公民館 近鉄高鷲駅北東徒歩10分 〒583-0882 羽曳野市高鷲8-31-11 塩満 敏
川柳 ふうも 吟社	25日(日)午後1時より それもいい・ギブアップ・孤立	鳥取駅2F シャミネホール 〒680-0872 鳥取市宮長205-45 萩原美雪
松露 川柳会	26日(月)午後7時半締切 黒・割る・雑詠	溝口五区集会所 〒689-4201 鳥取県西伯郡伯耆町溝口757-3 小西雄々
南大阪 川柳会	26日(月)午後6時から 天国・サボる・起こす・雑詠	住まい情報センター(大阪くらしの今昔館・5F) 地下鉄谷町線・堺筋線天神橋筋6丁目駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
京都 塔の会	26日(月)午後2時締切 メロメロ・渋い・轟真	ハートピア京都 〒600-8428 京都市下京区諏訪町通松原下ル 弁財天町328-202 都倉求芽

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

## 10月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 な　ら	1日(木)午後1時開場 零れる(こぼれる)・辻 スケッチ	奈良市立中部公民館4F 近鉄奈良駅④番出口 〒634-0812 橿原市今井町2-1-24-901 安土理恵
城北 川柳会	3日(土)午後1時開場 力・補う・おしゃれ	旭区老人福祉センター3F 地下鉄千林大宮③番出口 〒535-0002 大阪市旭区大宮4-10-18 神夏磯典子
富柳会	3日(土)午後1時から まさか・難しい・自由吟	富田林市中央公民館 (近鉄南大阪線富田林駅下車南へ200m) 〒584-0072 富田林市高辺台3-3-18-105 古田千華
倉吉 川柳会	3日(土)午後2時締切 祭・話す・重要	倉吉市 明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
西宮北口 川柳会	5日(月)午後1時開場 傘・勢い・かなり・自由吟	西宮北口南自治会館 阪急西宮北口駅南出口 南西へ歩200m 〒662-0841 西宮市両度町2-19-515 山本義子
川柳塔 みちのく	10日(土)午後5時締切 災害・丸出し・そはそは	弘前市桶屋町4-7 居酒屋とんぼ1階「川柳道場」 〒036-0161 平川市杉館宮元53-1 小寺花峯
川柳塔 打　吹	10日(土)午後1時から 机・立派・触れる	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光
川柳塔 まつえ	10日(土)午後2時締切 東・大物・舞う・ナツメロ	松江市雑賀町 雑賀公民館 〒690-0056 松江市雑賀町1388 安達幸子
川柳大阪	10日(土)午後1時から うっとり・熟・矛盾	地下鉄御堂筋線天王寺駅「東研修室」 〒533-0004 大阪市東淀川区小松1-18-24-14 長井善純
堺川柳会	10日(消印有効)(土) 誌　上　大　会 踊る・失う・変る・伸びる	〒593-8305 堺市西区堀上緑町2-16-3 河内天笑
川柳塔 わかやま 吟　社	11日(日)午後1時開場 脱ぐ・太鼓・ボタン・キノコ	近鉄カルチャーセンター2F JR和歌山駅前 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14 川上大輪
八尾市民 川柳会	11日(日)午後2時締切 独身・踊る・くすくす・雑詠	八尾神社内 西郷会館 〒581-0086 八尾市陽光園1-3-12-305 宮西弥生
尼崎 尾　浜 川柳会	13日(火)午後2時締切 12時・ひと言・信心・自由吟	尼崎女性センター トレビエ 阪急武庫之荘駅南へ200m 事務局 〒661-0953 尼崎市東園田町2-45-8 山田耕治
ほたる 川柳 同好会	13日(火)午後1時半締切 型・輝く・うっとり	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール 蛍池駅前ビル5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳 藤井寺	18日(日)午後2時締切 神・バナナ	藤井寺市立生涯学習センター・シュラホール3F 近鉄南大阪線藤井寺駅下車南徒歩10分 〒583-0023 藤井寺市さくら町2-2-201 高田美代子

# 編集後記

☆六賞を受賞された皆様に心よりお祝いを申し上げます。賞の名前は異なっても、夫々にお喜びは一人のことと推察します。

六賞は例年女性が優勢で、過去5年間のトータルでは男性9名、女性21名と圧倒的に女性上位になっていました。今年は男性陣が奮起して、3対3のタイになりました。男性の一員としてほっとしています。

☆最近の朝日歌壇で左記の短文を見付けました。  
「結社とは何か？」という問いに正確に答えることは難しい。短歌における結社とは「主宰者のもとに機関誌を定期的に発行する組織」というのが一般的な見解だ。主宰である歌人の歌や考え方を

に共感する歌人がそこに集い、その機関誌を作品発表の場としている。

☆この意見は川柳塔社に於いても「然り」であり、天笑生幹を中心に、麻生路郎師と川柳雑誌の衣鉢を継ぐ「川柳塔誌」を、同人誌友の作品発表を第一義とした機関誌として、弛まず守り育てて行かねばならないと思えます。

☆今月号から編集長のバトンを受け継ぎました。皆様方のご支援、協力をお願い致します。  
(尚)

◇国民が裁判官とともに刑事事件を審理する裁判員裁判が8月3日初めて東京地裁で始まった。裁判員は六人であるが、非常の場合を想定して補充裁判員三人が決定した。

◇事件は東京都足立区で五月に女性が殺害された事件である。本件については、

## ひとこと

### 初めての吟行会

二十名に満たない川柳の会であるが、地域のいきいきサロンからの助成金を貰いながら、月一回の勉強会を重ねて七月で五十回になった。初心者ばかりの集まりであるからして、外の方へ目を向けることもなく、正月にお楽しみ会をする位だったのだが、吟行をやってみようという事になった。

初体験の瞩目吟がいい勉強になったようで、作句の題材が家の中から外にもあるという認識を持つ。白根ふみさんに一枚ずつ異なる俳面を書いてもらった色紙を当日の記念にプレゼントした。  
吟行会は、鳥根の清水寺の精進料理。三重の塔の景色、料理に満足し、色紙に喜び、皆一段と仲間としての親密度が増した一日であったようである。  
(政岡日枝子)

被告は取り調べの段階から殺害を自白しており、公判では起訴事実を「間違いない」と認めた。

◇起訴事実を全面的に認めたことにより、争点は有罪か無罪かの判断から量刑の判断に移った。量刑の判断は事件の経過、殺意、動機、情状が材料となる。

◇殺人現場の写真がモニタに映し出されたとき、表情を歪め、唇を固く結ぶ女性裁判員もいたとか。

◇本件は弁護士側が控訴したがどうなることやら。(光)

□この原稿を書いている八月末の株値欄等は、金融危機を脱した感もあるが、失業率は依然として高止まり、加えて豪雨に地震の災害等、庶民の暮しは変らず厳しい。

□与野党逆転なるか、衆院選を控え、論戦、舌戦が喧

しいが、今自分に出来ることは、一票を投じる事のみ。戦争を語らぬ父は棄権せず  
榎原 修

□8月の豪雨で災害に遭われた同人と誌友のご家族には心からの見舞いを申し上げます。

□与野党逆転なるか、衆院選を控え、論戦、舌戦が喧嘩  
方の一層のご支援を宜しくお願い致します。(寛)

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

」発表(12月号)

地名

都府道市  
県  
姓雅号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようにお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201



# 檸檬抄投句用紙

「おさめる」 (10月15日締切)

12月号発表

高田美代子 選 — 共選 — 牛尾 緑良 選

B A

--	--

B A

--	--

地名

市都  
道府

姓雅号

地名

市都  
道府

姓雅号

切らないで下さい

左右に同じ句を書いて下さい



川柳塔誌新規購読申込書

年 月 日

氏名		住所	電話	紹介者
		〒 -	—	
年	年			
月	月			
から	から			
一年	半年			
9	5			
8	0			
0	0			
0	0			
円	円			

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201  
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980141298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい



## 作品募集

初歩教室 一路集 (3句) 「くどい」(3句) 1月号

檸檬抄 (2句) 「カタログ」 「まじめ」 「催か」

愛染帖 (3句) 「赤い」 「願う」 「奇跡」 「ほのぼの」 「鉢」

水煙抄 (8句) 高田美代子 共選

川柳塔 (8句) 新川上内天笑 選

12月号発表 (10月15日締切)

河内天笑 選

小岸澤幸泉 選

小本宏章 選

鈴木公弘担当 選

檸檬抄 「赤い」

一路集 「願う」「奇跡」 「ほのぼの」

初歩教室 「鉢」

## 第61回 大阪川柳大会

日時 11月14日(土) 13時 開場

場所 大阪市立中央青年センター7階  
電話 06-6943-5021

JR環状線「森之宮」・地下鉄中央線  
「森之宮」・地下鉄谷町線「谷町4丁目」

会費 1000円(発表誌呈)

宿題 締切 14時 各題2句 席題なし

「凌ぐ」板野美子 選 (川柳天守閣)

「雰囲気」西山春日子 選 (番傘川柳本社)

「気休め」籠島恵子 選 (川柳塔社)

「絞る」赤松ますみ 選 (コロキウム)

「今年の出来事」

壺内半酔 選 (川柳瓦版の会)

「喉」川上大輪 選 (川柳塔社)

「ハート」森中恵美子 選 (番傘川柳本社)

賞 各題の秀句に大阪市長賞贈呈

主催 番傘川柳本社・川柳塔社  
川柳文学コロキウム  
川柳天守閣・川柳瓦版の会

後援 大阪市

### 本社11月句会

6日(金) 午後1時から

兼題 「缶」「グルメ」「じっくり」  
「手直し」「暗示」

## 第28年度 夜市川柳募集

第5回「汁」高島啓子 選

ハガキに3句 10月末日締切

投句先 〒593-8305 堺市西区堀上緑町2-16-3  
河内天笑方 堺川柳会

定価 八百円(送料84円)

半年分 五千円(送料共)

一年分 九千八百円(同)

二〇〇九年平成二十一年十月一日発行

発行人 河内権治

編集人 穴吹尚士

印刷所 美研アーツ

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一七  
花野ビル201号室

発行所 川柳塔社

振替 〇〇九八〇四二九八四七九番

TEL 〇六六七九一三四九〇番

### 「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友(誌代半年分以上前納の定期購読者)に限り、本誌読み込みの投句用紙を使用してください。
  - (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集は川柳塔柳箋(本社事務所取り扱い)、檸檬抄は本誌読み込みの投句用紙を使用してください。
  - (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所(県・市名)を明記してください。
  - (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。
- 川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から16時までにご利用いたします。

第7回とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）

# 第33回 鳥取県川柳大会

とき 11月8日（日） 10時開場 披講 13時30分

ところ さざんか会館（鳥取市役所駅南庁舎隣）5階大会議室

鳥取市富安2丁目 鳥取駅下車 南口徒歩4分

駐車場完備 TEL 0857-29-7151

兼題と選者（各題2句・席題なし・出句締切11時半）

「スーパ―」 前 たもつ 選（大阪府）

「鏡」 小島 蘭 幸 選（広島県）

「自慢」 生駒 聖 天 選（岡山県）

「三角」 松本 文子 選（島根県）

「食」 土橋 螢 選（鳥取市）

「どっさり」 谷口 次男 選（北栄町）

「天使」 門脇 かずお 選（米子市）

表彰 鳥取県知事賞ほか

会費 2,000円（作品集・昼食呈）

欠席投句 1,000円（小為替） 10月10日〆切 用紙自由

ジュニア部門（事前投句）

「遊ぶ」（2句・無料）牧野 芳 光 選

投句先 〒689-0216 鳥取市気高町宝木15561-1113

福西 茶子 方

第33回 鳥取県川柳大会実行委員会 宛

TEL 0857-82-1314

主催 鳥取県川柳作家協会・文化団体連合会

後援 鳥取県・鳥取市・新日本海新聞社他

昭和四十一年一月九日第三種郵便物認可  
平成二十一年十一月一日発行（毎月一日発行）  
創刊大正十三年 通巻九八九号

柳塔

十月号

定価

八百

送料

八十四円

## オニザキの

# すりごま

自宅の台所で始めた  
手洗いのごま加工・販売  
から50余年。

オニザキでは、手作りの  
風味にこだわり、独自に  
開発した製法で、ごまの  
香りと味わいを最大限  
に引き出し、美味しい  
すりごまを作り続けて  
います。



株式会社 オニザキコーポレーションセルズ  
〒862-0951 熊本市上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050